

文部科学省

—多様なニーズに対応する

「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン—

《京都大学拠点》

高度がん医療を先導するがん医療人養成
最終成果・外部評価報告書(令和2、3年度)



京 都 大 学



三 重 大 学



滋 賀 医 科 大 学



大 阪 医 科 薬 科 大 学



京 都 薬 科 大 学

追悼 唐澤克之先生を偲んで

これまで、長年にわたり本学がんプロの外部評価委員を務めてくださった都立駒込病院の唐澤克之先生が2021年4月にご逝去されました。突然の訃報で、がんプロ関係者一同、悲しみに暮れました。今でも信じられない気持ちで一杯です。唐澤先生のご冥福を改めて心からお祈りいたします。

がんプロの外部評価の資料は、多岐にわたり膨大な項目の評価をお願いすることになっているのですが、唐澤先生はとても丁寧にご評価をくださるとともに鋭い御指摘をしていただき、本がんプロのアクティビティー向上に大変ご尽力いただきました。唐澤先生の御評価は、これまでのがんプロ教育に生かされ、その思いを受け継いだがんプロ学生が卒業後に臨床や研究、教育の場で活躍し、がんで苦しむ患者さんに還元してくれているものと強く信じています。唐澤先生もきっと彼らの活躍を空の上から微笑みながら見守ってくれていることでしょう。

唐澤先生は、放射線治療医としても臨床・教育・研究の面で長年ご活躍され、放射線治療分野において、非常に重要な役割を担っていたと伺っています。放射線治療は、臓器を問わず全身の癌が治療標的となりますが、そういう意味でも、臓器にとらわれない癌全般の教育に関する評価委員として最適な人材でした。唐澤先生のご活躍すべき場は、まだまだ多々あったはずなのに、それができないのは、御本人も無念だったと思いますし、我々医療界にとっても大きな損失でもあります。また、残されたご家族のご心痛も察するに余りあるものでございます。

われわれ本学がんプロ関係者は、唐澤先生から学んだことを忘れずに、これまで以上に、がんの教育、研究、臨床に邁進し、がん医療の発展に貢献していきたいと思います。

がんプロ 第Ⅲ期（平成29年－令和3年度）

事業推進責任者

京都大学大学院医学研究科 教授 武藤 学

唐澤克之先生には前期のがんプロ文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン、京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学の次代を担うがん研究者・医療人養成プランの評価委員をお願いしました。

唐澤先生は放射線治療医として、がん治療医として、日夜、最前線で多くのがん患者の治療をしておられました。患者に優しいがん治療、確実に治す治療をモットーとされ、ご高名は国内外に知れわたっておりました。急なご病気で急逝されたことには、言葉もなく今もただただ残念でなりません。

われわれのプラン、プログラムには的確に、がん診療への熱い想いが伝わってくるような、前向きな助言とポイントをついた評価をいただきました。本当に有難うございました。

駒込病院で診療はもとより様々にご一緒させていただきましたが、open-mindedで熱意と優しさに溢れる唐澤先生は、がんプロフェッショナルにとって、模範とすべき先生でした。心からの感謝を申し上げます。追悼の意を込めて黙祷を捧げます。

がんプロ 第Ⅱ期（平成24年－平成28年度）

事業推進責任者

京都大学大学院医学研究科 教授 戸井 雅和

2021年の春に、永らく京都大学拠点のがんプロ事業の評価委員をお勤めいただいた唐澤克之先生が急逝されました。唐澤先生とは、ご専門が小生と同じ放射線腫瘍学であることもあり、学会活動や共同研究で長年ご一緒させていただき大変お世話になってまいりましたので、現在も大きな喪失感を拭えずにおります。私が研究代表を務めさせていただいておりますAMED研究にも分担研究者としてご参画いただき、お亡くなりになる前日まで当教室とは普通にやり取りをいたしておりましたので、訃報に接した際には大変驚きました。

唐澤先生は、多くの領域で重要なお仕事に携わっておられましたため、放射線腫瘍学会をはじめとする多くの学会はもとより放射線治療分野や医学会全体にとりましても大変大きな喪失であります。謹んでここに、これまでのわれわれのがんプロ事業や医学界に対する長年のご貢献に対しまして深謝申し上げますとともに、心より哀悼の意を表します。

がんプロ 第Ⅲ期（平成29年－令和3年度）

京都大学コーディネーター

大学院医学研究科 教授 溝脇 尚志

文部科学省

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材
(がんプロフェッショナル)」養成プラン

《高度がん医療を先導するがん医療人養成》

最終成果・外部評価報告書

(令和2、3年度)

京 都 大 学

三 重 大 学

滋 賀 医 科 大 学

大阪医科薬科大学

京 都 薬 科 大 学

〈京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学連携〉
多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

「高度がん医療を先導するがん医療人養成」

事業推進責任者

京都大学大学院医学研究科 教授

武 藤 学



ごあいさつ

現在のわが国は、世界に類を見ない超高齢化社会を迎えるとともに生産人口の減少、少子化と社会構造が大きく変わりつつあります。一方、科学技術の進歩もめざましく、医療の分野でも新技術が次々生み出され、新しい医療の提供が様々な分野で行われるようになっていきます。わが国が今後も健全な社会を維持するためには、国民の健康長寿は必須であり、だれもが安心して暮らせるようにしなければなりません。なかでも、わが国の死因の第一位である「がん」の医療に関しては、最先端の医療技術を活用しながら、ライフステージに合わせた多様な新しいニーズに対応できる医療人の育成が求められています。

本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学において、ひとりひとりのがん患者に、より精密な医療を提供するプレジジョンメディシンを実現する「がんゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成を目指してきました。

具体的には、がんゲノム医療では、がん組織におけるゲノム変化を理解し治療に結びつけるがん薬物療法専門医の育成に加え、家族性腫瘍などのゲノム情報にも対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成。希少がん・小児がんにおいては、これまで原因が不明だった病態の解明と病態に基づいた新規医療開発ができる研究者と医療人の育成。さらに、現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージと新しいニーズに合わせたがん医療の提供が必要です。例えば、高齢者に対するがん医療、腎障害や肝障害などの合併症をもつがん患者への治療、からだに優しい低侵襲な治療（ロボット手術や高精度放射線治療など）に携わる人材育成、がんと診断された時から心身のケアを含む緩和医療を担える人材育成、などです。

5年間の成果として、このようながんの専門的教育を実践し、幅広い領域の医療人の育成とがん医療の発展に貢献し、健康な社会づくりの一躍を担ってきたと思います。また、本事業では、患者団体など市民との連携 (patient and public involvement, PPI) も実現し、人材育成の段階から市民・患者の声を生で聞く機会を得たことは、今後の人材育成において大きな財産となりました。

がん医療のニーズは高まるばかりであり、それを担う人材育成はシームレスに進めなければなりません。そのためにも、本事業がさらに発展し永続的に運営されることを切に願います。

京都大学コーディネーター

大学院医学研究科 教授

溝 脇 尚 志

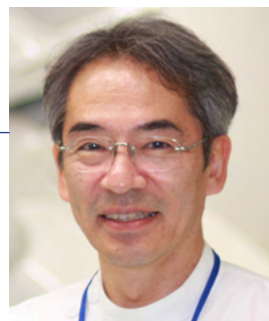


文部科学省の平成 29 年度『多彩な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』で選定された 5 大学連携による「高度がん医療を先導するがん医療人養成」の事業計画に従い、拠点校として 9 つの養成コースと 7 つのインテンシブコースを開設し、医師、薬剤師、看護師、医学物理士、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、データサイエンティストなどの多様な人材の養成を行ってまいりました。事業後半におきましては、新型コロナウイルス感染症のために教育や研修プログラムのオンライン化や変更・中止を余儀なくされたものの、本報告書に記載のごとく多くのがんプロフェッショナルを養成するとともに教育環境の整備を行うことができ、大きな成果をあげることができたと考えております。本拠点の特徴の一つである海外研修は、最後の 2 年間はコロナ禍のために中止せざるを得ませんでした。代わりに患者団体とのオンラインセミナー等を開催し、違った方面から学びの場を設けることができたことは大変有意義であったと考えます。本事業で育った人材の医療現場での大いなる活躍とがんプロ事業が引き続き継続・発展することを切に願っております。

三重大大学コーディネーター

大学院医学研究科 教授

野 本 由 人



三重大大学では、第 3 期のがんプロである「がん専門職医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランの大学院の教育コースとして、従来までの腫瘍内科専門医、放射線治療専門医、乳腺外科専門医、婦人科腫瘍専門医、がん専門薬剤師、がん看護専門看護師の養成コースに加えて、新たに、小児がん専門医の養成コースを開設しました。三重大大学医学部附属病院は小児がん拠点病院に指定されていますので、小児がんのすべてに対応した研修が可能となっています。これらの大学院コースでは、がん研究による学位の取得とともに、がん専門職の資格取得を目指した指導教育を行い、優れたリサーチマインドを持ち、ライフステージやゲノム情報に応じた個別化医療を適切に実施できる高度がん医療人の育成を進める予定です。また、インテンシブコースにおいても、ゲノム医療を推進できる医師養成コース、ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供する医師養成コース、ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる多職種人材養成コース、地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コースを開設して、講演会、セミナー形式による研修を行うことにより、地域におけるがん医療の総合的な向上を目指します。

滋賀医科大学コーディネーター

臨床腫瘍学講座 教授

醍 醐 弥太郎



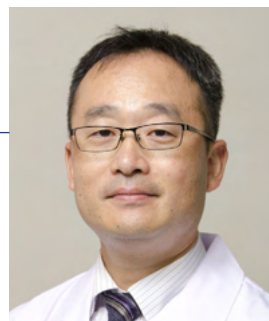
滋賀医科大学大学院医学系研究科・医学専攻では、多彩な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランにおいて、過去10年間のがんプロフェッショナル養成事業の実績と最新の社会的ニーズを踏まえ、先進的がん医療開発、がんゲノム医療、ライフステージに応じたがん集学的治療（薬物療法、外科療法、放射線療法、緩和ケア、支持療法）、小児がん治療に精通した医療人材を養成することを目的とした4つのがん専門医療人コースと3つのインテンシブコースを新たに設けました。

いずれのコースにおいても最先端の基礎・臨床腫瘍学とその学際領域を教育するとともに、がんの基礎研究からトランスレーショナルリサーチにつながる研究手法の指導と先進医療制度や医師主導治験等を通じたがん先進医療開発のOn the Job Training（OJT）を行い、標準治療から先進的医療、創薬研究までを推進して包括的・全人的がん医療を指導的立場で実践できる専門医療人材を養成します。また、行政、地域医療機関、国内外の卓越した大学院・研究機関・がん専門病院群とのネットワークや本学の特色ある教育・研究基盤を活用し、地域と世界で活躍する人材を輩出して医療、福祉の発展に貢献することを目指します。

大阪医科薬科大学コーディネーター

化学療法センター長

後 藤 昌 弘



大阪医科薬科大学では平成19年度から実施された「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」プログラム、さらに平成24年度からの「次代を担うがん研究者・医療人養成」プログラムで化学療法専門医、放射線治療医、がん手術療法専門医養成コースを設置し成果を上げてきました。今回の「高度がん医療を先導するがん医療人養成」プログラムでは、それぞれの専門医育成プログラムをさらに発展させることを目的に「ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース」、「希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース」「婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース」3つの新コースを設立しました。それぞれのコースでの養成分野は「ライフステージ」「希少がん」「ゲノム」と異なりますが、いずれもがん専門医療人の育成には欠くことのできない分野です。それぞれの領域における学位の習得とともに、領域横断的な講演会・研修会参加の機会を積極的に提供し、新たなニーズに柔軟に対応できる優れた人材を育成するとともに、国内外での短期研修・発表の機会を通して視野の広い医療人の育成を目指します。

京都薬科大学コーディネーター

病態薬科学系 臨床薬理学分野 教授

中 田 徹 男



京都薬科大学では、薬学の未来を拓く“Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた薬剤師”の育成を目指した6年制薬学教育を推進するとともに、大学院博士課程では、医療現場、企業、行政といったあらゆる医療現場においてリーダーとなる博士号を有した薬剤師を育成することを目的に教育を進めております。

本学は、「ライフステージに応じた個別化がん治療において全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース」を設けました。大学附属病院および基幹病院での連携プログラム、在宅支援診療所との連携プログラムの2つの教育プログラムを企画し、がん薬物療法の高度な専門知識と基礎的または臨床的薬学研究能力を有し、テーラーメイド医療を実践できる薬剤師の養成、および地域包括ケアシステムにおけるがん薬物治療の指導的役割を果たし、高度で先進的な在宅医療を提供できる薬剤師の養成を主眼として、進めていきます。さらに、がん専門薬剤師（指導薬剤師）を目指す大学院生や薬剤師を対象としたキャリアパスセミナーを開催し、がん医療チームの一員として、『現場で科学する』薬剤師の養成を目指します。

高度がん医療を先導するがん医療人養成

「最終成果・外部評価報告書(令和2、3年度)」

1. 外部評価実施方針について

- ・ 外部評価は、評価委員による書面評価とする。
- ・ 評価委員については、5名の委員を選任する。
- ・ 評価項目については、「申請書」(H29年7月提出)に記載した達成目標・評価指標の分析評価をするため、「事業評価ガイドライン」(H24.3.29 がんプロ養成推進委員会)を基本として評価指標の適切性や達成状況などの、事業の実施状況を把握するため独自の評価項目をする。

2. 評価項目について

「外部評価項目」 3 ～

3. 「高度がん医療を先導するがん医療人養成」について

「連携する大学」、「事業の概要」、「事業の運営体制」、
「事業の概念図」、「各大学の教育プログラム・コース」 5 ～

4. 「令和2・3年度 取組状況等」

「令和3年度 取組状況 及び 事業期間中(5年間)の達成状況」 8 ～
「令和2年度 取組状況等」

資料	1	「受入目標人数・入学者数・在学者数」令和3年度	49 ～
資料	2	「資格取得者数一覧」令和3年度	50 ～
資料	3	「がんプロ履修生調査(要望・改善点)」令和3・2年度	52 ～
資料	4	「がんに特化した講座の設置状況」令和3年度	58 ～
資料	5	「セミナー・シンポジウム等の開催状況」令和3・2年度	59 ～
資料	6	「インテンシブコース実施事業」令和3・2年度	63 ～
資料	7	「医療チームの整備体制」令和3年度	69 ～
資料	8	「がんセンターボードの体制」令和3年度	72 ～
資料	9	「プロトコル作成への関与状況」令和3・2年度	78 ～
資料	10	「国際学会・英文誌への発表一覧」令和3・2年度	82 ～
資料	11	「国内学会・雑誌等への発表一覧」令和3・2年度	91 ～
資料	12	「海外学会・シンポジウム等参加状況」令和3・2年度	101 ～
資料	13	「国内学会・シンポジウム等参加状況」令和3・2年度	105 ～
資料	14	「海外合同教育セミナー」令和2年度	116 ～
資料	15	「学生短期研修プログラム」令和3・2年度	119 ～

参考	1	「医療フォーラム」令和3・2年度	120 ～
参考	2	「がんプロ合同シンポジウム」令和3年度	122 ～

5. 評価について

「評価結果表」	123 ～
「講 評」	124 ～

6. 外部評価委員について

名古屋大学 医学部附属病院 化学療法部	部長・教授	安藤 雄一
川崎医科大学 総合医療センター	病院長・特任教授	猶本 良夫
神戸大学 医学部附属病院 薬剤部	部長・教授	矢野 育子
大阪大学 医学系研究科 保健学専攻 看護実践開発科学講座	教授	荒尾 晴恵
特定非営利法人 PanCAN Japan	理事長	眞島 喜幸

7. 評価実施日程について

令和4年 1月21日 ～ 令和4年 2月21日

外部評価項目

【教育プログラムコース】

- 1 各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み
- 2 がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか
- 3 コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか
- 4 がんに特化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況
- 5 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数
- 6 医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数
- 7 多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数
- 8 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績
- 9 コース履修者の医療チーム・カンサーボードの開催数、期間等
- 10 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績
- 11 コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数
- 12 コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数
- 13 コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数
- 14 コース履修者の国際学会等への参加者数
- 15 コース履修者が国内学会等への参加者数

【シンポジウムやセミナー等の実施】

- 16 地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数
- 17 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）
- 18 インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況

【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】

- 19 コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み
- 20 国際交流プログラムの実施数
- 21 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数

【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】

- 22 がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数
- 23 多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況
- 24 がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対する
フォローアップ研修会等の実施状況
- 25 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進

【事業の運営体制(実施、評価、連携)】

- 26 連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制
- 27 外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、
プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか
- 28 連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況
- 29 連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数
- 30 連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率
- 31 新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて
- 32 主幹大学での事業支援事務組織体制

【事業の普及】

- 33 本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか
- 34 県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて
- 35 ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み
- 36 テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、
県内の医療の質向上への取組み
- 37 がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み
- 38 がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況
- 39 新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況

「高度がん医療を先導するがん医療人養成」について

連携する大学

京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都医科大学

事業の概要

我が国は世界に類を見ない超高齢化社会を迎えるとともに生産人口の減少、少子化と社会構造が大きく変わりつつある。一方、科学技術の進歩もめざましく、医療の分野でも新技術が次々生み出されている。我が国が今後も健全な社会を維持するためにも国民の健康長寿は必須であり、中でも我が国の死因の第一位であるがん医療に関しては、最先端の医療技術を活用しながら、ライフステージに合わせた多様な新ニーズに対応できる医療人の育成が求められている。

本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都医科大学において、プレジジョンメディシンを実現する「ゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成を目指す。

ゲノム医療では、ゲノム情報を理解し治療に結びつける医療人の育成に加え、家族性腫瘍などに対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成を行う。希少がん、小児がんにおいては、病態解明および新規医療開発を担う医療人を育成する。現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療の提供が必要になってきた。特に、ロボット手術や高精度放射線治療など最先端の治療を担う人材に加え、がんの診断時から緩和医療を担える人材を育成し、幅広い領域の医療人育成とがん医療の発展に貢献するものであります。

事業の運営体制

① 実施体制

【事業推進運営委員会】連携5大学間 連携5大学事業としての企画立案・実施・評価の決定（構成員） 事業推進責任者、連携大学担当コーディネーター、事業推進運営委員会委員

【養成管理委員会等】各大学 各大学において、事業の実施に向けての現実的な取組を決定（構成員） 連携大学担当コーディネーター、コースコーディネーター、事務局担当者

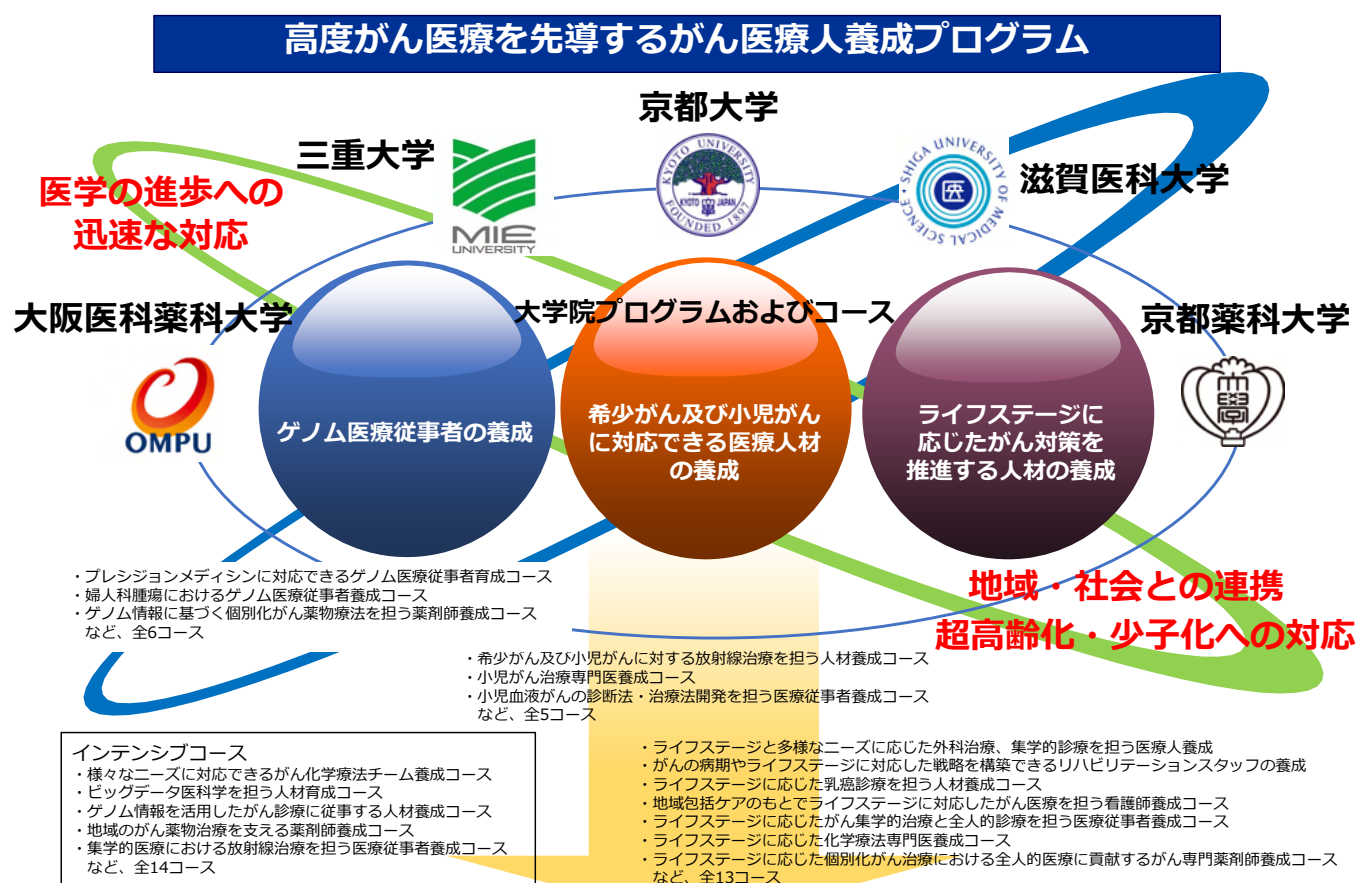
② 評価体制

【外部評価委員会】 外部有識者を評価委員として外部評価を実施し、PDAC サイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制を構築

③ 連携体制

【連携大学間】 5大学連携事業として、「5大学連携医療フォーラム」、「5大学連携海外合同教育セミナー」を毎年開催し、連携大学間の人材交流、多職種交流、国際交流を推進

【地域医療機関、民間企業等】 地域医療機関、民間企業等との連携した「シンポジウム」、「地域連携ネットワークの構築」を推進



多様なニーズに対応できるがん専門医療人の輩出と教育プログラムの確立
(医師、薬剤師、看護師、医学物理士、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、データサイエンティストなど)

各大学の教育プログラム・コース

コ ー ス 名	養成する専門分野
京都大学	
プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	ゲノム
婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	希少がん・小児がん
希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	ライフステージ
がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	ライフステージ
ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	ライフステージ
(インテンシブ・コース)	
がん免疫療法と新規分子標的薬・生物製剤治療を担う医療人育成コース (インテンシブ)	ライフステージ
高度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
家族性腫瘍(遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など)に対応できる医療人育成コース(インテンシブ)	ゲノム
ビックデータ医科学を担う人材育成コース(インテンシブ)	ゲノム
社会と交流できるがん相談支援者育成コース(インテンシブ)	ゲノム
三重大学	
婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児がん治療専門医養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	ライフステージ
ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	ライフステージ
地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	ライフステージ
(インテンシブ・コース)	
ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成 (インテンシブ)	ゲノム
ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース (インテンシブ)	ライフステージ
ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース (インテンシブ)	ライフステージ
地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース (インテンシブ)	その他
滋賀医科大学	
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	ゲノム
先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	ライフステージ
(インテンシブ・コース)	
ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース (インテンシブ)	ライフステージ
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース (インテンシブ)	ゲノム
ライフステージに応じた集学的医療における放射線治療を担う医療従事者養成コース (インテンシブ)	ライフステージ
大阪医科薬科大学	
婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	ライフステージ
京都薬科大学	
ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ

令和3年度 取組状況 及び 事業期間中(5年間)の達成状況

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等																																																																																																																			
【教育プログラムコース】																																																																																																																						
1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	(資料1)受入目標人数、入学者数・在学者人数																																																																																																																				
		事業期間中(5年間) 達成目標																																																																																																																				
		(ゲノム医療従事者の養成) 40人 (希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成) 40人 (ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成) 97人 合計 177人 を受入目標人数とする。																																																																																																																				
		<table><tr><th colspan="12">(入学者に係る達成目標・実績)</th></tr><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="2">平成29年度</th><th colspan="2">平成30年度</th><th colspan="2">令和元年度</th><th colspan="2">令和2年度</th><th colspan="2">令和3年度</th><th colspan="2">計</th></tr><tr><th>達成 目標</th><th>実績</th><th>達成 目標</th><th>実績</th><th>達成 目標</th><th>実績</th><th>達成 目標</th><th>実績</th><th>達成 目標</th><th>実績</th><th>達成 目標</th><th>実績</th></tr><tr><td>京都大学</td><td>19</td><td>19</td><td>18</td><td>22</td><td>21</td><td>30</td><td>18</td><td>17</td><td>21</td><td>23</td><td>97</td><td>111</td></tr><tr><td>三重大学</td><td>8</td><td>4</td><td>8</td><td>3</td><td>8</td><td>6</td><td>8</td><td>5</td><td>8</td><td>8</td><td>40</td><td>26</td></tr><tr><td>滋賀医科大学</td><td>4</td><td>0</td><td>4</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td><td>4</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>20</td><td>13</td></tr><tr><td>大阪医科薬科大学</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td><td>15</td><td>11</td></tr><tr><td>京都薬科大学</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>1</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>5</td><td>12</td></tr><tr><td>計</td><td>35</td><td>26</td><td>34</td><td>34</td><td>37</td><td>45</td><td>34</td><td>32</td><td>37</td><td>36</td><td>177</td><td>173</td></tr></table>		(入学者に係る達成目標・実績)												区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計		達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	京都大学	19	19	18	22	21	30	18	17	21	23	97	111	三重大学	8	4	8	3	8	6	8	5	8	8	40	26	滋賀医科大学	4	0	4	3	4	2	4	5	4	3	20	13	大阪医科薬科大学	3	2	3	2	3	3	3	3	3	1	15	11	京都薬科大学	1	1	1	4	1	4	1	2	1	1	5	12	計	35	26	34	34	37	45	34	32	37	36	177	173
		(入学者に係る達成目標・実績)																																																																																																																				
		区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計																																																																																																									
			達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績																																																																																																								
		京都大学	19	19	18	22	21	30	18	17	21	23	97	111																																																																																																								
		三重大学	8	4	8	3	8	6	8	5	8	8	40	26																																																																																																								
		滋賀医科大学	4	0	4	3	4	2	4	5	4	3	20	13																																																																																																								
大阪医科薬科大学	3	2	3	2	3	3	3	3	3	1	15	11																																																																																																										
京都薬科大学	1	1	1	4	1	4	1	2	1	1	5	12																																																																																																										
計	35	26	34	34	37	45	34	32	37	36	177	173																																																																																																										
令和3年度取組状況																																																																																																																						
拠点全体における令和3年度入学目標人数 37人 に対して、入学実績人数は 36人 であり、概ね達成した。																																																																																																																						
各大学における令和3年度取組状況																																																																																																																						
京都大学	毎年、4月上旬開催される新入生オリエンテーションにて、多様な新ニーズに対する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン『高度がん医療を先導するがん医療人材養成』の事業取組、がん教育の重要性等の概要説明を実施し、がんプロ履修生の確保に努めていたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の懸念からオリエンテーションが中止となり説明することができなかった。このため、医学研究科が全ての新入生向け配付する資料に、がんプロに係る「募集案内」、「学事要項」、「登録申請書」、事業概要の「リーフレット」を同封し、新入生に配付した。 また、各コース担当教員に4月初旬にコース登録を開始する旨をメール通知し、関連する講座の新入生にがんプロ履修登録への申請依頼をすると共に、6月開催の養成管理委員会では、令和3年度も履修登録を随時受付する旨を報告し、がんプロ履修生の獲得に努めた。これにより、受入目標人数21名に対して、入学実績人数は23名で受入目標を達成した。																																																																																																																					
三重大学	令和3年度については、入学者の確保をするために、大学院HPでの広報活動に加え、近隣の大学および病院等への募集要項送付、三重県内のがん関連の研修会、セミナー等で各コースの紹介を行った。その結果、令和3年度には婦人科腫瘍医養成コースに1名、乳癌診療を担う人材養成コースに3名、がん専門薬剤師養成コースに2名、看護師養成コースに2名の合計8名が入学した。																																																																																																																					
滋賀医科大学	令和3年度については、受入れ目標数に達するよう、各講演会・セミナーにおいて本事業及びコースの説明を行った。																																																																																																																					
大阪医科薬科大学	各コースを充足するため、WEBサイトや入試要項などによる広報活動を実施した。 ●令和3年度： ・ライフステージ応じた化学療法専門医養成コース:0名 ・婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース:1名 ・希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース:0名 という結果となり、入学者3名の充足目標は未達であるものの、継続してコース毎の取組みは維持し、次のステップにつなげたい。																																																																																																																					
京都薬科大学	大学ホームページおよび大学院パンフレット等による広報活動をはじめ、本学5～6年次生に対して、学内で大学院説明会を実施している。説明会では大学院進学の意味、「臨床腫瘍薬学」の重要性、ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース(がんプロコース)等の説明を行い、大学院進学を促進している。 令和3年度は受入目標人数を達成した。 令和3年度は、受入目標1人に対して入学実績人数は1人。																																																																																																																					
2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	(資料2)資格取得者数一覧																																																																																																																				
		事業期間中(5年間) 達成目標																																																																																																																				
		専門医資格取得者数 100名を目標とする。																																																																																																																				
		<table><tr><th colspan="12">(専門医資格取得者に係る達成目標・実績)</th></tr><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="2">平成29年度</th><th colspan="2">平成30年度</th><th colspan="2">令和元年度</th><th colspan="2">令和2年度</th><th colspan="2">令和3年度</th><th colspan="2">計</th></tr><tr><th>達成 目標</th><th>実績</th><th>達成 目標</th><th>実績</th><th>達成 目標</th><th>実績</th><th>達成 目標</th><th>実績</th><th>達成 目標</th><th>実績</th><th>達成 目標</th><th>実績</th></tr><tr><td>京都大学</td><td rowspan="4">20</td><td>23</td><td rowspan="4">20</td><td>18</td><td rowspan="4">20</td><td>19</td><td rowspan="4">20</td><td>23</td><td rowspan="4">20</td><td>7</td><td rowspan="4">100</td><td>90</td></tr><tr><td>三重大学</td><td>6</td><td>6</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>27</td></tr><tr><td>滋賀医科大学</td><td>1</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>1</td><td>14</td></tr><tr><td>大阪医科薬科大学</td><td>1</td><td>2</td><td>8</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td></tr><tr><td>計</td><td>20</td><td>31</td><td>20</td><td>31</td><td>20</td><td>35</td><td>20</td><td>32</td><td>20</td><td>13</td><td>100</td><td>142</td></tr></table>		(専門医資格取得者に係る達成目標・実績)												区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計		達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	京都大学	20	23	20	18	20	19	20	23	20	7	100	90	三重大学	6	6	4	6	5	27	滋賀医科大学	1	5	4	3	1	14	大阪医科薬科大学	1	2	8	0	0	11	計	20	31	20	31	20	35	20	32	20	13	100	142																															
		(専門医資格取得者に係る達成目標・実績)																																																																																																																				
		区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計																																																																																																									
			達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績	達成 目標	実績																																																																																																								
		京都大学	20	23	20	18	20	19	20	23	20	7	100	90																																																																																																								
		三重大学		6		6		4		6		5		27																																																																																																								
		滋賀医科大学		1		5		4		3		1		14																																																																																																								
大阪医科薬科大学	1	2		8		0		0		11																																																																																																												
計	20	31	20	31	20	35	20	32	20	13	100	142																																																																																																										
令和3年度取組状況																																																																																																																						
拠点全体として、13名の専門医の資格を取得した。																																																																																																																						
各大学における令和3年度取組状況																																																																																																																						
京都大学	引き続き、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた講習会を行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し専門医取得指導を行っている。																																																																																																																					

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
			(プレジジョンメディスンがんゲノム医療コース) がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の取得に必須となる造血器、呼吸器、消化管、乳房領域の症例について、本人の希望に応じてフレキシブルに経験が積めるよう各診療科と連携を取り研修を行っている。またがん薬物療法専門医取得や更新に必要な臨床腫瘍学会の教育セミナー及び学会参加を支援し、受験のために必須となる病歴要約については専門医資格を有する指導教官が添削・指導を行っている。令和3年度は3名ががん薬物療法専門医試験を受検している。学会発表や論文執筆に関しても積極的に指導を行っており、令和3年度で3本の論文執筆指導を行い、国際学術誌に投稿している。
			(婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 当コース参加の大学院生には、婦人科腫瘍専門医取得にむけて、大学病院において悪性症例の高度な診断や治療経験を積めるように、病理診断科、腫瘍内科、遺伝子診療部と連携を取りながら研修をサポートしている。また、悪性腫瘍やがんゲノム、がん遺伝子に関する学会発表や論文執筆の指導を行っており、さらにクリニカルシーケンスカンファレンスやゲノム関連研究会への積極的な参加を促している。
			(小児・AYA世代コース) 大学病院に入院中の血液腫瘍患者に関して、①毎日の病棟カンファレンス、②週1回の血液腫瘍カンファレンスを通じてon the job trainingを行なっている。加えて、週1回の整形外科合同カンファレンス、月1回の脳外科放射線治療部合同カンファレンス、隔月の血液内科移植カンファレンスを通じて、他科との診療連携をおこなっている。担当症例を中心に、学会発表と論文執筆を義務付けており、これらの指導を通じて小児・血液がん専門医取得へサポートを行なっている。
			(希少がん及び小児がんに対する放射線治療・医学物理士養成コース) 早期に各臓器の放射線治療に関する勉強会(放射線治療科モニタリングレクチャー)、水曜日10時-12時に医学物理に関する特別授業を行い、放射線治療専門医試験・医学物理士認定試験に向けて理解を深めるような取り組みを行っている。日本放射線腫瘍学会、日本医学物理学会、欧州放射線腫瘍学会、欧州放射線学会、米国放射線腫瘍学会、米国医学物理学会など国内外の放射線治療・医学物理関係の学会での参加・発表の機会を設けただけでなく(オンライン)、日本癌治療学会、日本肺癌学会、日本泌尿器腫瘍学会など、各臓器別のがん治療の知識取得に役立つ学会での発表の機会を設けた(オンライン＋一部オンサイト)。また、医学物理士取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援した。
			(外科治療・集学的診療コース) 領域別、疾患別、診断治療法ごとの各種専門医資格の取得に向けて、必要な経験、特に症例経験の集積等に十分配慮し、研修プログラムと勉強会をWEB上にて実施した。
			(リハビリテーションスタッフコース) 現時点では理学療法士、作業療法士における専門制度は存在しないが、がんのリハビリテーション研修会や緩和ケア研修会に参加し専門知識の向上を行っている。
			(がん専門薬剤師養成コース) 毎年、日本医療薬学会がん専門薬剤師・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師・日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師の認定講習会を行うなど、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行っている。今年度は9月4日、5日にWeb開催形式で、「第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム」を実施し、期間内で265名の参加があった。またプログラムの企画として、開催中に日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師の認定講習会(参加者55名)および日本緩和薬物療法認定薬剤師 認定講習会(参加者78名)も実施した。さらに、がんプロ後援セミナーや勉強会などを企画し、がんプロ履修生が最新のがん薬物療法に関する知識を習得できるよう取り組んでいる。R3年度は8月5日(参加者77名)および8月26日(参加者84名)に京都市内にて開催し、多くのがんプロ履修生も参加した。さらに、症例検討会を定期的に開催し、最新の文献紹介を通してがん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識を習得するとともに、臨床現場で活躍する薬剤師や医師と討議する機会を定期的に設けている。
			(緩和ケアコース) 「身体症状のアセスメントとマネジメント」、「精神症状のアセスメントとマネジメント」、「緩和ケアにおける学際的アプローチ」に関する講義を系統的に行った。関連学会への参加・発表や論文執筆の支援を行った。また、緩和ケアの知識取得に役立つ教育セミナーや研修会への参加を積極的に支援した。
		三重大学	各コースのコーディネーターが責任を持って、研修カリキュラムに従った、コース履修者の指導・教育を行っており、受験に必要な各領域の受け持ち患者数が確保できるように、適切な患者の割り当てを行った。また、専門医取得のための学会主催の教育セミナーに参加するための支援を積極的に行った。さらに、大学内で開催する専門医取得に有用ながん治療セミナーは、がんプロ推奨セミナーとして、大学院の単位取得の対象セミナーとして認定した。看護師養成コースでは、三重専門看護師会と協働しCNSコース修了生をフォローアップしている。ここでは、CNS認定のための準備や、継続的な教育を行い、がんプロ大学院修了後も継続して学ぶ仕組みを創っている。
		滋賀医科大学	履修案内において、それぞれのコースにおいて取得が見込まれる学会資格等の概要、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス(入学前・在学中・修了後)を掲載している。また、医師・医療スタッフ等を対象にがん専門医療人の育成に向けたセミナーを、令和3年度は実施済を含めて5回開催予定である。
		大阪医科薬科大学	専門知識向上に向けた取組として、外部講師を招いて年1回2名による講演会を行い、取得支援を行っている。
		京都薬科大学	「がん専門薬剤師」認定を受けるために、資格取得へ向けた指導を行っている。2021年10月16日には第4回「がん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナー」を開催した。がんプロコース履修を修了した大学院生1名ががん専門薬剤師の資格を取得した。
3		コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか	(資料3)がんプロ履修生調査(要望・改善点)
		京都大学	令和3年度取組状況 引き続き、コース履修者の満足度を満たす取り組みとして、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行った。またセミナー、シンポジウムでも都度アンケート調査をおこなった結果、同様のがんプロ事業の継続と同様のセミナー等を望むとの回答が多く寄せられている。

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
			(プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) 京都大学病院が主催するエキスパートパネル(毎週火曜17時半～)への見学参加を積極的に受け入れている。
			(婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 婦人科腫瘍における研究指導を行い、その成果報告のために、国内外の学会発表と論文作成の指導を行っている。さらに、婦人科腫瘍専門医取得のために、手術指導、症例カンファレンスを行っている。 また、がんゲノム医療への理解のために、クリニカルシークエンスカンファレンスやがん遺伝関連カンファレンスや勉強会へ参加しやすいような環境整備をした
			(小児・AYA世代コース) 臨床においては小児・血液がん専門医取得に向けた症例の経験と学会発表、論文作成を指導している。研究においては、希望に沿った研究テーマを設定し、毎週のミニカンファレンス、月1回の研究カンファレンスで研究指導を行っている。
			(希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 希望に添った研究テーマ、国内、国外学会における研究発表機会の提供し各学会の放射線治療セミナーへの参加を促した。講座内での定期的な進捗報告会の開催を行った。
			(医学物理士養成コース) 履修者の希望に添った研究テーマを設定し、研究発表機会の提供した。放射線腫瘍医コースと連携し、講座内での定期的な進捗報告会の開催し、放射線腫瘍学・医学物理学教員らのコメントをフィードバックした。
			(外科治療・集学的診療コース) オンラインでの学会、研究会、海外研修等への参加を積極的に推進、最先端の研究を遂行できるように環境を整備、産学連携研究にも参加させている。
			(リハビリテーションスタッフコース) 月2回ゼミを行う事で研究、臨床、がんサバイバーに対する社会活動に関する指導を行い、安全で、専門的な知識を持った研究活動、臨床活動、社会活動を促した。これらの内容を学会発表、他大学での授業で行うなどのアウトリーチ、教育活動を行った。
			(がん専門薬剤師養成コース) 現場における問題点を発見し、自分で解決するための能力を向上させるために、がんプロ大学院生1人1人にリバース・トランスレーショナルリサーチを目指した研究テーマを持たせ、そうした活動を通して医師および薬剤師と積極的に討議する機会を設けている。学会参加・発表やがんプロ協賛セミナーへの参加を通して、がんプロ大学院生のがん薬物療法および関連領域における知識や研究能力のスキルアップのための機会を積極的に設けている。R3年度はコロナ禍の影響で国際学会への参加は見送ったが、がんプロ履修生が国内の学会にて研究成果の発表を行い(医療薬学フォーラム2021/第29回クリニカルファーマシーシンポジウム、2021年7月24-25日(web)、第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム、2021年9月4-5日(Web))、臨床家ならびに研究者との意見交換を行った。 さらに知識や技能の習得および問題点を把握するために、がんプロ大学院生と指導教員や病院薬剤師が常に情報交換できる環境を整備している。新たに抗がん剤副作用の発症機序解明、バイオマーカーの探索・臨床研究における有用性の実証、抗がん剤の副作用低減薬の探索を行い、多数の国際誌などにその成果を発表した。 【英語原著論文】 1. Cancer Res, 81, 2207-2219, (2021). 2. Neuropharmacology, 188, 108514, (2021). 3. BMJ Open 11, e041543, (2021). 4. PloS one 16(10), e0258601, (2021). 【日本語総説】 1. 図解 分子メカニズムから理解する婦人科がん薬物療法(金原出版)、70巻12号
			(緩和ケアコース) 定期的なミーティングを行い、情報交換、研究計画の進行状況の確認・支援を行っている。
		三重大学	他大学の講義を、e-learnigで受講可能とし、毎月、病院全体で開催されるTumor Boardや、がん関連診療科で開催されるがん医療についての講演会やセミナーをがんプロ推奨セミナーに認定し、臨床的なスキルを身につける教育を積極的に行っている。また、手術ビデオなどのe-learnig教材も作成し、いつでも受講できるよう満足度を満たすための取り組みを継続して行った。 また、看護師養成コースの講義では、非常勤講師として、全国的に活躍されている看護実践者・研究者、がん看護専門看護師を招いた講義をおこない、大学院セミナーとしても他専攻大学院生に公開した。
		滋賀医科大学	・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・がんプロ主催のシンポジウムおよび国内・国際学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果について第三者の評価を受ける機会を設け履修意欲の向上に努めている。 ・コース履修者がより能動的に学び、考察できるよう演習・実習形式の科目を設けている。 ・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・多様ながん医療の動向に対応するインテンシブコース主催セミナーを、令和3年度は実施済を含めて13回開催予定である。 ・次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。
		大阪医科薬科大学	各コースカンファレンスや症例検討会において、履修生に対して個別で指導行っている。
		京都薬科大学	教育研究環境整備に努めるほか、指導教員とがんプロコース履修学生の意見交換会を定期的を実施している。

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
	4	がんに特化した講座(平成24年度以降の新設講座)の活動状況	(資料4)がんに特化した講座の設置状況
			令和3年度取組状況 がんに特化した講座の設置については、平成24年度に京都大学、三重大学、滋賀医科大学の3大学が設置し、令和元年度には大阪医科薬科大学が設置して、活発な教育・研究を推進している。 各大学における令和3年度取組状況 京都大学 平成24年9月に当初計画どおり、「腫瘍薬物治療学講座(分野)」を設置した。本講座は、アカデミアにおけるがんセンターの機能的運用の支援を行うとともに 1) 専門的かつ先進的ながん診療の実践と教育 2) 治験・臨床試験などの臨床開発の実践と教育 3) がんに関連する基礎研究 4) 基礎研究を臨床に応用するTranslational Oncology 5) 次世代の医療開発に繋げるキャンサーバイオバンクおよびがんクリニカルシーケンス事業等を展開し、専門的な教育を推進している。 三重大学 平成24年5月に「放射線腫瘍学講座」を設置し、放射線治療医の育成および診療・研究に取り組んでいる。放射線腫瘍医養成コースにはこれまで8名の入学がある。附属病院において放射線治療および先進医療開発に取り組むとともに、地域病院と連携して放射線治療の啓蒙をはかるためにセミナーや市民公開講座を開催した。 滋賀医科大学 平成24年10月に、大学の正規講座として「臨床腫瘍学講座」が設置され、腫瘍学講義を学部および大学院で担当している。また、附属病院腫瘍内科および腫瘍センターを運営し、がん診療活動と先進医療開発に従事している。さらに、地域病院と連携したセミナーや市民公開講座等を複数回実施している。また、同講座より滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」の改定や「滋賀県がん対策の推進に関する条例」の策定・推進に引き続き取り組んでいる。臨床腫瘍学講座を設置し、附属病院腫瘍内科、腫瘍センター、緩和ケアセンターおよび大学附属先端がん研究センターを統括し、がん拠点病院、がんゲノム医療連携病院、滋賀県がん診療連携協議会および滋賀県がん対策推進協議会の運営を行うとともに、がんプロ事業コーディネートと統括を行っている。 ・教授1名、講師1名、特任講師4名、特任助教1名(臨床腫瘍学講座・腫瘍内科および腫瘍センター)を配置し、活発な教育研究活動を実施している。 大阪医科薬科大学 令和元年8月に放射線医学教室を「放射線診断学教室」と「放射線腫瘍学教室」に発展的に改組し、個別の教室として教授を配置し開設した。「放射線腫瘍学教室」は、がんの放射線治療を中心に診療、研究、教育を実施している。研究テーマとして ・膀胱癌の進達診断とバルーン閉塞下動脈内抗がん剤注入法(BOAI) ・頭頸部癌、脳腫瘍に対する強度変調放射線治療(IMRT)を用いた集学的治療 ・早期肺癌に対する定位放射線治療 ・乳癌に対する短期照射 ・前立腺癌に対する強度変調放射線治療(IMRT) ・各種臓器に対する小線源治療 ・再発悪性髄膜腫に対するBNCT(ホウ素中性子捕捉療法)の臨床治験が挙げられる。 また、「放射線腫瘍学教室」は、附属病院に設置された「がん医療総合センター」と連携しており、同センターが開催する患者様とのセミナーや市民公開講座の運営支援を行う。
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況
			(資料6)インテンシブコース実施事業 令和3年度取組状況 教員の指導技術向上等のため、教育研究者、看護師等を含めた医療関係者、がんプロ履修生を参加対象者としてフォーラム・シンポジウム、特別講演を実施している。また、インテンシブコースにおいては、自大学教職員だけでなく、他大学教職員も含めて、指導技術向上、医療技術向上のため、「専門薬剤師研修」等を開催している。上記以外にも各コース毎に、週1回程度の合同カンファレンスを行い、教員の指導技術、医療技術の向上に取り組むと共に、がん医療に関するセミナー、講演会等に積極的に参加した。なお、令和3年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念からセミナー等をオンサイト開催ではなく、主にオンライン開催に変更し開催している。 京都大学 引き続き、教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントへの取り組みとして、講演会、セミナー、研修会等を主にオンライン開催し、また、各疾患別の症例カンファレンス、キャンサーボードの実施、さらに特定の病態に特化した疾患横断的な診療ボードを設置し積極的にFDIに取り組んだ。 (プレジジョンメディスンがんゲノム医療コース) これまでprecision medicine研究の国際コンソーシアムであるworld innovative networking (WIN) が開催する国際学会に年一回参加していたが、コロナ禍の影響で国際学会への参加が難しくなっている。国内外の学会はweb開催が主流となっており、これらの学会への参加・発表を積極的に支援している。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 当教員が積極的に指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本産科婦人科学会にて開催される、指導医講習会に参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索する。 ①毎週の病理カンファレンス(婦人科腫瘍医と病理医)、 ②毎週の画像カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線診断医)、 ③毎週の放射線治療カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線治療医、6名参加)を行っている。また症例に応じ、2週に1度程度、 ④外科カンファレンスや、⑤泌尿器科カンファレンスに婦人科腫瘍医も参加して症例検討会を行うとともにFDIに取り組んでいる。 ⑥クリニカルシーケンスカンファレンスにて最新のゲノム医学知識、情報を更新している。

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
			(小児・AYA世代コース) ①毎朝の症例検討カンファレンス ②毎週の小児血液がんカンファレンス、骨軟部腫瘍カンファレンス ③1～2ヶ月に1回の脳腫瘍カンファレンス、造血細胞移植カンファレンス、病理カンファレンス、小児外科カンファレンス ④全国組織である日本小児がん研究グループや関連学会における発表や委員会活動 以上を通して、FDIに取り組んでいる。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) スタッフ全員が指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会にて開催される、研修指導者講習会に教員医師が全員参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索している。 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃癌/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファレンス、膀胱癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移カンファレンス・各ユニットカンファレンス・カンファレンスへの参画を行っている。 (外科治療・集学的診療コース) がんプロ履修生や教員の発表や情報収集をサポートした。また海外の最先端研究者を招き勉強会を実施している。 ・毎週水曜日症例カンファレンス ・林慎一教授/東北大学「ホルモン受容体陽性乳癌細胞のシグナル伝達—HER系とのinteraction」30名 2021.4.28 ・上方乳癌研究会(5/22)40名 (学内、学外) ・第32回KBCCC レギュラー会議(5/22)約50名 (学内、学外) ・三宅可奈江特定助教/京都大学放射線科「乳房専用PETの潮流: レキシコンによる読影標準化」30名 2021.8.18 ・第77回京滋乳癌研究会(9/4)43名 ・第33回KBCCC レギュラー会議(9/4)多数 ・Matthew J. Ellis (bcm.edu) Molecular Cancer Medicine/垣内 伸之京都大学 白眉センター 特定准教授/講演 がんの分子医学セミナー 48名 2021.10.15 ・Best of SABCS Kyoto, 2022 1/8-1/9(開催予定) また第29回日本乳癌学会学術総会(バーチャル)、第80回日本癌学会学術総会(バーチャル)など発表をサポート (医学物理士養成コース) ①放射線腫瘍医、診療放射線技師、看護師、医学物理士合同の症例検討会(約30名)に毎週3日参加し、放射線治療の臨床の現状把握及び課題の抽出を行っている。この検討会にはがんプロ学生も参加している。 ②医学物理士に認定されている教員を対象に、今後資格更新の際に必須となる学会主催の教育セミナーおよび学会やシンポジウムへの参加のサポートを行った。 日本医学物理学会:3名 日本放射線腫瘍学会:3名 米国医学物理学会:3名 アジア・オセアニア医学物理学会(AOCMP):2名 (リハビリテーションスタッフコース) リハビリテーション医学会、緩和ケア学会、理学療法学会、作業療法学会に研究成果の発表を行うと共に最新の情報を入手し、ゼミ活動の際の指導に用いている。また学部講義においてもがんサバイバー、AYAに関する講義を行い、次の世代の人材育成もを行っている。 (がん専門薬剤師養成コース) 指導教員は指導能力向上のために講演会・セミナー(ex. 2021年8月5日 2021年度 第1回 京大病院 病診薬連携セミナー 連携充実加算に関する研修会・Web開催:参加者77名、2021年8月26日 こうやっている! 地域薬学ケア専門薬剤師制度の研修・Web開催:参加者84名、2021年9月4日～5日 第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム・Web開催:参加者265名、2022年2月3日開催予定 第5回 2025年に向けた薬剤師業務研究会)の主催・参加を通して、FDIに取り組んでいる。 また、がんプロ学生についても、勉強会やセミナーへの参加を励行し、がん薬物療法における必要な専門知識やがん薬物療法についての最新知見の習得を目的として、学会などに参加して情報交換を行うことを支援している(医療薬学フォーラム2021/第29回クリニカルファーマーシンポジウム、2021年7月24-25日(web)、第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム、2021年9月4-5日(Web))。さらに、勉強会にて、指導教員、がんプロ学生およびがん専門薬剤師で月に数回ディスカッションする機会を設けている。日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2021(Web開催、2021年10月30～11月7日)、第43回 日本疼痛学会(Web開催、2021年12月10～11日)などでもシンポジウムや招待講演を行った。 (緩和ケアコース) 指導教員は指導能力向上のために日本緩和医療学会と日本ホスピス緩和ケア協会に参加したり、緩和ケア研修会を主催したりして、FDIに取り組んだ。また、欧州緩和ケア学会と国際Whole Person Care学会などに参加して最新の知見と収集し、教育・研修法について学び、それを履修者に還元するようにした。さらにオンライン緩和ケアセミナーを定期的に開催して、情報交換の機会を持った。
		三重大学	医師コースでは、病院全体のTumor Board(月1回)、骨転移合同カンファレンス(月1回)のほかに、緩和ケアセミナー(年3回)、緩和ケアフォーラップ研修会(年1回)、早期からの緩和ケアを考える会(年1回)、がんチーム医療研究会(年1回)、医科歯科連携人材養成研修会(年1回)などの診療科横断的なセミナー、研修会を定期的に開催するとともに、各がん関連診療科で開催される症例検討会、カンファレンスやがん医療に関するセミナー、講演会に積極的に参加し、教員の指導能力向上のためのFDIに取り組んだ。 大学院生が、専攻分野以外の教員の研究を知る機会とするために、教員の研究活動を発表する機会を設け、それらの研究についての質疑を通して、大学院生と教員が軟談する「研究交流会」を継続して行っている
		滋賀医科大学	各教員等の知識修得の機会として、病診連携フォーラムや勉強会を開催 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・腫瘍センター講演会 令和3年度 3回(12月15日、2月16日、3月実施予定:開催日未定)

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
		大阪医科薬科大学	・三島医療圏がん診療ネットワーク協議会：(1/27)開催予定 ・三島圏域がん研究会：参加者324名<3回開催> ・第8回市民公開セミナー(11/20)：参加者38名 (市民公開講座は、コロナ禍により開催せず)
		京都薬科大学	教員の指導能力向上等のため、主にごんブロッコース履修学生を参加対象者として、外部招へい講師による特別講義を実施している。 1)「第4回 ごん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナー」(2021年10月16日、参加者121名) 2)「第6回 薬学研究者養成セミナー」(2021年10月26日～11月3日、参加者71名)
	6	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備数 (資料7)医療チームの整備体制	
		京都大学	令和3年度取組状況 放射線治療科は、治療に関わるすべての癌腫においてカンファレンスを開催し、チーム医療を実践している。 化学療法においても、がん種ごとに関連する専門診療科、腫瘍内科、薬剤部、看護部など診療科、職種横断的なカンファレンスを開催するとともにチーム医療を実践している。 緩和ケアに関しても、緩和ケア専門医、精神科医、看護師、薬剤師、作業療法士、メディカルソーシャルワーカーによる多職種専門の緩和ケアチームを形成し、チーム医療を実践している。
		三重大学	緩和ケアセンター内に緩和ケアチームが整備されており、センター長、常勤の身体症状に携わる医師を配置し、精神科医、麻酔科医、鍼灸師、薬剤師、看護師、作業療法士、臨床心理士等も緩和ケアチームに加わり、多角的な緩和ケア活動が可能な体制になっている。 三重大学に入院して治療を行うがん患者に対して、歯科口腔外科医、歯科衛生士のチームによる治療前の口腔ケアの実施を行う体制を整備している。 また、令和元年度に新たに設置したAYAがんチームも継続している。
		滋賀医科大学	附属病院腫瘍内科、腫瘍センター化学療法室・緩和ケアチーム、化学療法チームを設置して運用している。
		大阪医科薬科大学	多職種による緩和チームの編成かなされてあり、定例会を開催している。
	7	多職種が共同で参加できるがんサードボード等の整備数 (資料8)がんサードボードの体制	
		京都大学	令和3年度取組状況 がんを専門とする内科医・外科医・放射線治療医、あるいは病理診断医・放射線診断医・各種医療スタッフの多職種が参集する「がんサードボードの体制」(資料8)のとおり、①脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス～②胆道がんユニットカンファレンスが活動している。
		三重大学	大学病院内の多職種(医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー等)の参加が可能なTumor Board、また、骨転移合同カンファレンスを開催した。
		滋賀医科大学	・毎月1回、全科がんサードボードを開催している。できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。
		大阪医科薬科大学	緩和ケアチーム、がん相談支援センターも多職種で編成されて活動している。
	8	医療チーム、がんサードボードの質の向上のための取組実績 (資料8)がんサードボードの体制	
		京都大学	令和3年度取組状況 医療チーム、がんサードボードの質の向上のための取組として、診療科横断的ながんサードボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的な合同カンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている。
			(プレジジョンメディスンがんゲノム医療コース) がんゲノムプロファイリング検査の結果について臨床的解釈を行う多職種のメンバーで構成されるエキスパートパネルを毎週火曜17時半から実施している。当院は連携病院18施設を抱えており、毎回20例近くの症例について検討を行い、連携病院へエキバネレポートの返却を行っている。また本コース履修の大学院生の参加も推奨している。 令和3年度はゲノム医療の円滑な運用を目指し、連携病院の医師、看護師、薬剤師を対象としたがんチーム医療研修を計4回開催した。京大病院では、関連する診療科が合同で症例検討を行うユニット制を各癌種ごとに開催して、治療方針を決めているが、各ユニットには大学院生も参加している。 外来化学療法を安全かつ円滑に運用するため、医師、看護師、薬剤師、SWなどによる診療科・職種横断的なチーム医療会議を毎月開催し、安全管理、実務管理を行っている。また、京大がんセンターにおけるがん薬物治療を安全に実施するため、がん診療に関連するすべての診療科、薬剤部、看護部、医療安全部、病理部、緩和ケアチームなどによる会議を隔月で開催し、医療の質の向上に努めている。
			(婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 医療チーム：医師と看護師により、婦人科がん患者に関するカンファレンスを行っている。また緩和医療の方針について、メディカルソーシャルワーカーも含めたカンファレンスを行っている。 がんサードボード：婦人科医、病理医による病理カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線診断医による画像カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線治療医による放射線治療カンファレンスを行っている。婦人科医、腫瘍内科医による化学療法、ゲノム医療についての治療カンファレンスを行っている。
			(婦人科コース) 毎週水曜日に研修医・修練医・医員・スタッフによる臨床カンファレンスおよび画像カンファレンスを行い、診療の質の向上に取り組んでいる。がんブロッコース生には積極的にカンファレンスにて出席・発言するように指導している。
			(小児・AYA世代コース) 成人各科ならびに院外の小児科、多職種とのカンファレンスを通じ、多様性を維持し、質の向上を図っている。参加する職種は小児科医のほか、整形外科医、脳外科医、放射線治療医、病理診断医、血液内科医、小児外科医、看護師、保育士、MSW、移植コーディネーターなど。

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
			(希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース)
			脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンスをはじめ、各がん診療ユニットの診療、カンファレンスを通じて、単科だけの診療方針でなく、multidisciplinaryな診療方針について検討する機会を提供している。がんプロセス生には積極的にカンファレンスにて発言するように指導し、主体的に放射線治療科の方針を決定する能力を養成する。
			(外科治療・集学的診療コース)
			専門の異なる各種の専門家が一同に会するように設定するとともに、国内外の他大学、がん診療専門施設の医療チームを訪問、ボードの見学、意見交換を実施、また、雑誌、学会等のカンサーボードへの参加を推進している。
			(I)ハビリテーションスタッフコース)
			各履修者の研究分野に応じて京大病院のがん診療カンファレンス等(がんサポートチームのカンファレンス等)に参加。
			(がん専門薬剤師養成コース)
			該当なし
			(緩和ケアコース)
			緩和ケアチーム依頼を受けた事例検討会を週1回開催し、医師、看護師、薬剤師、MSWなどによる多職種横断的なアセスメントとケアの実践を行い、質の向上を目指している。
			(医学物理士養成コース)
			放射線治療装置の品質管理を定期的に実施し、その結果を3カ月に1度開催される放射線治療品質管理委員会で報告している。
		三重大学	毎月1回開催される、がんセンターの各部門のリーダーと三重県健康福祉部の担当で構成されるリーダー会議で、緩和ケアチーム、口腔ケアチームの活動状況やTumor Board、骨転移合同カンファレンスの運営状況が報告され、質の向上に向けた協議を行っている。また、緩和ケアチームの定例会が毎月1回開催され、活動内容についての問題点を把握し、解決に向けての協議を行った。
		滋賀医科大学	・全科がんサポーターボードを行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多面から質の高い検討ができるように心がけている。
		大阪医科薬科大学	緩和ケアチームの定例会が毎週開催されている。がん相談支援センターも多職種で編成されて活動している。
9	コース履修者の医療チーム・がんサポーターボードの開催数、期間等	(資料8)がんサポーターボードの体制	
	京都大学		令和3年度取組状況
			実施件数 670件 各コースにおいては、多くの合同カンファレンス等の取り組みが行なわれている。
			(プレジジョンメディスンがんゲノム医療コース)
			エキスパートパネル(腫瘍内科、病理医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、バイオインフォマティシャン、担当医、薬剤師、看護師、検査技師、週1回)、 胃癌・GISTユニット(腫瘍内科医、消化管外科、隔週)、 大腸がんユニット(腫瘍内科医、消化管外科、放射線治療科、肝胆膵移植外科、毎週1回)、 膵がんユニット((腫瘍内科医、消化器内科、肝胆膵移植外科、放射線診断科、放射線治療科、毎週1回)、 食道がんユニット((腫瘍内科医、消化管外科、放射線治療科、頭頸部外科、毎週1回)、 胆道ユニット((腫瘍内科医、肝胆膵移植外科、消化器内科、放射線治療科、毎週1回)、 原発不明がん・希少がんユニット(腫瘍内科、血液内科、病理診断科、放射線診断科など、隔週)、 NETユニット(腫瘍内科、消化管外科、肝胆膵外科、放射線診断科、病理診断科、内分泌・糖尿病科、など、隔週) メラノーマユニット(腫瘍内科、皮膚科、月1回)
			(婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース)
			医師と看護師によるカンファレンス:毎週1回月曜日午後。緩和医療の方針についてのカンファレンス:適時(2週間に1回程度)。がんサポーターボード:病理カンファレンス毎週1回(月の朝)。画像カンファレンス毎週1回(水曜日の夕方)。放射線治療カンファレンス毎週1回(金曜日の夕方)。以上を行っている。
			(小児・AYA世代コース)
			①全症例検討カンファレンス (小児科血液グループ、毎朝) ②小児血液がんカンファレンス(小児科血液グループ、毎週火曜日) ③骨軟部腫瘍カンファレンス(小児科血液グループ、整形外科腫瘍グループ、毎週木曜) ④小児脳腫瘍カンファレンス(小児科血液グループ、脳外科腫瘍グループ、放射線診断科、毎月火曜) ④造血細胞移植カンファレンス(小児科血液グループ、血液内科、隔月火曜日) ⑤病理カンファレンス(小児科血液グループ、病理診断科、隔月金曜) ⑥関連病院症例検討会(小児科血液腫瘍グループ、毎月木曜) ⑦CAR-Tミーティング(国内小児科キムリア参加全施設、毎月水曜) ⑧病棟Dr.Nsカンファレンス(小児科血液グループ医師、病棟看護師、移植コーディネーター、毎週火曜日)

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
			(希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス(毎週火曜日)、頭頸部癌ユニットカンファレンス(毎週木曜日)、食道癌ユニットカンファレンス(毎週水曜日)、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス(毎週木曜日)、乳癌ユニットカンファレンス(毎週水曜日)、膀胱癌ユニットカンファレンス(毎週金曜日)、大腸癌ユニットカンファレンス(毎週火曜日)、前立腺癌ユニットカンファレンス(毎週水曜日)、小児癌ユニットカンファレンス(毎月1回火曜日)、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス(不定期)、血液腫瘍カンファレンス(隔週火曜日)、骨転移カンファレンス(第3火曜日)等、各ユニットカンファレンス・カンサードへの参画 具体的には、各疾患の初診の段階で放射線治療科医師が主科の先生方と共に診察を行い、当日に治療方針について検討し、適正な治療方針を決定する。 この制度により症例の治療方針が速やかに適切に決定され、時間的なロスがなくなり、医療者、患者ともに大きなメリットがある。 また、治療中、治療後においても主科の先生方とともに外来をすることで、治療方針の変更、再発のチェック、再発後の救済治療などの方針決定も速やかにされるため、京大病院のがん治療の質向上のために貢献している。
			(医学物理士養成コース) 医療チーム：放射線治療医師・診療放射線技師・医学物理士・看護師で定期的に会議を開き、診療の問題点、安全が確保されているか、などを討論する会議を設けている。 病院主催の放射線品質管理委員会に参加しており、医学物理士が副議長を務めている。 カンサード：放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士カンファレンス(毎週月曜日)、放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)、医学物理グループカンファレンス(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)、放射線治療症例検討会(毎週火・木・金曜日)
			(外科治療・集学的診療コース) 症例カンファレンス 研究カンファレンス など各専門性に応じて開催
			(リハビリテーションスタッフコース) 履修者が専門性に応じて、京都大学医学部附属病院で実際のがん患者のリハビリテーション治療に携わらせ、各がん種ごとの合同カンファレンスやがんサポートチームなどのカンファレンスに参加させることで、チーム医療の実践を学ばせる。
			(がん専門薬剤師養成コース) 病棟薬剤師が実践するがん患者の疼痛・精神科領域における薬物療法の症例カンファレンスに参加(1回/月で開催)
			(緩和ケアコース) 緩和ケアチームのカンファレンスを毎週1回に開催。
	三重大学		病院全体のTumor Board(月1回)、骨転移合同カンファレンス(月1回)、乳癌治療検討会(月2回)、婦人科カンファレンス(毎週1回)、耳鼻科カンファレンス(毎週1回)、脳神経外科カンファレンス(毎週1回)、呼吸器カンファレンス(月2回)、食道カンファレンス(月1回)、産婦人科症例検討会(毎週1回)、歯科口腔外科・放射線治療科合同カンファレンス(毎週1回)、乳癌疾患術後検討会(月2回)、血液腫瘍内科全体症例検討会(毎週1回)、血液内科検討会(毎週1回)、乳房再建検討会(月1回)、がんゲノム医療エキスパートパネル、小児がん検討会(週1回)、小児造血細胞移植カンファレンス(週2回)、小児造血細胞移植前カンファレンス(不定期)を開催している。
	滋賀医科大学		・附属病院腫瘍センターに教育・研修部門を設置し、コース履修者の医療チーム、カンサードへの参加を許可している。令和3年度は、月1回程度、コース履修者が参加予定している。
	大阪医科薬科大学		がん医療総合センターとして月2回程度開催している。
	10	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	
			令和3年度取組状況
	京都大学		令和2年度提出件数 【院内がん登録】 国立がん研究センターへ 3,219件 【全国がん登録】 京都府医師会へ 3,219件 【院内がん登録データを利用した各種QI研究に参加】 ・『小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた小児がん医療提供体制整備に関する研究』代表者 松本 公一(国立成育医療研究センター) ・『QI症例研究』国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策情報センターがん臨床情報部
	三重大学		三重大学がんセンター内で、院内がん登録と三重県の全国がん登録業務を実施しており、令和元年度の院内がん登録件数は2,765件で、データはすべて全国がん登録データと連携して活用された。
	滋賀医科大学		・附属病院腫瘍センターにがん登録部門を設置している。 ・がん登録の活用に向けた手順書を設けて院内活用を図っている。
	大阪医科薬科大学		・令和2(2020)年度 :3168件

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等																																																																																																						
	11	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数	(資料9)プロトコル作成への関与状況																																																																																																						
			令和3年度取組状況 (プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数) <table><tr><th>区分</th><th>H29 実績</th><th>H30 実績</th><th>R元 実績</th><th>R2 実績</th><th>R3 実績</th><th>計</th></tr><tr><td>京都大学</td><td>28</td><td>25</td><td>45</td><td>19</td><td>17</td><td>134</td></tr><tr><td>三重大学</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>7</td><td>9</td></tr><tr><td>滋賀医科大学</td><td>7</td><td>4</td><td>10</td><td>1</td><td>3</td><td>25</td></tr><tr><td>大阪医科薬科大学</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>37</td><td>30</td><td>56</td><td>20</td><td>27</td><td>170</td></tr></table>	区分	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	計	京都大学	28	25	45	19	17	134	三重大学	1	0	1	0	7	9	滋賀医科大学	7	4	10	1	3	25	大阪医科薬科大学	1	1	0	0	0	2	計	37	30	56	20	27	170																																																												
	区分	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	計																																																																																																		
	京都大学	28	25	45	19	17	134																																																																																																		
	三重大学	1	0	1	0	7	9																																																																																																		
	滋賀医科大学	7	4	10	1	3	25																																																																																																		
	大阪医科薬科大学	1	1	0	0	0	2																																																																																																		
	計	37	30	56	20	27	170																																																																																																		
	京都大学	17件のがんプロ履修生によるプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与が達成され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。																																																																																																							
	三重大学	7件																																																																																																							
滋賀医科大学	・令和3年度関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数:3件																																																																																																								
大阪医科薬科大学	該当なし																																																																																																								
12	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	(資料10)国際学会、英文誌への発表一覧																																																																																																							
		令和3年度取組状況 がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えており、がん医療のグローバル展開を見据え、英文による教育研究成果発表を推進している。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。 拠点全体として、58件の国際学会、英文誌への発表をした。																																																																																																							
		(国際学会等、英文誌への成果発表) <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="2">平成29年度</th><th colspan="2">平成30年度</th><th colspan="2">令和元年度</th><th colspan="2">令和2年度</th><th colspan="2">令和3年度</th><th colspan="2">計</th></tr><tr><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th></tr><tr><td>京都大学</td><td>28</td><td>41</td><td>23</td><td>34</td><td>26</td><td>39</td><td>22</td><td>29</td><td>21</td><td>17</td><td>120</td><td>160</td></tr><tr><td>三重大学</td><td>1</td><td>6</td><td>2</td><td>0</td><td>4</td><td>2</td><td>9</td><td>1</td><td>9</td><td>2</td><td>25</td><td>11</td></tr><tr><td>滋賀医科大学</td><td>4</td><td>4</td><td>10</td><td>5</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>0</td><td>5</td><td>0</td><td>27</td><td>13</td></tr><tr><td>大阪医科薬科大学</td><td>0</td><td>7</td><td>9</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td><td>7</td></tr><tr><td>京都薬科大学</td><td>1</td><td>2</td><td>6</td><td>0</td><td>5</td><td>3</td><td>7</td><td>8</td><td>0</td><td>4</td><td>19</td><td>17</td></tr><tr><td>計</td><td>34</td><td>60</td><td>50</td><td>39</td><td>40</td><td>48</td><td>43</td><td>38</td><td>35</td><td>23</td><td>202</td><td>208</td></tr></table>	区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計		学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	京都大学	28	41	23	34	26	39	22	29	21	17	120	160	三重大学	1	6	2	0	4	2	9	1	9	2	25	11	滋賀医科大学	4	4	10	5	3	4	5	0	5	0	27	13	大阪医科薬科大学	0	7	9	0	2	0	0	0	0	0	11	7	京都薬科大学	1	2	6	0	5	3	7	8	0	4	19	17	計	34	60	50	39	40	48	43	38	35	23	202	208
区分	平成29年度			平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計																																																																																													
	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表																																																																																													
京都大学	28	41	23	34	26	39	22	29	21	17	120	160																																																																																													
三重大学	1	6	2	0	4	2	9	1	9	2	25	11																																																																																													
滋賀医科大学	4	4	10	5	3	4	5	0	5	0	27	13																																																																																													
大阪医科薬科大学	0	7	9	0	2	0	0	0	0	0	11	7																																																																																													
京都薬科大学	1	2	6	0	5	3	7	8	0	4	19	17																																																																																													
計	34	60	50	39	40	48	43	38	35	23	202	208																																																																																													
		各大学における令和3年度取組状況																																																																																																							
京都大学	「がんプロ養成管理委員会」において、履修生自身が海外において研究成果を発表させるため、国際学会への積極的な参加を推進するための支援経費を予算化し発表推進への体制を構築している。(コロナの影響によりオンライン参加) 英文研究発表件数は、38件(学会発表 21件、論文発表 17件) うち筆頭発表数は、22件(学会発表 16件、論文発表 6件)																																																																																																								
三重大学	11件																																																																																																								
滋賀医科大学	令和3年度国際学会、英文誌への研究論文発表数:5件																																																																																																								
大阪医科薬科大学	該当なし																																																																																																								
京都薬科大学	各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、国際学会・英文誌への成果発表を促している。 令和3年度国際学会研究発表 0件(うち筆頭 0件) 令和3年度英文誌への論文発表 4件(うち筆頭 2件)																																																																																																								
13	コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	(資料11)国内学会、雑誌等への発表一覧																																																																																																							
		令和3年度取組状況 がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えており、国内学会・和文誌での研究発表を推進させるため、指導教員の推薦の下、論文名、国内学会・和文誌名、研究成果等を記載させ、国内学会・和文誌への発表を推し進めている。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。 拠点全体として、82件の国内学会、和文誌への発表があった。																																																																																																							
		(国内学会等、和文誌への成果発表) <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="2">平成29年度</th><th colspan="2">平成30年度</th><th colspan="2">令和元年度</th><th colspan="2">令和2年度</th><th colspan="2">令和3年度</th><th colspan="2">計</th></tr><tr><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th><th>学会 発表</th><th>論文 発表</th></tr><tr><td>京都大学</td><td>51</td><td>5</td><td>56</td><td>5</td><td>79</td><td>5</td><td>36</td><td>5</td><td>34</td><td>2</td><td>256</td><td>22</td></tr><tr><td>三重大学</td><td>36</td><td>0</td><td>26</td><td>1</td><td>29</td><td>0</td><td>4</td><td>7</td><td>7</td><td>13</td><td>102</td><td>21</td></tr><tr><td>滋賀医科大学</td><td>23</td><td>1</td><td>17</td><td>0</td><td>19</td><td>0</td><td>8</td><td>0</td><td>11</td><td>0</td><td>78</td><td>1</td></tr><tr><td>大阪医科薬科大学</td><td>46</td><td>1</td><td>9</td><td>1</td><td>15</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>70</td><td>2</td></tr><tr><td>京都薬科大学</td><td>1</td><td>0</td><td>6</td><td>0</td><td>43</td><td>0</td><td>24</td><td>0</td><td>15</td><td>0</td><td>89</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>157</td><td>7</td><td>114</td><td>7</td><td>185</td><td>5</td><td>72</td><td>12</td><td>67</td><td>15</td><td>595</td><td>46</td></tr></table>	区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計		学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	京都大学	51	5	56	5	79	5	36	5	34	2	256	22	三重大学	36	0	26	1	29	0	4	7	7	13	102	21	滋賀医科大学	23	1	17	0	19	0	8	0	11	0	78	1	大阪医科薬科大学	46	1	9	1	15	0	0	0	0	0	70	2	京都薬科大学	1	0	6	0	43	0	24	0	15	0	89	0	計	157	7	114	7	185	5	72	12	67	15	595	46
区分	平成29年度			平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計																																																																																													
	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表	学会 発表	論文 発表																																																																																													
京都大学	51	5	56	5	79	5	36	5	34	2	256	22																																																																																													
三重大学	36	0	26	1	29	0	4	7	7	13	102	21																																																																																													
滋賀医科大学	23	1	17	0	19	0	8	0	11	0	78	1																																																																																													
大阪医科薬科大学	46	1	9	1	15	0	0	0	0	0	70	2																																																																																													
京都薬科大学	1	0	6	0	43	0	24	0	15	0	89	0																																																																																													
計	157	7	114	7	185	5	72	12	67	15	595	46																																																																																													

区分

項目番号

達成目標
(評価項目)

令和3年度 取組状況等

京都大学

「がんプロ養成管理委員会」において、履修生自身が国内において研究成果を発表させるため、国内学会への積極的な参加を推進するための支援経費を予算化し発表推進への体制を構築している。
研究発表件数は、36件（学会発表 34件、論文発表 2件）
うち筆頭発表数は、29件（学会発表 27件、論文発表 2件）

三重大学

学会への研究論文の発表については、各コースのコーディネーターが責任を持って、指導・教育に当たり、学会発表を積極的に奨励支援を行った。
国内学会発表件数 令和3年13件

滋賀医科大学

令和3年度国内学会、和文誌への研究論文発表数：11件

大阪医科薬科大学

該当なし

京都薬科大学

各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促している。
令和3年度国内学会研究会発表 15件（うち筆頭 8件）

14

コース履修者の国際学会等への参加者数

(資料12)海外学会・シンポジウム等参加状況

令和3年度取組状況

がん医療のグローバル展開を見据え、国際学会等へのがんプロ履修生の参加を推進しており、拠点全体として 11名の参加者となった。
なお、令和2年2月末からの新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、渡航自粛等措置を行い学会等へのオンサイト参加を取りやめ、オンライン参加に限定した。

各大学における令和3年度取組状況

「がんプロ養成管理委員会」において、海外腫瘍学会に参加するだけでなく英文研究発表・研究情報交換を前提とする学生に対して支援経費を予算化し経費支援する体制を構築している。
今年度は、医療従事者として新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、旅費支援は中止し、オンライン開催の学会参加費のみを支援とした。
国際学会等への参加者数は、10名

京都大学

国際学会等への参加者数 1人

三重大学

国際学会等への参加者数 0人

滋賀医科大学

国際学会等への参加者数 0人

大阪医科薬科大学

令和3年度国際学会等への参加者数 0名

京都薬科大学

国際学会等への参加者数 0人

15

コース履修者が国内学会等への参加者数

(資料13)国内学会・シンポジウム等参加状況

令和3年度取組状況

がんプロ履修生が専門的知識を収集できる国内腫瘍学会への積極的な学会参加を推進しており、拠点全体として 128名の参加者となった。
なお、令和2年2月末からの新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、国内の移動自粛等措置を行い学会等へのオンサイト参加を取りやめ、オンライン参加を推奨した。

各大学における令和3年度取組状況

「がんプロ養成管理委員会」において、国内学会へのがんプロ履修生の積極的な参加と研究成果発表を推進するための支援経費を予算化し助成支援する体制を構築している。
今年度は、医療従事者として新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、旅費支援は中止し、オンライン開催の学会参加費のみを支援とした。
国内学会等への参加者数は、55名

京都大学

令和3年7人

三重大学

令和3年度国内学会等への参加者数：19名

滋賀医科大学

令和3年度国内学会等への参加者数：8名

大阪医科薬科大学

令和3年度国内学会等への参加者数 12名

京都薬科大学

令和3年度国内学会等への参加者数 12名

【シンポジウムやセミナー等の実施】

16

地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数

(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況

(資料6)インテンシブコース実施事業

事業期間中(5年間) 達成目標

本事業に係るシンポジウムやセミナー等の実施数303件、参加者15,065人を目標とする。

(セミナーシンポジウム開催に係る達成目標・実績)

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計	
	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者
達成目標	49	2,605	64	3,175	64	3,175	63	3,055	63	3,055	303	15,065
実績	89	7,166	118	7,885	127	7,204	73	7,277	51	5,543	458	35,075
京都大学	14	947	22	1,498	15	894	9	349	16	1,508	76	5,196
三重大学	41	3,177	51	2,762	56	2,981	43	2,107	19	921	210	11,948
滋賀医科大学	25	2,222	30	2,389	30	1,384	15	4,003	5	1,856	105	11,854
大阪医科薬科大学	6	517	8	633	12	833	2	206	3	233	31	2,422
京都薬科大学	3	303	7	603	14	1,112	4	612	8	1,025	458	3,655

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
		京都大学	令和3年度取組状況 各種団体(地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、患者団体等)との連携した取り組みを推進した。 各大学における令和3年度取組状況 京都大学では、地域貢献のためインテンシブコース(7コース)事業を運用しており、さらに地域医療機関等の各種団体とも連携した取組みを推進している。 なお、今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の懸念を踏まえ、主にオンラインでの取り組みとした。 また初めての試みで各大学が持つがん患者会等のネットワークを活用し、がん患者や家族の視点からの声を吸い上げ、包括的なケアに向けてのがん医療教育を考えていくため、がん患者、患者家族、患者会、医療従事者、がんプロ履修生、その他関係者での「がんプロ合同シンポジウム」(令和3年7月10日)を実施した。 (プレジジョンメディスンがんゲノム医療コース) 令和3年度は以下の日程でがんゲノム医療の円滑な運営を目指したチーム医療研修をwebで実施した。 第1回 5月28日(金)15:00～17:00 4施設 23人 第2回 7月28日(水)15:00～17:00 3施設 14人 第3回 9月29日(水)15:00～17:00 3施設 7人 第4回 11月24日(水)15:00～17:00 1施設 7人 (参加人数は 医師・看護師・薬剤師の合計) (小児・AYA世代コース) 令和3年 7/17 京都地区小児血液腫瘍研究会 令和3年 11/10 小児がん拠点病院看護研修(Web配信) (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース) 市中病院を対象に、より有用性の高い知識と技術の修得を目的としたセミナーを2回開催し、参加施設に対して最新の知見に基づいた放射線治療法を提示した。 令和3年10月30日 第51回京都放射線腫瘍研究会 131名 (外科治療・集学的診療コース) ・Best of SABCS Kyoto, 2021 1/8-9, 2021開催予定 (リハビリテーションスタッフコース) AYAの会のメンバーと協力して医療ケアに対するニーズ調査質問紙の開発を行った。 (緩和ケアコース) 緩和ケア病棟のある医療機関の医師と事例検討を月2回に行っている。 (がん専門薬剤師養成コース) 2021年8月5日 2021年度 第1回 京大病院 病診薬連携セミナー 連携充実加算に関する研修会・Web開催:参加者77名、2021年8月26日 こうやっている! 地域薬学ケア専門薬剤師制度の研修・Web開催:参加者84名、2021年9月4日～5日 第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム・Web開催:参加者265名を開催した。 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた。R3年度は2022年2月3日に「第4回 地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」(インテンシブコース)を企画している。 また、連携大学とのつながりを強化することを目的として、年次活動の進捗報告と情報交換、ならびにがんプロ履修生に対する「がん患者に寄り添った薬剤師養成の教育」のあり方について議論を行う予定である。R3年度は、2022年2月12日にWeb形式で開催する予定である。
			三重大学 実施なし
			滋賀医科大学 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 令和3年度 ・第22回滋賀県がん薬物療法conference(R3/7/7:20名) ・第4回滋賀医大「連携充実加算」算定に伴う講演会・婦人科がん・保険薬局事例紹介(R3/10/7:94名) ・日本医療薬学会地域薬学ケア専門薬剤師(がん)研修生として滋賀県内の保険薬局に勤務する薬剤師3名を受け入れた(R3/4～R8/3までの予定) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和3年度 ・「第1回がんを学ぼう市民公開講座(R3/9/1～9/30)」/109名 ・「第2回がんを学ぼう市民公開講座(R3/10/1～10/31)」/76名 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R3/11/1～11/30)」 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R3/12/1～12/28)」 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R4/1/4～1/31)」 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R4/2/1～2/28)」 ・「第15回東近江圏がん診療公開講座(R2/9/18～11/21)」 ・「第16回東近江圏がん診療公開講座(R4/1/21～3/21)」 ・腫瘍センター講演会 第1回(R3/12/15) ・腫瘍センター講演会 第2回(R4/2/16) ・腫瘍センター講演会 第3回(開催日未定)

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等																																																																																																																																
		大阪医科薬科大学	・三島医療圏がん診療ネットワーク協議会：(1/27)開催予定 ・三島圏域がん研究会：参加者324名＜3回開催＞ ・第8回市民公開セミナー(11/20)：参加者38名 (市民公開講座は、コロナ禍により開催せず)																																																																																																																																
		京都薬科大学	1)第4回 がん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナー(2021年10月16日、参加者121名、後援：京都府薬剤師会) 2)地域在宅医療プログラムとして、多職種連携の中で指導的役割を担えるがん専門薬剤師育成を目指し履修学生を派遣した。(2021年10月18日～10月22日、渡辺西賀茂診療所に2名) 3)リレー・フォー・ライフ・ジャパン2021 京都(2021年10月23日、参加者23名、日本対がん協会事業に協力・がんプロ後援) 4)第7回 市民公開講座「乳がん」(2021年11月18日～11月24日、参加者324名、後援：京都市、京都府薬剤師会)																																																																																																																																
	17	社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数) (資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況																																																																																																																																	
		令和3年度取組状況 社会への情報発信の取組事業として、別添資料「セミナー・シンポジウム等の開催状況(令和3年度)」のとおり推進した。 なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、セミナー等を主にオンライン開催にて取り組んだ。																																																																																																																																	
		<table><tr><th colspan="12">(セミナー・シンポジウム開催に係る達成目標・実績)</th></tr><tr><th>区分</th><th colspan="2">平成29年度</th><th colspan="2">平成30年度</th><th colspan="2">令和元年度</th><th colspan="2">令和2年度</th><th colspan="2">令和3年度</th><th colspan="2">計</th></tr><tr><th></th><th>開催数</th><th>参加者</th><th>開催数</th><th>参加者</th><th>開催数</th><th>参加者</th><th>開催数</th><th>参加者</th><th>開催数</th><th>参加者</th><th>開催数</th><th>参加者</th></tr><tr><td>達成目標</td><td>49</td><td>2,605</td><td>64</td><td>3,175</td><td>64</td><td>3,175</td><td>63</td><td>3,055</td><td>63</td><td>3,055</td><td>303</td><td>15,065</td></tr><tr><td>実績</td><td>89</td><td>7,166</td><td>118</td><td>7,885</td><td>127</td><td>7,204</td><td>73</td><td>7,277</td><td>51</td><td>5,543</td><td>458</td><td>35,075</td></tr><tr><td>京都大学</td><td>14</td><td>947</td><td>22</td><td>1,498</td><td>15</td><td>894</td><td>9</td><td>349</td><td>16</td><td>1,508</td><td>76</td><td>5,196</td></tr><tr><td>三重大学</td><td>41</td><td>3,177</td><td>51</td><td>2,762</td><td>56</td><td>2,981</td><td>43</td><td>2,107</td><td>19</td><td>921</td><td>210</td><td>11,948</td></tr><tr><td>滋賀医科大学</td><td>25</td><td>2,222</td><td>30</td><td>2,389</td><td>30</td><td>1,384</td><td>15</td><td>4,003</td><td>5</td><td>1,856</td><td>105</td><td>11,854</td></tr><tr><td>大阪医科薬科大学</td><td>6</td><td>517</td><td>8</td><td>633</td><td>12</td><td>833</td><td>2</td><td>206</td><td>3</td><td>233</td><td>31</td><td>2,422</td></tr><tr><td>京都薬科大学</td><td>3</td><td>303</td><td>7</td><td>603</td><td>14</td><td>1,112</td><td>4</td><td>612</td><td>8</td><td>1,025</td><td>458</td><td>3,655</td></tr></table>		(セミナー・シンポジウム開催に係る達成目標・実績)												区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計			開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	達成目標	49	2,605	64	3,175	64	3,175	63	3,055	63	3,055	303	15,065	実績	89	7,166	118	7,885	127	7,204	73	7,277	51	5,543	458	35,075	京都大学	14	947	22	1,498	15	894	9	349	16	1,508	76	5,196	三重大学	41	3,177	51	2,762	56	2,981	43	2,107	19	921	210	11,948	滋賀医科大学	25	2,222	30	2,389	30	1,384	15	4,003	5	1,856	105	11,854	大阪医科薬科大学	6	517	8	633	12	833	2	206	3	233	31	2,422	京都薬科大学	3	303	7	603	14	1,112	4	612	8	1,025	458
(セミナー・シンポジウム開催に係る達成目標・実績)																																																																																																																																			
区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計																																																																																																																								
	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者	開催数	参加者																																																																																																																							
達成目標	49	2,605	64	3,175	64	3,175	63	3,055	63	3,055	303	15,065																																																																																																																							
実績	89	7,166	118	7,885	127	7,204	73	7,277	51	5,543	458	35,075																																																																																																																							
京都大学	14	947	22	1,498	15	894	9	349	16	1,508	76	5,196																																																																																																																							
三重大学	41	3,177	51	2,762	56	2,981	43	2,107	19	921	210	11,948																																																																																																																							
滋賀医科大学	25	2,222	30	2,389	30	1,384	15	4,003	5	1,856	105	11,854																																																																																																																							
大阪医科薬科大学	6	517	8	633	12	833	2	206	3	233	31	2,422																																																																																																																							
京都薬科大学	3	303	7	603	14	1,112	4	612	8	1,025	458	3,655																																																																																																																							
		各大学における令和3年度取組状況 京都大学 京都大学では、社会への情報発信として市民公開講座や各種セミナー等をオンライン開催にて積極的に取り組んでいる。																																																																																																																																	
		(プレジジョンメディスンがんゲノム医療コース) 2021年4月15日～6月30日にweb開催された日本臨床腫瘍学会の市民公開講座に本学から医師1名が講師として参加した。 2021/12/5(日)に開催された近畿・中国・四国地区がんゲノム医療コーディネーター研修会は当院から講師やファシリテーターとして医師6名、看護師1名、認定遺伝カウンセラー1名が参加した。																																																																																																																																	
		(外科治療・集学的診療コース) 開催なし																																																																																																																																	
		(小児・AYA世代コース) 該当なし																																																																																																																																	
		(がん専門薬剤師養成コース) 2021年8月5日 2021年度 第1回 京大病院 病診薬連携セミナー 連携充実加算に関する研修会・Web開催：参加者77名、 2021年8月26日 こうやっている！地域薬学ケア専門薬剤師制度の研修・Web開催：参加者84名、 2021年9月4日～5日 第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム・Web開催：参加者265名を開催した。 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院・薬局・在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた。R3年度は2022年2月3日に「第4回 地域がん医療における病院・薬局・在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」(インテンシブコース)を企画している。 さらに、日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2021(Web開催、2021年10月30～11月7日)、 第43回 日本疼痛学会(Web開催、2021年12月10～11日) 第5回 Consider the Opioid(Web開催、2022年1月19日予定)シンポジウムや招待講演を行い、がんプロ活動の一部について紹介した。																																																																																																																																	
		(リハビリテーションスタッフコース) AYA weekにAYAメンバーの健康増進と一般の方々への啓発を行う予定である。																																																																																																																																	
		三重大学	2021年11月14日にパープルリボン・セミナーをWEB形式で開催した。																																																																																																																																
		滋賀医科大学	【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和3年度 ・「第1回がんを学ぼう市民公開講座(R3/9/1～9/30)」/109名 ・「第2回がんを学ぼう市民公開講座(R3/10/1～10/31)」/76名 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R3/11/1～11/30)」 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R3/12/1～12/28)」 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R4/1/4～1/31)」 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R4/2/1～2/28)」 ・「第15回東近江圏がん診療公開講座(R2/9/18～11/21)」 ・「第16回東近江圏がん診療公開講座(R4/1/21～3/21)」																																																																																																																																
		大阪医科薬科大学	・第8回市民公開セミナー(11/20)：参加者38名 (市民公開講座は、コロナ禍により開催せず)																																																																																																																																

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等																																																																													
		京都薬科大学	1)第7回 市民公開講座「乳がん」(2021年11月18日～11月24日、参加者324名、後援:京都市、京都府薬剤師会)																																																																													
	18	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	(資料6) インテンシブコース実施事業																																																																													
			令和3年度取組状況																																																																													
			(インセンティブコースに係る受入者達成目標・実績)																																																																													
			<table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="2">平成29年度</th><th colspan="2">平成30年度</th><th colspan="2">令和元年度</th><th colspan="2">令和2年度</th><th colspan="2">令和3年度</th><th colspan="2">計</th></tr><tr><th>達成目標</th><th>実績</th><th>達成目標</th><th>実績</th><th>達成目標</th><th>実績</th><th>達成目標</th><th>実績</th><th>達成目標</th><th>実績</th><th>達成目標</th><th>実績</th></tr><tr><td>京都大学</td><td>352</td><td>396</td><td>357</td><td>520</td><td>357</td><td>360</td><td>357</td><td>1,051</td><td>357</td><td>792</td><td>1,780</td><td>3,119</td></tr><tr><td>三重大学</td><td>35</td><td>120</td><td>56</td><td>87</td><td>56</td><td>106</td><td>56</td><td>126</td><td>56</td><td>580</td><td>259</td><td>1,019</td></tr><tr><td>滋賀医科大学</td><td>15</td><td>341</td><td>15</td><td>500</td><td>15</td><td>463</td><td>15</td><td>348</td><td>15</td><td>128</td><td>75</td><td>1,780</td></tr><tr><td>計</td><td>402</td><td>857</td><td>428</td><td>1107</td><td>428</td><td>929</td><td>428</td><td>1525</td><td>428</td><td>1500</td><td>2114</td><td>5918</td></tr></table>	区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計		達成目標	実績	達成目標	実績	達成目標	実績	達成目標	実績	達成目標	実績	達成目標	実績	京都大学	352	396	357	520	357	360	357	1,051	357	792	1,780	3,119	三重大学	35	120	56	87	56	106	56	126	56	580	259	1,019	滋賀医科大学	15	341	15	500	15	463	15	348	15	128	75	1,780	計	402	857	428	1107	428	929	428	1525	428	1500	2114	5918
区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		計																																																																					
	達成目標	実績	達成目標	実績	達成目標	実績	達成目標	実績	達成目標	実績	達成目標	実績																																																																				
京都大学	352	396	357	520	357	360	357	1,051	357	792	1,780	3,119																																																																				
三重大学	35	120	56	87	56	106	56	126	56	580	259	1,019																																																																				
滋賀医科大学	15	341	15	500	15	463	15	348	15	128	75	1,780																																																																				
計	402	857	428	1107	428	929	428	1525	428	1500	2114	5918																																																																				
		京都大学	インテンシブ事業を活用して、継続して地域医療への貢献を推進している。 ・がんチーム医療研修を4回実施 (令和3年5月28日、令和3年7月28日、令和3年9月29日、令和3年11月24日) ・京都放射線腫瘍研究会プログラムを年1回実施 (令和3年10月30日) ・がん専門薬剤師養成研修を実施予定 (令和4年2月3日) ・家族性腫瘍(遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など)に対応できる医療人育成コースに関するセミナー等を 3 回実施 (令和3年5月28日、令和3年6月25日、令和3年11月12日) を実施、順調に地域医療の貢献を進捗させた。																																																																													
		三重大学	該当なし																																																																													
		滋賀医科大学	【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 令和3年度 ・第22回滋賀県がん薬物療法conference(R3/7/7:20名) ・第4回滋賀医大「連携充実加算」算定に伴う講演会・婦人科がん・保険薬局事例紹介(R3/10/7:94名) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和3年度 ・「第1回がんを学ぼう市民公開講座(R3/9/1～9/30)」/109名 ・「第2回がんを学ぼう市民公開講座(R3/10/1～10/31)」/76名 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R3/11/1～11/30)」 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R3/12/1～12/28)」 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R4/1/4～1/31)」 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R4/2/1～2/28)」 ・「第15回東近江圏がん診療公開講座(R2/9/18～11/21)」 ・「第16回東近江圏がん診療公開講座(R4/1/21～3/21)」 ・腫瘍センター講演会 第1回(R3/12/15) ・腫瘍センター講演会 第2回(R4/2/16) ・腫瘍センター講演会 第3回(開催日未定)																																																																													

【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】																								
19	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	令和3年度取組状況 コロナのため実際に海外派遣はできなかったが、各大学で渡航可能となった場合の支援体制は整えられている。 各大学における令和3年度取組状況 京都大学 コロナのため海外派遣はできなかったが、海外での学会参加のための旅費の支援体制は整っている。またオンラインで国際学会に参加する学生に対して参加費の支援を行った。 三重大学 コース履修者の海外での研修の場合は経済的サポートを積極的に行い、現地へ留学中の研究者と活発な交流を行えるように手配する体制を整備した。 滋賀医科大学 該当なし 大阪医科薬科大学 学内の国際交流基金の整備を行っており、コース履修生が海外への先進的医療・研究機関等へ研修を希望した場合に、教育研究上必要と認められると、一部助成を行うことができる。 京都薬科大学 サポート体制は整備されている。コース履修者が希望すれば留学に必要な資金に充当できる、助成金を支給する学内規程(京都薬科大学科学振興基金規程)や、研究成果を発表するための資金を補助する学内規則(京都薬科大学大学院生学会等参加補助金取扱要綱)を整備している。																						
20	国際交流プログラムの実施数	事業期間中(5年間) 達成目標 MDアンダーソンとの交流プログラムをはじめ、韓国ソウル大学、国立台湾大学、シンガポール大学等と連携合同教育セミナー等 15件を目標とする。 (国際交流プログラムの実施件数(海外の関係機関との連携)) <table><tr><th>区分</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R元</th><th>R2</th><th>R3</th><th>計</th></tr><tr><td>達成目標</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>15</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>3</td><td>6</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>14</td></tr></table>	区分	H29	H30	R元	R2	R3	計	達成目標	3	3	3	3	3	15	実施件数	3	6	4	1	0	14	
区分	H29	H30	R元	R2	R3	計																		
達成目標	3	3	3	3	3	15																		
実施件数	3	6	4	1	0	14																		

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等																																																								
		京都大学	令和3年度取組状況																																																								
			コロナの影響で実施できなかった。																																																								
			各大学における令和3年度取組状況																																																								
			コロナのため海外派遣はできなかったが、一部コースでは共同研究などを実施している。																																																								
			(プレジジョンメディスンがんゲノム医療コース)																																																								
			コロナ禍の影響で実施できず																																																								
			(小児・AYA世代コース)																																																								
			該当なし																																																								
			(外科治療・集学的診療コース)																																																								
			ソウル大学研究者との最新癌研究セミナーを予定していたが、コロナウイルス対策のため延期中となっている																																																								
			(希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース)																																																								
			世界的な新型コロナ感染症拡大を受け、海外への派遣・交流は実施できなかった。																																																								
			(がん専門薬剤師養成コース)																																																								
			R3年度はコロナ禍の影響で、教員およびがんプロ履修生の国際学会への参加、国外医療施設での研修などは実施を見送った。																																																								
			(リハビリテーションスタッフコース)																																																								
			オーストラリアで開発されたCNQ-YPの日本語版開発をニューキャッスル大学の研究者と共同開発を行った。																																																								
			(緩和ケアコース)																																																								
			欧州緩和ケア学会と国際Whole Person Care学会に参加し、参加者と意見交換を行なった。																																																								
			(医学物理士養成コース)																																																								
	世界的な新型コロナ感染症拡大を受け、海外への派遣・交流は実施できなかった。																																																										
	三重大大学	該当なし																																																									
滋賀医科大学	・国際交流として海外協定校から短期留学生を受入れるSUMS Grantを設け、留学生終了後は、滋賀医科大学大学院入学を目指すものとしている。																																																										
大阪医科薬科大学	・該当なし																																																										
京都薬科大学	該当なし																																																										
21	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数																																																										
		事業期間中(5年間) 達成目標 特別講演等 30件を目標とする。	(海外で活躍する研究者を講師とする特別講演等)																																																								
			<table><tr><th>区分</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R元</th><th>R2</th><th>R3</th><th>計</th></tr><tr><td>達成目標</td><td>4</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td><td>5</td><td>30</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>5</td><td>8</td><td>5</td><td>0</td><td>1</td><td>19</td></tr><tr><td>京都大学</td><td>4</td><td>4</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td><td>10</td></tr><tr><td>三重大大学</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>5</td></tr><tr><td>滋賀医科大学</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>大阪医科薬科大学</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>京都薬科大学</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr></table>	区分	H29	H30	R元	R2	R3	計	達成目標	4	7	7	7	5	30	実施件数	5	8	5	0	1	19	京都大学	4	4	2	0	1	10	三重大大学	1	3	1	0	0	5	滋賀医科大学	0	1	1	0	0	2	大阪医科薬科大学	0	0	0	0	0	0	京都薬科大学	0	0	1	0	0	1
			区分	H29	H30	R元	R2	R3	計																																																		
			達成目標	4	7	7	7	5	30																																																		
			実施件数	5	8	5	0	1	19																																																		
			京都大学	4	4	2	0	1	10																																																		
			三重大大学	1	3	1	0	0	5																																																		
			滋賀医科大学	0	1	1	0	0	2																																																		
			大阪医科薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																		
			京都薬科大学	0	0	1	0	0	1																																																		
令和3年度取組状況																																																											
京都大学	1)がんの分子医学セミナー/外科3科合同(2021/10/15) Molecular Cancer Medicine: progress and future directions Professor / Director Matthew J. Ellis, MB., BChir., Ph.D., FRCP Lester and Sue Smith Breast Center – Administrative Oncology/Medicine and MCB Baylor College of Medicine Houston, TX US																																																										
三重大大学	0件																																																										
滋賀医科大学	該当なし																																																										
大阪医科薬科大学	該当なし																																																										
京都薬科大学	該当なし																																																										

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等																												
【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】																															
22	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況																													
		事業期間中(5年間) 達成目標																													
		がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた取り組み 10件を目標とする。																													
		<table><tr><th colspan="7">(拠点間枠組みを越えた取り組み事業)</th></tr><tr><th>区分</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R元</th><th>R2</th><th>R3</th><th>計</th></tr><tr><td>達成目標</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>10</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>13</td></tr></table>		(拠点間枠組みを越えた取り組み事業)							区分	H29	H30	R元	R2	R3	計	達成目標	2	2	2	2	2	10	実施件数	3	3	2	2	3	13
		(拠点間枠組みを越えた取り組み事業)																													
		区分	H29	H30	R元	R2	R3	計																							
		達成目標	2	2	2	2	2	10																							
		実施件数	3	3	2	2	3	13																							
		令和3年度取組状況																													
		近畿地区にある「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」(大阪大学拠点)と「7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン」(近畿大学拠点)との連携事業として、教職員・学生・一般聴講者を対象としがんプロ人材養成事業の取組概要を周知する「近畿地区3拠点合同フォーラム」を令和3年10月8日にオンライン開催した。 さらに、他拠点が開催するシンポジウム「第5回国際がん研究シンポジウム」(近畿大学)に、本拠点の履修生に周知して履修生 2名が研究成果発表を行い、履修生のプレゼン能力向上を図ると共に、他拠点との人材交流を行った。 また、全国がんプロ協議会主催の総会が5/19に開催され、参加した。 他にも全国がんプロ協議会主催のゲノム医療部会(1/14)、がんプロ教育合同フォーラム(1/27)に参加し発表を予定している。																													
各大学における令和3年度取組状況																															
京都大学	がん薬物療法に携わる医師、看護師、薬剤師を対象に、抗がん薬に関する最新かつ高度な専門的知識の普及、及びチーム医療の養成を目的とする研修として、がんチーム医療研修4回(薬剤師・看護婦・医師51名参加)をオンラインで実施した。 1回(5/28) 23人、2回(7/28) 14人、3回(9/29) 7人、4回(11/24) 7人、 (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) 令和3年度は以下の日程でがんゲノム医療の円滑な運営を目指したチーム医療研修をwebで実施した。 第1回 5月28日(金)15:00～17:00 4施設 23人 第2回 7月28日(水)15:00～17:00 3施設 14人 第3回 9月29日(水)15:00～17:00 3施設 7人 第4回 11月24日(水)15:00～17:00 1施設 7人 (参加人数は 医師・看護師・薬剤師の合計) (外科治療・集学的診療コース) 開催なし (小児・AYA世代コース) 令和3年8月23日、令和3年12月20日 近畿ブロック小児がん拠点病院連絡協議会 (がん専門薬剤師養成コース) 2021年8月5日 2021年度 第1回 京大病院 病診薬連携セミナー 連携充実加算に関する研修会・Web開催:参加者77名、 2021年8月26日 こうやっている! 地域薬学ケア専門薬剤師制度の研修・Web開催:参加者84名、 2021年9月4日～5日 第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム・Web開催:参加者265名を開催した。 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた。 R3年度は2022年2月3日に「第4回 地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」(インテンシブコース)を企画している。 (リハビリテーションスタッフコース) 第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会において研究成果の発表を行う事により意見交換を行った。 (緩和ケアコース) 緩和ケア研修会を8月28日(参加者28名)に開催した。																														
三重大学	三重県内の医療機関、医師会と連携し、緩和ケアセミナーを令和3年7月29日、令和3年10月20日にWEB形式で開催した。 また、緩和ケア研修会は、令和3年10月30日にWEB形式で開催した。三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、第25回がんチーム医療研究会をWEB形式で令和3年9月17日に開催した(参加人数61名)。																														
滋賀医科大学	【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 令和3年度 ・第22回滋賀県がん薬物療法conference(R3/7/7:20名) ・第4回滋賀医大「連携充実加算」算定に伴う講演会・婦人科がん・保険薬局事例紹介(R3/10/7:94名) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和3年度 ・「第1回がんを学ぼう市民公開講座(R3/9/1～9/30)」/109名 ・「第2回がんを学ぼう市民公開講座(R3/10/1～10/31)」/76名 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R3/11/1～11/30)」 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R3/12/1～12/28)」 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R4/1/4～1/31)」 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R4/2/1～2/28)」 ・「第15回東近江圏がん診療公開講座(R2/9/18～11/21)」 ・「第16回東近江圏がん診療公開講座(R4/1/21～3/21)」																														

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
		大阪医科薬科大学	・三島医療圏がん診療ネットワーク協議会：(1/27)開催予定 ・三島圏域がん研究会：参加者324名<3回開催> ・第8回市民公開セミナー(11/20)：参加者38名 (市民公開講座は、コロナ禍により開催せず)
		京都薬科大学	1)第4回 がん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナー(2021年10月16日、参加者121名、後援：京都府薬剤師会) 2)地域在宅医療プログラムとして、多職種連携の中で指導的役割を担えるがん専門薬剤師育成を目指し履修学生を派遣した。(2021年10月18日～10月22日、渡辺西賀茂診療所に2名) 3)リレー・フォー・ライフ・ジャパン2021 京都(2021年10月23日、参加者23名、日本対がん協会事業に協力・がんプロ後援) 4)第7回 市民公開講座「乳がん」(2021年11月18日～11月24日、参加者324名、後援：京都市、京都府薬剤師会)
	23	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況 (資料6)インテンシブコース実施事業 (資料15)5大学連携学生短期研修プログラム 令和3年度取組状況 5大学連携としての人材交流、多職種交流を図るため、 1)「5大学連携学生短期研修プログラム」 令和3年9月29日に大阪医科薬科大学が主幹校として、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からZoomによるオンライン開催により1日短期研修として実施した。 今年度の研修は、オンライン開催でも各大学がんプロ履修生の人材交流・多職種交流が可能な研修内容とするため、当日の9:50～14:05までを第Ⅰ部「講義」として1コマ60分の講義を3コマ開講し、連携する5大学がんプロ履修生27名が参加した。その後の14:30～15:30までは、選抜されたがんプロ履修生11名が3グループ(放射線治療、ゲノム医療、サルコペニア悪液質関連)に分かれて定員制によるライブ配信による「ワークショップ」を開催し、履修生同士でのフリーディスカッションのコース別研修を実施した。特に、ライブ配信によるワークショップでは、がんプロ教育を受ける履修生同士の共通意識の向上を図ることができた。 2)「5大学連携海外合同教育セミナー」 R3年度はコロナの影響により実施できなかった。 3)「5大学連携医療フォーラム」 連携する5大学の医療関係従事者、教育研究者、学生を対象に、令和3年9月3日に京都薬科大学主幹にてオンラインにて開催した。 今年度の「5大学連携医療フォーラム」は、『がん患者や家族の視点を反映した教育内容』をテーマに第Ⅰ部「特別講演」、第Ⅱ部「がんプロ履修生による研究成果発表」、第Ⅲ部「各大学の取組と成果について」を新型コロナウイルス感染症の懸念からオンライン開催した。 各大学における令和3年度取組状況 京都大学 がんチーム医療研修(4回)(薬剤師・看護師・医師51名参加)、 第51回京都放射線腫瘍研究会プログラム(医師・技師・医学物理士131名参加) (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) 令和3年度は以下の日程でがんゲノム医療の円滑な運営を目指したチーム医療研修をwebで実施した。 第1回 5月28日(金)15:00～17:00 4施設 23人 第2回 7月28日(水)15:00～17:00 3施設 14人 第3回 9月29日(水)15:00～17:00 3施設 7人 第4回 11月24日(水)15:00～17:00 1施設 7人 (参加人数は 医師・看護師・薬剤師の合計) (小児・AYA世代コース) 病棟勉強会として年に数回、病棟看護師、保育士、CLS、がん相談員等を対象とした小児血液腫瘍に関する勉強会を開催 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 年に数回、病棟看護師、外来看護師向けの放射線治療に関する勉強会を開催している。各参加者は、10名～20名程度 令和3年10月30日 第51回京都放射線腫瘍研究会(医師・技師・医学物理士131名) (外科治療・集学的診療コース) 日本癌治療学会：日本癌治療学会がん医療ネットワークナビゲーター実地研修を実施 緩和医療、薬物治療の外来の見学や症例検討会の参加など。2021年度は対応なし。 (がん専門薬剤師養成コース) 2021年9月4日～5日 第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム・Web開催：参加者265名を開催した。本学会には、臨床医、薬剤師、看護師、大学研究者が参加し、がんプロ履修生やがんプロ教員は、他職種との情報交換などを行った。 また、がん化学療法法の推進において、大きな障壁となる治療薬の副作用発症機序、血中バイオマーカーや新規治療戦略の探索を行った。 乳癌外科・血液腫瘍内科・腎臓内科医師と協働しながら、リバース・トランスレーショナルリサーチを展開し、多数の国際誌などにその成果を発表した。 【英語原著論文】 1. Cancer Res. 81, 2207-2219, (2021). 2. Neuropharmacology. 188, 108514, (2021). 3. BMJ Open 11, e041543, (2021). 4. PloS one 16(10), e0258601, (2021). 【日本総説】 1. 図解 分子メカニズムから理解する婦人科がん薬物療法(金原出版)、70巻12号

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
			(リハビリテーションスタッフコース) 乳癌外科、血液内科、小児科の医師、看護師と共同でがんサバイバーのニーズ調査を多職種で実施した。
			(医学物理士養成コース) 京都大学工学研究科授業「放射線治療計画・計測学実習」 本コースの教員は、医学物理士の人材養成を図ると共に、医学物理士が効率的に活用できる放射線治療装置の研究者・技師養成のため、工学研究科生命・医工融合分野にて放射線治療の臨床現場で生じた様々な問題に対処し、高精度放射線治療を実現するため装置の性能、照射精度、治療品質を維持管理するための手法を学習できる授業を提供しており、診療放射線関連の研究者、技師養成を行っている。 (参加者数:3名)
		三重大学	【R3(11.30まで)】 緩和ケアセミナー(2件、112名) 緩和ケア研修会(1件、31名) TumorBoard(4件、99名) 医師、看護師等が参加するがん相談員研修会(3件、151名)
		滋賀医科大学	【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 令和3年度 ・第22回滋賀県がん薬物療法conference(R3/7/7:20名) ・第4回滋賀医大「連携充実加算」算定に伴う講演会・婦人科がん・保険薬局事例紹介(R3/10/7:94名) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和3年度 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計31名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計 31名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムIで看護師155名にがん医療に関わる研修を実施した。
		大阪医科薬科大学	がん医療総合センターで会議(カンサード)開催
		京都薬科大学	1)第4回 がん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナー(2021年10月16日、参加者121名、多職種ながんプロセス修了生によるパネルディスカッション) 2)地域在宅医療プログラムとして、患者のライフステージ(主に「壮年」・「高齢者」)に応じたテーターメイド医療を実践できる臨床薬剤師の養成を目指し履修学生を派遣した。(2021年10月18日～10月22日、渡辺西賀茂診療所に2名)
	24	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	
		京都大学	令和3年度取組状況 レベルアップ研修会はコロナの影響のため中止 京都府健康福祉部との連携 ・「第1回緩和ケア(PEACE)研修会(WEB開催)」2021年8月28日 28名参加 ・「ELNEG-J研修会」(エンドオブライフケアについて)(ハイブリッド開催)2021年9月11～12日 122名参加
			(小児・AYA世代コース) 緩和ケアチームによる病棟でのカンファレンス 日本小児血液がん学会主催「小児医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(CLIC)」への参加 (がん専門薬剤師養成コース) 2021年9月4日、5日にWeb開催形式で、「第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム」を実施し、期間内で265名の参加があった。またプログラムの企画として、開催中に日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師の認定講習会(参加者55名)および日本緩和薬物療法認定薬剤師 認定講習会(参加者78名)も実施した。
		三重大学	緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会として、①緩和ケアセミナー(オンライン)を、令和3年7月29日(31名参加)、10月20日(77名参加)、に開催した。
		滋賀医科大学	【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和3年度 ・腫瘍センター講演会 第1回(R3/12/15) ・腫瘍センター講演会 第2回(R4/2/16) ・腫瘍センター講演会 第3回(開催日未定)
		大阪医科薬科大学	該当なし
	25	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	
			令和3年度取組状況
		京都大学	がんチーム医療研修(4回)(薬剤師・看護婦・医師51名参加)、 第51回京都放射線腫瘍研究会プログラム(医師・技師・医学物理士131名参加)
		三重大学	例年実施している兵庫県立粒子線医療センターと連携して、コース履修者の研修を行った。、臨床では患者さんの紹介をしたり、非常勤の医師派遣を行った。
		滋賀医科大学	【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・帝京大学がんセンターに講師を派遣し、人材交流を行っている。

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
		京都薬科大学	1)地域在宅医療プログラムとして、多職種連携の中で指導的役割を担えるがん専門薬剤師育成を目指し履修学生を派遣した。(2021年10月18日～10月22日、渡辺西賀茂診療所に2名)
【事業の運営体制(実施、評価、連携)】			
	26	連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制	令和3年度取組状況 事業の運営体制 【事業推進運営委員会】・・・連携5大学間 連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、連携大学担当コーディネータを配置し、事業推進責任者が招集して事業の企画立案・実施・評価の決定を行う。 (構成員) 事業推進責任者、連携大学担当コーディネーター、事業推進運営委員会委員 【養成管理委員会等】・・・各大学 各大学において、事業の実施に向けての現実的な取組を決定 (構成員) 大学担当コーディネーター、コースコーディネーター、事務局担当者 各大学における令和3年度取組状況 京都大学 「事業推進運営委員会」・・・3回(主幹校として開催) 第1回 R3.6.22 第2回 R3.10.11 第3回 R4.2.28 「養成管理委員会」・・・・・・3回 総括コーディネーターを委員長として、事業推進運営委員会で審議決定された事項の取組に向けて意思確認や各担当コースの運営方針を決定する。 第1回 R3.6.11 第2回 R3.10.1 第3回 R4.2.4 三重大学 「5大学連携事業推進運営委員会」が、2021年6月22日の令和3年度第1回には、教員2名、事務1名が参加、2021年10月11日の令和3年度第2回には、教員1名、事務2名が参加した。 滋賀医科大学 連携5大学で構成される事業推進運営委員会等を通じて、事業に関する情報収集と連携を行っている。 学内では学生課大学院教育支援係の支援の下、臨床腫瘍学講座が事業コーディネータと統括を行い、同講座、外科学講座、小児科学講座、放射線医学講座、薬剤部が各大学院コースを担当している。適宜、対面・メールでの学内がんプロ運営会議を開催し、進捗の把握、評価、今後の方策を決定している。 大阪医科薬科大学 年2回事業推進運営委員会に参加し、各校との情報共有、海外セミナーや5大学短期研修、医療シンポジウムの開催を行うことなどを決定している。 京都薬科大学 事業責任者が招集する事業推進運営委員会に出席し、事業の企画立案・実施・評価(外部評価を含む。)の決定事項を情報収集する。 2021年9月3日開催の「5大学連携医療フォーラム」では、当番校として特別講演の手配をオンラインにて開催を行った。
	27	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	令和3年度取組状況 【外部評価委員会】 外部有識者を評価委員として外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制を構築しており、令和3年度は、令和2年度と令和3年度の事業期間の外部評価を実施した。
	28	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	令和3年度取組状況 令和3年9月3日に「5大学連携医療フォーラム」をオンライン開催として実施、同フォーラムでは、『がん患者や家族の視点を反映した教育内容』をテーマに、第Ⅰ部「特別講演」と第Ⅱ部「がんプロ履修生による研究成果発表」と第Ⅲ部「各大学の取組と成果について」を実施した。国立国際医療研究センター病院 乳腺・腫瘍内科 診療科長 がん総合センター 副センター長 清水千佳子 先生を招き、演題「AYA世代ががんを通じてがん医療人の養成」の特別講演とがんプロ履修生による研究成果発表(質疑応答有)、その後の連携大学のコーディネーター5名による「各大学の取組と成果について」の発表があり、教職員・学生だけでなく、一般聴講者への事業取組の特色等の紹介が行われた。オンライン参加120名の参加者であった。 当日のフォーラムでの報告内容は、ホームページにてオンデマンド配信して当日参加できなかった方も視聴でき、広く一般社会に向けて公開している。 http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/forum/event181130
	29	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	令和3年度取組状況 連携する5大学の事業を効果的に推進するための「5大学連携事業推進運営委員会」を3回開催予定、また、大学間の人材交流、多職種交流を目的として「5大学学生短期研修プログラム」(令和3年9月29日)をオンライン研修として実施、「5大学連携医療フォーラム」(令和3年9月3日)をオンライン開催、また初めての試みの各大学が持つがん患者会等のネットワークを活用し、がん患者や家族の視点からの声を吸い上げ、包括的なケアに向けてのがん医療教育を考えていくため、がん患者、患者家族、患者会、医療従事者、その他関係者での「がんプロ合同シンポジウム」(令和3年7月10日)を実施した。 また、近畿地区にある3拠点(京大、阪大、近大)で持ち回り開催している「近畿地区3拠点合同フォーラム」を、「15年間の軌跡とがんプロの今後の課題と展望」をテーマに各拠点代表者による基調講演と「コロナ禍によるがん教育について/これからのがん教育」をテーマに各拠点の教員各2名によるパネルディスカッションをオンライン開催し、積極的に取り組むことで他拠点間越える交流を実施した。 さらに、他拠点(近畿大学拠点:7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン)が開催する国際シンポジウム「第5回国際がん研究シンポジウム」については、がんプロ履修生への参加案内を積極的に行った。

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
		京都大学	各大学における令和3年度取組状況
			インテンシブ事業として、連携大学間での情報共有を目的に、毎年、がん専門薬剤師養成連携合同コース会議(年1回)、チーム医療研修(年4回)、京都放射線腫瘍研究会(年1回)を開催、さらに、各コースにおいて拠点内大学との研修会が実施され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。
			(プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース)
			コロナ禍の影響で実施できず
			(小児・AYA世代コース)
			・令和3年7/18 JACLS/CCLSG夏季合同セミナー(Web開催)
			(希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース)
			5大学連携医療フォーラム(令和3年9月3日)で発表 5大学連携学生短期研修プログラム(令和3年9月29日)に参加
			(外科治療・集学的診療コース)
			5大学連携医療フォーラムに参加した。
			(がん専門薬剤師養成コース)
			連携大学とのつながりを強化することを目的として、連携大学との薬剤師養成コース会議をオンラインで開催予定(2022年2月12日)。年次活動の進捗報告と情報交換、ならびにがんプロ履修生に対する「がん患者に寄り添った薬剤師養成の教育」のあり方について議論を行う。
			(リハビリテーションスタッフコース)
			COVID-19蔓延により実施できず
			(医学物理士養成コース)
			新型コロナウイルス拡大を受け、院外からの人材交流受け入れは実施できなかった。
		三重大学	「5大学連携医療フォーラム」: 令和3年度はコーディネーター1名が拠点の成果報告を行い、がんプロ履修者1名が研究成果発表を行った。(2021年9月3日 Zoom開催)
			「近畿地区3拠点合同フォーラム」: 令和3年度はコーディネーター1名が司会・パネリストとして参加した。(2021年10月8日)
			「5大学連携 学生短期研修プログラム」:三重大学から1名のがんプロ履修生が参加した。(2021年9月29日 Zoom開催)
			「がんプロ合同シンポジウム」:三重大学から3名の教員(内1名はがんプロコーディネーター)が司会・パネリストとして参加した。
		滋賀医科大学	【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 令和3年度 ・5大学連携学生短期研修プログラムに大学院生4名が参加した。 ・5大学連携医療フォーラムに大学院生1名が参加した。 ・がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議(研究発表会)が京都大学主催でWEB開催され、本学より教職員2名(内1名は元がんプロ学生)、大学院生5名が参加し、内1名が研究発表を行った。(R4/2/12) ・附属病院薬剤部で京都薬科大学、立命館大学、大阪医科薬科大学、摂南大学の学生33名にがん薬物療法の実地研修を行った。
			【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 令和3年度 ・5大学連携学生短期研修プログラムに大学院生1名が参加した。
			【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和3年度 ・5大学連携学生短期研修プログラムに大学院生1名が参加した。 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計31名にがん薬物療法の実地研修を行った。
			・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計31名にがん緩和ケアの実地研修を行った。
		大阪医科薬科大学	・近畿地区3拠点合同フォーラム(10月8日)
		京都薬科大学	連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、プログラムコーディネーターを置き、事業責任者が招集する事業推進運営委員会に出席し、事業の企画立案・実施・評価(外部評価を含む。)の決定事項を情報収集する。 2021年9月3日開催の「5大学連携医療フォーラム」では、当番校として特別講演の手配をオンラインにて開催を行った。
			5大学連携間 1)2021年9月3日「5大学連携医療フォーラム」履修学生2名発表、履修学生7名、教職員5名参加 2)2021年9月29日「5大学連携学生短期研修プログラム」履修学生5名、教職員2名参加
			他拠点間 1)2022年1月15日～2月28日「第5回国際がん研究シンポジウム」履修学生2名発表予定

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等																																																								
	30	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率	令和3年度 取組状況 京都大学版 e-learning は、当初からホームページにて受講者募集の案内をしており、その受講できる対象者は、京都大学と連携大学のがんプロ履修生だけでなく、次の方々が受講登録できるシステムであります。 1)京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学とその附属病院等に在籍する医療関係者 2)がん診療を専門とする事を志望する上記各大学の学生 3)本事務局が上記の趣旨に適合すると判断した方 平成29年度がんプロホームページのサイトデザインの刷新と共に、e-learningバナーボタンの変更も実施し、よりわかりやすいデザインに変更を行った。 令和3年度のe-learningがんプロ履修生受講登録者内訳は、 ・新規申請登録者 20名(令和2年度:32名) ・がんプロ履修生の総数137名のうち、受講登録者 106名 (令和2年度:総数143名のうち、受講登録者99名) ・受講登録率 拠点全体 77%(令和2年度 69%) 京都大学 78%、83人(令和2年度:73%、67人) 連携4大学 50%、54人(令和2年度:63%、32人) 特に、連携大学での受講登録のアナウンスにより受講率が向上した。 また、がんプロ履修生以外の医療関係者の令和3年度新規申請は、2名(令和2年度:3名)の受講登録がありました。 三重大学 各コースコーディネーターに周知するとともに、受講方法について、本学がんプロホームページに継続して掲載し、がんプロ履修生に対し、積極的な登録を促した。 滋賀医科大学 連携5大学のe-learningおよび全国のe-learningの受講登録を勧めている。 大阪医科薬科大学 連携5大学のe-learningの受講登録を積極的に勧めているが、受講率は上がっていない。 京都薬科大学 連携5大学のe-learningに登録し、受講を積極的に勧めている。講義学生受講登録率 100% 履修学生の満足度調査では、様々ながんや治療について学ぶのに非常に役立つと好評である。																																																								
	31	新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて	令和3年度 取組状況 <table><tr><th colspan="7">(新たなe-learning講義科目の提供の取組)</th></tr><tr><th>区分</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R元</th><th>R2</th><th>R3</th><th>計</th></tr><tr><td>京都大学</td><td>1</td><td>6</td><td>3</td><td>2</td><td>0</td><td>12</td></tr><tr><td>三重大学</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td></tr><tr><td>滋賀医科大学</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>0</td><td>3</td></tr><tr><td>大阪医科薬科大学</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>京都薬科大学</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>1</td><td>6</td><td>6</td><td>5</td><td>4</td><td>22</td></tr></table> 拠点の取り組みとして、令和3年度において、次の4点の講義等について、新たに撮影・収録し聴講できるようにした。これにより、がんプロ履修生や本拠点の医療関係者に向けて、分野横断的、先進的教育研究が推進されるものと期待されている。 ・「①放射線治療(希少がん)」 大阪医科薬科大学 放射線腫瘍学 教授 二瓶 圭二 ・「②放射線治療(希少がん)」 大阪医科薬科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 専門教授 栗飯原 輝人 ・「がんゲノム医療人養成」 大阪医科薬科大学 TR部門 講師 谷口 高平 ・「ライフステージに応じたがん対策(サルコペニア悪液質)」 大阪医科薬科大学 先端医療開発学 特務准教授 西川 浩樹	(新たなe-learning講義科目の提供の取組)							区分	H29	H30	R元	R2	R3	計	京都大学	1	6	3	2	0	12	三重大学	0	0	3	0	0	3	滋賀医科大学	0	0	0	3	0	3	大阪医科薬科大学	0	0	0	0	4	4	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計	1	6	6	5	4	22
	(新たなe-learning講義科目の提供の取組)																																																										
	区分	H29	H30	R元	R2	R3	計																																																				
	京都大学	1	6	3	2	0	12																																																				
三重大学	0	0	3	0	0	3																																																					
滋賀医科大学	0	0	0	3	0	3																																																					
大阪医科薬科大学	0	0	0	0	4	4																																																					
京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																					
計	1	6	6	5	4	22																																																					
32	主幹大学での事業支援事務組織体制	令和3年度 取組状況 引き続き、複数のプロジェクトの担当職員を統合して、プロジェクトに係る総務的業務、経理的業務、教務的業務と幅広い業務に、横断的に支援できる教育推進室を配置した。																																																									
【事業の普及】																																																											
	33	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	令和3年度 取組状況 本がんプロ拠点のホームページのデザインは、平成29年度にサイトデザインを一新し、引き続き、事業活動の社会への周知、地域医療貢献のために各種フォーラムや公開講座等のイベント活動をホームページに逐次公開しており、社会からのがんプロ活動の理解を頂けるよう発信・充実に努めています。 ホームページ「イベント」欄では、本拠点のイベント活動だけでなく、他拠点との公開講座や近畿地区3拠点とのフォーラム等の開催情報を提供し、他拠点間交流や多職種交流教育にも努めています。 令和元年度に引き続き、「活動報告」欄では本拠点の主なプログラムの取組活動を広く情報公開すると共に、「5大学連携医療フォーラム」欄では、当日の講演内容等もオンデマンド配信にて、広く一般の方に向けて視聴提供をしており、積極的な情報公開を促進しています。 また、ホームページ「成果報告」欄では、毎年度がんプロ事業活動について学外の外部評価委員による評価結果も含む「外部評価報告書」も、HPIにて公開しがんプロ事業への理解を得ることに努めています。 http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 「高度がん医療を先導するがん医療人養成」 三重大学 三重大学大学院及び三重大学がんセンターのホームページでそれぞれ入学案内を含めた本事業の情報公開を行った。また、がんプロ推奨セミナーの案内をリアルタイムで行い、県内の医療機関の多職種に参加を呼び掛けた。ホームページに加えて、大学院で作成したパンフレットをインテンシブコースの講演会等で積極的に配布し、本事業の紹介を行った。																																																								

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
		滋賀医科大学	本学のがんプロホームページから、京都大学拠点事業のホームページへとリンクさせている。 また、本学がんプロホームページには、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載し積極的な情報公開を行っている。 令和3年度更新回数12回(R3年11月末現在)
		大阪医科薬科大学	本事業のWEBサイトに、公開講座開催概要等を集約して情報公開を行っており、積極的に広報を行っている。 本学でのWEBサイトにも独自サイトを開設し同様な講演やセミナーについて情報公開を行い、広報活動を行っている。
		京都薬科大学	京都大学がんプロホームページを本学がんプロホームページにリンクさせている。本学での取り組みを、京都大学に情報提供し公開を行っている。 本学リンクページ: https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/#symposium また、公開講座やセミナーの情報を京都薬科大学トップページの新着情報、本学Twitter、本学生涯教育センター、京都府薬剤師会などに積極的に公開している。
	34	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	
			令和3年度 取組状況 京都大学 京都府がん医療戦略推進会議の各部会(院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、外来化学療法部会、地域連携部会)および、各種ワーキング(前立腺がん地域連携バスワーキング等)に参加し、活動に協力している。(総勢29名が活動中)※令和3年度も新型コロナウイルスの影響により、多くの部会がWEB開催となった また、府内で実施している以下の事業に講師派遣する等、府のがん対策の企画立案に積極的に協力している。 ・生命のがん教育推進プロジェクト…小中学校や高等学校等でガンの基本知識に関する授業を行う R3.6.17 京都市立白川総合支援学校 1年生25名 R3.10.20 京都市立紫野学校 1年生280名 (各回につき、医師1名を講師として派遣) ・かかりつけ医(がん対応力)向上研修…地域の医師を対象に最新情報等の研修を行う。本年度は「コロナ禍におけるがん薬物療法」について医師1名が講演予定。 R4.3.5(土) WEB講演 ・R3年度は近畿ブロック小児がん拠点病院の代表当番施設になっており、R3.8.23 令和3年度第1回近畿ブロック医療体制協議会をWEB開催した ・令和元年度から小児がん連携病院の指定が始まった関係で、当院の連携病院10施設の現況報告書を取りまとめ、提出した。 ・R3.11.28 地域がん相談支援フォーラム in 近畿 (京都市立病院からWEB開催) →京都府がん相談支援部会の一員として滋賀県がん診療連携協議会と協働し、幹事府県として開催した (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) 京都府内の2つのがんゲノム連携拠点病院に非常勤で医師を派遣している (小児・AYA世代コース) ①京都府小児がん拠点病院連携推進会議 京都府健康福祉部健康対策課、京都府立医科大学との情報交換、小児がん対策、市民公開講座開催などにつき協議を行っている。 ②京都市入院児童生徒等への教育保障体制整備事業推進に関する会議 入院中の小児・AYA世代に対する遠隔授業の推進につき京都市教育委員会とともに施策につき検討している。 ③KOF-net(京都がんと生殖医療ネットワーク) 京都府下の主としてがん患者への妊孕性温存の推進に取り組んでいる。 (外科治療・集学的診療コース) 京都府がん医療戦略推進会議に教官を派遣し、企画立案に取り組んでいる (リハビリテーションスタッフコース) AYA weekに京都府内でイベントを開催することで一般の方々への啓発を予定している。 (緩和ケアコース) 京都府がん医療戦略推進会議・緩和ケア部会をにおいて、京都府健康福祉部健康対策課および京都府立医科大学と緩和ケアの課題について情報交換と協議を定期的に行っている。
		三重大学	三重大学がんセンターの医師が、令和元年度の三重県のがん検診精度管理検討委員会の委員長を務め、がん検診の精度の向上を進めた。また、三重県のがん対策推進協議会の緩和ケア部会、医科歯科連携部会、PDCAサイクル部会、地域連携バス部会、がん相談支援部会、がん登録部会のそれぞれの部会長にも、がんセンターの医師が任命されており、県のがん対策の推進に積極的に貢献した。 県教育委員会が主催する小学校、中学校の出前授業(令和元年、9月12日、10月1日、10月23日、11月8日、11月21日、12月16日、令和2年1月23日)に、がんセンターの医師が参加して「がん教育」の授業を行い、小学生、中学生との活発な質疑応答を行い好評であった。また、教員を対象とする、がん教育の講習会でも、がんセンターの医師が講演(令和元年8月1日、8日)し、がん教育の意義や指導内容・方法等の普及、啓発を行った。
		滋賀医科大学	滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。また滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「第3期滋賀県がん対策推進基本計画」の推進に取り組んだ。
		大阪医科薬科大学	大阪府主催のがん連携協議会(各部会)に年2回参加
		京都薬科大学	市民の健康福祉に寄与する取り組みとすることを目的として、京都市に後援いただきたい「健康長寿のまち・京都」の取組を応援した。ポスターにロゴマークを掲載し、「健康長寿のまち・京都」ポータルサイトへの掲載をし、広く市民の皆様にご紹介いただいた。 1)第7回 市民公開講座「乳がん」(2021年11月18日～11月24日、参加者324名)

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
	35	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	
		京都大学	令和3年度 取組状況 (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) テレビ電話会議システムWebExとシスメックス社と共同で開発したクラウド型データストレージを導入しており、関連病院との効率的な連携が可能な体制を構築している。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 関連病院間でのインターネットアクセス可能なサーバーを開設して、関連病院が京大産婦人科での講義やカンファレンスでの情報共有を図るシステムを利用している。 (小児・AYA世代コース) 京都市入院児童生徒等への教育保障体制整備事業推進に関する会議メンバーと協力し、入院児童に対してICTを用いたサポートを拡充すべく検討をおこなっている。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) インターネットでアクセス可能なサーバーを構築・運用して、関連病院医師が京大放射線治療プロトコルを閲覧可能としている。 (外科治療・集学的診療コース) 関連施設と共同で共通のフォーマットでの院内診療データベースを運営しており、定期的にこれらのデータを集約し、web上での利用を推進している。 三重大学 三重大学のがんセンターが事務局となり、周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域医療連携ネットワークを構築し、地域完結型医療を推進した。現在、医療情報の開示病院は、地域がん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院を中心にして計18施設で、閲覧施設は計283施設になっている。 滋賀医科大学 ・東近江医療圏メーリングリスト、ならびに滋賀県がん診療連携協議会・診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修に関わる情報を発信した。 ・がん関係の研修・講演会をTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院と大津医療圏病院(JCHO滋賀病院)へ配信している。 ・大津市、草津市の行政と医療機関と連携して地域緩和ケア連絡会議を年2回開催している。
	36	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	
		京都大学	令和3年度 取組状況 (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) テレビ電話会議システムWebExとシスメックス社と共同で開発したクラウド型データストレージであるエキスパートパネル支援システムを用いて、がんゲノムプロファイリング検査に必須とされるエキスパートパネル実施体制を構築し、毎週web会議を開催している。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 関連病院間での定期的なテレビ会議システム(Zoom, WebEx)を利用したモーニングレクチャーを開催し、関連病院が京大産婦人科での講義やカンファレンスでの情報共有を図るシステムを利用している。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース) ・放射線医学への応用が期待される深層学習を用いた研究開発を、株式会社Ristと共同で行っている。 ・患者間・位相間非線形位置合わせデータベースの開発を、イーグロス株式会社と共同で行っている。 ・放射線照射中の標的位置確認のために用いられるイメージング用画像の画質向上に向けた研究開発を、Varian Medical Systemsと共同で行っている。 (小児・AYA世代コース) 月一回、京都府下ならびに近畿の連携病院とともにWebカンファレンスシステムを用いた症例検討会を行なっている。 (外科治療・集学的診療コース) 京都府がん戦略医療推進会議への参加 (リハビリテーションスタッフコース) テレビ会議システムでゼミを実施する事で、府内のみならず遠方の研究者、教員と連携して教育、研究を行っている。 (がん専門薬剤師養成コース) Web会議システムを活用して、2021年9月4日～5日 第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウムを開催した。本会には、臨床医(15名)、薬剤師(78名)、看護師(5名)、製薬企業関係者(11名)、大学関係者(156名)が参加し、がんプロ研修生やがんプロ教員も交えて適切かつ安全ながん薬物療法の推進について情報交換、協議を行った。 三重大学 がんプロ主催の多職種緩和ケアTVカンファレンスは、県内8病院を結んで実施していたが、令和3年度は、7月に定期カンファレンスを再開したものの、8-9月は休止、そして10月から再開している。カンファレンスでは、各病院で活動するがんプロ修了生であるがん看護専門看護師が、それぞれのチームメンバーとともに参加し、各病院の参加者が、対応困難な緩和ケア事例を通して互いに研鑽する機会となっている。 滋賀医科大学 ・東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院および大津医療圏のJCHO滋賀病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築している。 ・がん関係のCPCをTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院へ配信している。 ・滋賀県の運営する遠隔病理診断システムの運用を附属病院で支援している。 ・大津市、草津市の行政と医療機関と連携して地域緩和ケア連絡会議を年2回開催している。

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
	37	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	京都大学 令和3年度 取組状況 1) 第51回京都放射線腫瘍研究会(2021/10/30):131名 共催:ブレインラボ株式会社、第一三共株式会社 (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) 2021/7/31 がんゲノム医療中核拠点病院におけるエキスパートパネルを考える会 共催:がんゲノム医療中核拠点病院事業、多彩な新ニーズに対応するがん専門医療人材養成プラン、中外製薬株式会社 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 2021年5月21日 生殖医学研究会 持田製薬 2021年8月1日 サマークリニカルフォーラム 2021年9月17日 京都Ovarian Cancer Meeting 持田製薬 2021年9月24日 京都婦人科臨床研究ミーティング 中外製薬 2021年10月10日 京都女性のヘルスケア研究会 久光製薬 2021年10月28日 Gynecology Expert Meeting 中外製薬 (小児・AYA世代コース) 令和3年5月21日 第102回京滋小児悪性腫瘍懇話会 アステラス製薬株式会社 令和3年10月15日 第18回近畿若手小児血液クラブ 中外製薬株式会社 令和3年10月22日 京滋CCSセミナー ファイザー株式会社 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース) ・放射線医学への応用が期待される深層学習を用いた研究開発を、株式会社Ristと共同で行っている。 ・患者間・位相間非線形位置合わせデータベースの開発を、イーグロス株式会社と共同で行っている。 ・放射線照射中の標的位置確認のために用いられるイメージング用画像の画質向上に向けた研究開発を、Varian Medical Systemsと共同で行っている。 (外科治療・集学的診療コース) 上方乳癌研究会 共催:中外製薬株式会社 5月22日 京滋乳癌研究会 共催:中外製薬株式会社 9月4日 (緩和ケアコース) 「在宅緩和ケア研修のための双方向遠隔講義」を企業(あゆみ製薬、日本臓器製薬、メディカルシステムネットワーク、アインファーマシーズ)の協力を得ながら開催した。 (がん専門薬剤師養成コース) 令和3年9月4日 メディカルセミナー(第40回 鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム内)共催:第一三共株式会社 令和4年2月13日 第5回 2025年に向けた薬剤師業務研究会 共催:日本化薬株式会社 三重大学 三重大学を中継拠点として、三重県内8か所の病院が参加して、毎月1回、多職種による緩和ケアカンファレンスを行っており、解決困難な事例について、互いの専門性を活かしたタイムリーな検討を行い、施設の垣根を超えた緩和医療の質の向上に貢献している。 滋賀医科大学 該当なし
	38	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	京都大学 令和3年度 取組状況 (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) がんゲノムプロファイリング検査で必須とされるエキスパートパネルの運営には特に連携病院とのやり取りに時間と労力を要していたが、シスメックス社と共同でエキスパートパネル支援システムを開発、臨床導入している。本システムの導入によりエキスパートパネルの日程調整や、エキスパートパネルレポートの連携病院への返却にかかる時間を大幅に短縮できるようになった。 さらにがんゲノムプロファイリング検査結果とエキスパートパネルでの議論内容を一元管理し、最終報告書としてのエキスパートパネルレポートを管理・出力できるデータベースシステムを市販のソフトウェアをベースに開発し運用している。 このデータベースを用いれば、実際にエキスパートパネルで治療が推奨された体細胞系遺伝子変異や二次的所見が疑われた生殖細胞系遺伝子変異について多面的な解析が可能である。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) ①婦人科ががんの手術検体を用いた全ゲノム解析やRNAシーケンシングを用いて、治療抵抗性のバイオマーカー探索や腫瘍免疫に影響を与える因子の探索を行っている。 ②正常子宮内膜や子宮内膜症の遺伝子変異解析から、子宮内膜および子宮内膜症由来卵巣癌の発癌機序の解明と発癌機転の探索を行っている。 ③卵巣明細胞癌の遺伝子変異のパターンについて、RNAシーケンシングおよびゲノム解析によって新規診断、治療開発の基礎検討を行っている。 ④子宮体部漿液性癌において、STAT1を基軸とした発癌、治療法抵抗性および腫瘍免疫に寄与する機序解明を行っている。 ⑤子宮頸がん予防に対し新規治療の臨床応用を開始している。

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
			(小児・AYA世代コース)
			1. 小児がんの臨床検体を用いた網羅的遺伝子解析による新規診断、治療法の開発を目指した探索的研究を行っている。 2. 固形がんの表面抗原を標的とした新規治療法開発に関する基礎研究を推進し、動物モデルを用いて臨床応用を進めている。 3. 高度免疫不全マウスであるNOGマウスを用いて患者由来の白血病や固形がんをマウス体内で維持するPDX (Patient derived xenograft) マウスモデルを確立し、ヒト腫瘍細胞のin vivo解析系を構築することで病態の解明や新規治療法の開発を行っている。 4. 白血病の増殖／維持に関わる分子標的を探索的に研究し、PDXモデルを用いた新規治療法開発を行っている。 5. 細胞免疫療法における、免疫環境の解析を通じ同治療の最適化、合併症対策等、新規治療法開発を行なっている。
			(希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース)
			臨床放射線治療グループ、医学物理グループ、放射線生物学グループに分かれ、新たながん治療法開拓に向けて、研究を推進している。 各グループで定期的にミーティングを開催し、さらにグループ間での密接な連携も行う。 月に数回、3グループからの研究発表も行う機会を設けている。
			(外科治療・集学的診療コース)
			光超音波技術を用い、血管が関与する疾患のより早期での診断、治療方法の精密化、個別化を目指す研究を進めている。 臨床データをAIを用いてデータベースとして活用できる形に実装化など、人工知能を用いた技術にも着目し今後展開を図っている。
			(リハビリテーションスタッフコース)
			テレビ会議システムを用いて、医師、看護師、理学療法士、作業療法士の国内の研究者、教員、履修学生でゼミ活動を行う事で研究体制を整備している。
			(緩和ケアコース)
			身体症状と精神症状のアセスメントとケアの向上を目指して、AI関連技術を応用した研究を進めている。
三重大学			(がん専門薬剤師養成コース)
			がん化学療法の推進において、大きな障壁となる用量規定因子である抗がん剤誘発末梢神経障害の重症度を定量化するための血中バイオマーカーについて探索し、候補を選定した。乳腺外科医師と協働しながら、抗がん剤誘発末梢神経障害の発症患者を対象に、血液検体を用いて、候補分子のバイオマーカーとしての妥当性を評価した。一定の成果が得られ、医師、薬剤師、がんプロ履修生の共著で論文を海外学術誌に発表した。さらに、抗がん剤誘発末梢神経障害の新規予防・治療薬の開発を目指し、京都大学が保有する約3000種類の化合物ライブラリーをハイスループットスクリーニングし、有効な候補薬を複数見出した。現在、その研究成果を取りまとめ、海外学術誌に論文を発表した。また、がんプロ履修生が、研究成果の一部を取りまとめ、国内誌に総説として発表した。 また、血液腫瘍内科と連携し、がん化学療法に用いる抗体医薬品の体内動態に関する研究を推進し、海外学術誌に論文を発表した。 【英語原著論文】 1. Cancer Res. 81, 2207-2219, (2021). 2. Neuropharmacology, 188, 108514, (2021). 3. BMJ Open 11, e041543, (2021). 4. PloS one 16(10), e0258601, (2021). 【日本総説】 1. 図解 分子メカニズムから理解する婦人科がん薬物療法(金原出版)、70巻12号
			(医学物理士養成コース)
滋賀医科大学			臨床放射線治療グループ、医学物理グループ、放射線生物学グループに分かれ、新たながん治療法開拓に向けて、研究を推進している。 各グループで定期的にミーティングを開催し、さらにグループ間での密接な連携も行う。月に数回、3グループからの研究発表も行う機会を設けている。
			複合的がん免疫療法センターを中心にして、以下の研究開発を進めている。 1. 長鎖ペプチド抗原デザイン技術とナノゲル型ワクチンデリバリーシステムを応用した高性能がんワクチンの研究開発 2. 免疫チェックポイント阻害薬不応性がんに対するACT+がんワクチン療法の研究開発 3. がん治療に用いるヒト型抗体の作製と解析 4. 新しいCAR-T細胞輸注療法の開発研究 5. がんの変異抗原等に対するTCRの分離と標的ペプチドの解析 6. T細胞由来小胞体ベシクルの解析と臨床への応用 7. 新しいがん免疫療法のトランスレーショナルリサーチ: TCR遺伝子改変T (TCR-T)細胞の輸注療法 8. 新しいがん免疫療法のトランスレーショナルリサーチ: CHPナノゲル／蛋白複合体がんワクチン(三重大オリジナルがんワクチン臨床開発) 9. がん免疫療法臨床試験のリバーストランスレーショナルリサーチ: がん免疫療法モニタリング研究
			・次世代シーケンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。
			【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和3年度 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計約30名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計31名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムにて看護師155名にがん医療に関わる研修を実施した。

区分	項目番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
		大阪医科大学	令和元年度の新規がんに関する研究として以下のものがあげられる (化学療法センター) ・高度催吐性抗悪性腫瘍剤の悪心・嘔吐に対するホスアプレビタント・メグルミンとデキサメタゾンの併用効果についての検討化 ・治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌に対するレゴラフェニブの有効性・安全性評価のための探索的臨床薬理学研究 ・RAS遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFIRI+ラムシルマ併用療法の第Ⅱ相試験(JACCRO CC-16)」におけるバイオマーカー研究(JACCRO CC-16AR)」 ・治癒切除不能な固形悪性腫瘍における 血液循環腫瘍 DNA のがん関連遺伝子異常及び腸内細菌叢のプロファイリング・モニタリングの多施設共同研究(SCRUM-Japan ONSTAR-SCREEN) ・がん患者における人参養米湯の倦怠感に対する有効性を検討する前向き観察研究 ・抗EGFR抗体薬の治療歴のあるRAS/BRAF V600E野生型の切除不能進行・再発大腸癌患者を対象としたctDNA解析によるRAS変異モニタリングの臨床的有用性を評価する観察研究 ・StageⅢ治癒切除大腸癌に対する術後補助化学療法としてのCapecitabine療法とS-1療法とのランダム化第Ⅲ相比較臨床試験(JCOG0910) ・StageⅢ治癒切除胃癌症例におけるTS-1術後補助化学療法の予後予測因子および副作用発現の危険因子についての探索的研究(JACCRO GC-07AR) (産婦人科) ・本邦における若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究 ・初発子宮頸がん患者を対象とした治療後のセクシュアリティの変化に関する前向きコホート研究 ・70歳未満と比較して70歳以上の子宮がん患者における腹腔鏡下手術の安全性の検討(内科学Ⅱ) ・胃癌に合併した閉塞性黄疸に対する適切な胆道ドレナージ法の検討 ・切除不能肝細胞癌に対する全身化学療法の治療効果の検討
		京都薬科大学	1. 公表されている診療データベースに基づいた患者情報の解析と、がんの原因となる遺伝子を特定する次世代シーケンサー解析に関連付けた研究プラットフォームを構築した。 2. がん治療と診断を組み合わせた、がん放射線内用療法(radio-theranostics)研究を継続した。
39		新たながん医療分野の開拓推進に向けた取組み状況	
		京都大学	令和3年度 取組状況 (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) 院内完結型のゲノムラボ「ゲノム解析室」を開設した。 原発不明がんを対象とした国際共同のWES+RNAシーケンス研究を計画し、2021年12月より登録を開始している。 (小児・AYA世代コース) 小児がんの臨床検体を使用した遺伝子の網羅的解析と、動物モデルを用いた機能解析を組み合わせ、新規診断法、治療法の開発を目指している。 BiTEやCAR-Tといった細胞免疫治療における免疫環境を解析し、バイオマーカーの発見、新規治療開発に向けた研究を行なっている。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース) ①放射線治療科では2011年9月より世界に先駆けてVero4DRTを用いた動物追尾照射を開始している。肺癌・肝癌・膵癌に対する動物追尾照射の安全性および有効性を評価することを目的とし、AMED革新的がん医療実用化研究事業より平成29-31年度の研究資金提供を受けて多施設共同試験を実施している。さらに、2017年11月24日には、世界で初めて回転原体照射による動物追尾放射線治療を行った。 ②また、前立腺癌に対する強度変調放射線治療は、全例Vero4DRTを用いた革新的新規照射法であるDynamic WaveArc照射法(革新的がん医療実用化研究事業より平成27-29年度の研究資金提供を受けている)を行っており、さらに一部の脳腫瘍症例に対しても行った。現在、乳がん、脊椎転移など、他部位の症例に対してもDynamic WaveArc照射法が優位であるか研究を進めている。 ③実験検体および臨床検体 中のDNA、RNA、タンパクなどを解析して放射線治療抵抗性の原因究明とその克服法を開発している。 ④また、低酸素などの腫瘍内微小環境や生体中の酸化還元バランスが、放射線治療効果に及ぼす影響についての研究も推進している。 (外科治療・集学的診療コース) 光超音波技術を用い、血管が関与する疾患のより早期での診断、治療方法の精密化、個別化を目指す研究を進めている。 また関連病院と共同で共通フォーマットでの診療データベースを運営し、定期的なデータを集約し、WEB化に向け推進。さらに臨床データをAIを用いてデータベースとして活用できる形に実装化など、人工知能を用いた技術にも着目し今後展開を図っている。また抗がん剤治療の副作用に依る手のしびれを改善するための圧迫療法(グローブ)の開発を進めた (リハビリテーションスタッフコース) AYA世代に医療に対するニーズを調査することで、AYA世代が望むより良いケア、より良いリハビリテーションを行うためのシステム開発を行っている。 (緩和ケアコース) 全国の緩和ケア病棟で亡くなった患者の遺族調査を基にAI関連技術による解析を行い、緩和ケアと看取りの質を予測するモデルを作成する予定である。どのような過程が緩和ケアの質の担保に重要かを検討し、望ましいケアのあり方を提案できるシステム構築を目指している。 (がん専門薬剤師養成コース) がん化学療法の推進において、大きな障壁となる用量規定因子である抗がん剤誘発末梢神経障害の重症度を定量化するための血中バイオマーカーについて探索し、候補を選定した。乳腺外科医師と協働しながら、抗がん剤誘発末梢神経障害の発症患者を対象に、血液検体を用いて、候補分子のバイオマーカーとしての妥当性を評価した。一定の成果が得られ、医師、薬剤師、がんプロ履修生の共著で論文を海外学術誌に発表した。さらに、抗がん剤誘発末梢神経障害の新規予防・治療薬の開発を目指し、京都大学が保有する約3000種類の化合物ライブラリーをハイスループットスクリーニングし、有効な候補薬を複数見出した。現在、その研究成果を取りまとめ、海外学術誌に論文を発表した。また、がんプロ履修生が、研究成果の一部を取りまとめ、国内誌に総説として発表した。 また、血液腫瘍内科と連携し、がん化学療法に用いる抗体医薬品の体内動態に関する研究を推進し、海外学術誌に論文を発表した。 【英語原著論文】 1. Cancer Res. 81, 2207-2219, (2021). 2. Neuropharmacology, 188, 108514, (2021). 3. BMJ Open 11, e041543, (2021). 4. PloS one 16(10), e0258601, (2021). 【日本総説】 1. 図解 分子メカニズムから理解する婦人科がん薬物療法(金原出版)、70巻12号

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和3年度 取組状況等
			(医学物理士養成コース) ・照射実績ログ、照射日に撮影した画像、統計形状モデルを駆使して実際に患者に投与した線量分布を再構成する方法を開発しており、呼吸性移動を伴う疾患に対しても展開している。さらに、再構成した分布と計画された分布の差異の経時変化を監視し、適切な治療を提供できるシステムを開発している。 ・京都大学放射線治療科、および関連病院では500件を超える肺癌に対する体幹部定位照射を実施してきた。そのCT画像を用いて人間の目では抽出できない特徴量や施行された放射線治療の線量部の特徴量をアルゴリズムにより抽出し、また予後データと結びつけることにより、CT画像から予後を予測するシステムを開発している。 ・放射線医学への応用が期待される深層学習を用いて、CT画像上で放射線治療計画に必要な臓器の輪郭の自動抽出を行っている。 ・京大病院放射線治療科では三菱重工とともに開発した国産の放射線治療装置Vero4DRTIによる、革新的な新規放射線照射法Dynamic WaveArc照射を用いて臨床にて治療を行っている。またVero4DRTIによる強度変調回転追尾照射などの技術開発も行っている。これらの新規照射法に対する適切な品質管理手法の開発を行っている。また、新規照射法は装置と患者とが衝突する危険性があるため、3Dスキャナを用いて装置-患者の立体像をモデル化し、衝突を未然に防ぐことを可能とする衝突検出システムを開発している。 ・上述のVero4DRTIでは呼吸によって動く腫瘍を自動で追尾して照射する動体追尾照射が可能である。現状では腫瘍付近に金属マーカーを挿入しているが、当グループでは金属マーカーを用いず直接腫瘍を認識するマーカーレス技術を開発している。 ・放射線治療装置に搭載されたシステムで撮像可能なコーンビームCTを利用し、毎照射日の患者の体内位置情報をもとに最適な照射プランを実現する適応放射線治療システムを開発している。
		三重大学	・がんゲノム医療拠点病院の指定を受け、院内および県内から紹介されてくる患者さんにごん遺伝子パネル検査を自施設で実施している。治療方針を決定するエキスパートパネルは毎週火曜日に定期的に開催している。また、がんセンター内に、がんゲノム医療部門を設置するとともに、ゲノム診療科を新設し、がんゲノム医療を受けられる体制の整備を進めている。がん遺伝子パネル検査以外では、ゲノム診療科において遺伝子カウンセリングを既に行っている。 ・がん免疫療法を安全に実施するための医師(がん関連診療科、免疫関連診療科)、看護師、薬剤師、医療安全管理部スタッフ等で構成する免疫療法対策チームを発足し、活動を行っている。
		滋賀医科大学	・附属病院での新たな創薬に向けて、腫瘍内科においてがんペプチドワクチン療法の医師主導型臨床試験を実施し、履修者のOJT教育に生かしている。 ・腫瘍内科を中心に国内外の先端がん免疫療法の医療・研究機関と共同研究体制を構築している。 ・新しいがん医療の開発に向けて大学附属先端がん研究センターを運営するとともに、腫瘍内科と国内外の先端がんゲノム医療・研究機関と共同研究体制を構築している。
		大阪医科薬科大学	令和元年8月に放射線医学教室が「放射線診断学教室」と「放射線腫瘍学教室」が発展的に改組し、個別の教室として教授を配置し開設され、今後がんに関する分野について今まで以上に取り組む。 特に、近年の技術的進歩により、強度変調放射線治療(IMAT)や定位放射線治療(SRT)などの高精度治療の普及、また、ホウ素中性子補足療法(BNCT)の診療・研究の両面での推進するとともに、次代を担う専門医の育成、医学物理士の配備にも注力していく。 さらに、大阪医科大学附属病院は、平成30年4月にがんゲノム医療連携病院の認定を受けて、令和元年4月がん医療総合センター内に新たにがんゲノム医療管理室を設置した。
		京都薬科大学	1. 在宅医療での多職種連携の中で指導的役割を担えるがん専門薬剤師育成を目指し、履修学生教育プログラムを遂行し、多職種連携のがん治療における重要性を学ばせている。また次世代に要求される在宅診療における薬剤師像を考えさせ、学部生の指導に関わらせている。

大阪医科大学は令和3年度より大阪薬科大学と統合し「大阪医科薬科大学」となった。

令和2年度 取組状況等

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
【教育プログラムコース】			
	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	(資料1) 受入目標人数、入学者数・在学者人数
			拠点全体における令和2年度入学生目標人数 34人 に対して、入学実績人数は 32人 であり、受入目標人数を下回った。
			各大学における令和2年度取組状況
	京都大学		毎年、4月上旬開催される新入生オリエンテーションにて、多様な新ニーズに対する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン『高度がん医療を先導するがん医療人養成』の事業取組、がん教育の重要性等の概要説明を実施し、がんプロ履修生の確保に努めていたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の懸念からオリエンテーションが中止となり説明することができなかった。 このため、医学研究科が全ての新入生向け配付する資料に、がんプロに係る「募集案内」、「学事要項」、「登録申請書」、事業概要の「リーフレット」を同封し、新入生に配付した。 また、各コース担当教員に4月初旬にコース登録を開始する旨をメール通知し、関連する講座の新入生にがんプロ履修登録への申請依頼をすると共に、6月開催の養成管理委員会では、令和2年度は履修登録を随時受付する旨を報告し、がんプロ履修生の獲得に努めた。 しかしながら、受入目標人数18名に対して、入学実績人数は17名で下回る結果となった。
	三重大学		入学者の確保をするために、大学院HPでの広報活動に加え、近隣の大学および病院等への募集要項送付、三重県内のがん関連の研修会、セミナー等で各コースの紹介を行った。 その結果、令和2年度には婦人科腫瘍医養成コースに1名、乳癌診療を担う人材養成コースに3名、看護師養成コースに1名の合計5名が入学した。
	滋賀医科大学		令和2年度については、受入れ目標数に達するよう、各講演会・セミナーにおいて本事業及びコースの説明を行った。
	大阪医科大学		各コースを充足するため、WEBサイトや入試要項などによる広報活動を実施した。 ●令和2年度： ・ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース:2名 ・婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース:1名 ・希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース:0名 という結果となり、継続してコース毎の取組みは維持し、次のステップにつなげたい。
	京都薬科大学		大学ホームページおよび大学院パンフレット等による広報活動をはじめ、本学5～6年次生に対して、学内で大学院説明会を実施している。 説明会では大学院進学の意味、「臨床腫瘍薬学」の重要性、ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース(がんプロコース)等の説明を行い、大学院進学を促進している。 令和2年度は受入目標人数を達成した。 令和2年度は、受入目標1人に対して入学実績人数は2人。
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	(資料2) 資格取得者数一覧
			拠点全体として、32名の専門医の資格を取得した。
			各大学における令和2年度取組状況
	京都大学		引き続き、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた講習会を行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し専門医取得指導を行っている。
			(プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース)
			がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の取得に必須となる造血器、呼吸器、消化管、乳房領域の症例について、本人の希望に応じてフレキシブルに経験が積めるよう各診療科と連携を取り研修を行っている。またがん薬物療法専門医取得や更新に必要な臨床腫瘍学会の教育セミナー及び学会参加を支援し、受験のために必須となる病歴要約については専門医資格を有する指導教官が添削・指導を行っている。 令和2年度は2名ががん薬物療法専門医試験に合格。 学会発表や論文執筆に関しても積極的に指導を行っており、令和2年度で計3本の論文執筆指導を行い、国際学術誌に投稿している。
			(がん専門薬剤師養成コース)
			日本医療薬学会がん専門薬剤師・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師・日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師の認定講習会を行うなど、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行っている。 さらに、がんプロ後援セミナーや勉強会などを企画し、がんプロ履修生が最新のがん薬物療法に関する知識を習得できるよう取り組んでいる。R2年度は2月12日(参加者85名)に京都市内にて開催し、多くのがんプロ履修生も参加した。 さらに、症例検討会を定期的に開催し、最新の文献紹介を通してがん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識を習得するとともに、臨床現場で活躍する薬剤師や医師と討議する機会を定期的に設けている。
			(婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) (小児・AYA世代コース) (希少がん及び小児がんに対する放射線治療・医学物理士養成コース) (外科治療・集学的診療コース) (リハビリテーションスタッフコース) (緩和ケアコース)
			令和3年度にまとめて記載。
	滋賀医科大学		履修案内において、それぞれのコースにおいて取得が見込まれる学会資格等の概要、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス(入学前・在学中・修了後)を掲載している。また、医師・医療スタッフ等を対象にがん専門医療人の育成に向けたセミナーを令和2年度は6回開催した。
	三重大学 大阪医科大学 京都薬科大学		令和3年度にまとめて記載。

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
	3	コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか	(資料3)がんプロ履修生調査(要望・改善点)
		京都大学	引き続き、コース履修者の満足度を満たす取り組みとして、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行った。またセミナー、シンポジウムでも都度アンケート調査をおこなった結果、同様のがんプロ事業の継続と同様のセミナー等を望むとの回答が多く寄せられている。
			(がん専門薬剤師養成コース)
			現場における問題点を発見し、自分で解決するための能力を向上させるために、がんプロ大学院生1人1人にリバース・トランスレーショナルリサーチを目指した研究テーマを持たせ、そうした活動を通して医師および薬剤師と積極的に討議する機会を設けている。学会参加・発表やがんプロ協賛セミナーへの参加を通して、がんプロ大学院生のがん薬物療法および関連領域における知識や研究能力のスキルアップのための機会を積極的に設けている。R2年度はコロナ禍の影響で国際学会への参加は見送った。
			(プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) (小児・AYA世代コース) (希少がん及び小児がんに対する放射線治療・医学物理士養成コース) (外科治療・集学的診療コース) (リハビリテーションスタッフコース) (緩和ケアコース)
			令和3年度にまとめて記載。
		滋賀医科大学	・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・がんプロ主催のシンポジウムおよび国内・国際学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果について第三者の評価を受ける機会を設け履修意欲の向上に努めている。 ・コース履修者がより能動的に学び、考察できるよう演習・実習形式の科目を設けている。 ・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・多様ながん医療の動向に対応するインテンスコース主催セミナーを令和2年度は14回開催した。 ・次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。
			令和3年度にまとめて記載。
		三重大学 大阪医科大学 京都医科大学	
	4	がんに特化した講座(平成24年度以降の新設講座)の活動状況	
			令和3年度にまとめて記載。
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況
			(資料6)インテンスコース実施事業
			教員の指導技術向上等のため、教育研究者、看護師等を含めた医療関係者、がんプロ履修生を参加対象者としてフォーラム・シンポジウム、特別講演を実施している。また、インテンスコースにおいては、自大学教職員だけでなく、他大学教職員も含めて、指導技術向上、医療技術向上のため、「専門薬剤師研修」等を開催している。 上記以外にも各コース毎に、週1回程度の合同カンファレンスを行い、教員の指導技術、医療技術の向上に取り組むと共に、がん医療に関するセミナー、講演会等に積極的に参加した。 なお、令和2年2月以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念からセミナー等をオンサイト開催ではなく、主にオンライン開催に変更し開催している。
		京都大学	(外科治療・集学的診療コース)
			がんプロ履修生や教員の発表や情報収集をサポートした。また海外の最先端研究者を招き勉強会を実施している。 ・毎週水曜日症例カンファレンス ・Derek Radisky教授/Mayo Clinic Cancer Center 最新のcancer biology researchについて勉強会(10名)2020.2.14 ・KBCCC京都乳癌コンセンサス会議3/30-4/5 ・上方乳癌研究会(5/23)40名(学内、学外) ・第32回KBCCC レギュラー会議(5/23)約50名(学内、学外) ・第76回京滋乳癌研究会(9/5)43名 ・Best of SABCS Kyoto, 2021 1/9-10, 2021(国際約200名うち学内50名) ・KBCCC, 2021 1/23, 2/2(国際約200名うち学内50名) またAmerican Association for Cancer Research Annual Meeting2020(バーチャル2020/6/22-24)、第28回日本乳癌学会学術総会(バーチャル)、第79回日本癌学会学術総会(バーチャル)などの発表をサポート 発表数34件
			(医学物理士養成コース)
			①放射線腫瘍医、診療放射線技師、看護師、医学物理士合同の症例検討会(約30名)に毎週3日参加し、放射線治療の臨床の現状把握及び課題の抽出を行っている。この検討会にはがんプロ学生も参加している。 ②医学物理士に認定されている教員を対象に、今後資格更新の際に必須となる学会主催の教育セミナーおよび学会やシンポジウムへの参加のサポートを行った。 日本医学物理学会:3名 日本放射線腫瘍学会:3名 米国医学物理学会:3名

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
			(がん専門薬剤師養成コース) 指導教員は指導能力向上のために講演会・セミナー(ex. 2021年2月12日 第4回 2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都・Web開催:参加者85名)の主催・参加を通して、FDに取り組んでいる。 また、がんプロ学生についても、勉強会やセミナーへの参加を励行し、がん薬物療法における必要な専門知識やがん薬物療法についての最新知見の習得を目的として、学会などに参加して情報交換を行うことを支援している。 さらに、勉強会にて、指導教員、がんプロ学生およびがん専門薬剤師で月に数回ディスカッションする機会を設けている。
			(緩和ケアコース) 指導教員は指導能力向上のために日本緩和医療学会と日本ホスピス緩和ケア協会に参加したり、緩和ケア研修会を主催したりして、FDに取り組んだ。また、オンライン緩和ケアセミナーを定期的に開催して、情報交換の機会を持った。
			(プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) (小児・AYA世代コース) (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) (リハビリテーションスタッフコース) 令和3年度にまとめて記載。
		滋賀医科大学	各教員等の知識修得の機会として、病診連携フォーラムや勉強会を開催 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・腫瘍センター講演会 令和2年度 3回(12月23日/48名、1月27日/23名、3月24日/39名)
		大阪医科大学	・三島医療圏がん診療ネットワーク協議会: 参加者40 名<1回開催>
		三重大学 京都薬科大学	令和3年度にまとめて記載。
	6	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備数	令和3年度にまとめて記載。
	7	多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数	令和3年度にまとめて記載。
	8	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績	令和3年度にまとめて記載。
	9	コース履修者の医療チーム・カンサーボードの開催数、期間等	京都大学 実施件数 674件 各コースにおいては、多くの合同カンファレンス等の取り組みが行なわれている。 各コースの取組状況は令和3年度にまとめて記載。 滋賀医科大学 ・附属病院腫瘍センターに教育・研修部門を設置し、コース履修者の医療チーム、カンサーボードへの参加を許可している。令和2年度は11回、コース履修者が参加している。 三重大学 大阪医科大学 令和3年度にまとめて記載。
	10	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	京都大学 令和元年度提出件数 【院内がん登録】 国立がん研究センターへ 3,818件 【全国がん登録】 京都府医師会へ 3,818件 【院内がん登録データを利用した各種QI研究に参加】 ・『小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた小児がん医療提供体制整備に関する研究』代表者 松本 公一(国立成育医療研究センター) ・『QI症例研究』国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策情報センターがん臨床情報部 大阪医科大学 ・令和元(2019)年度 :3438件 三重大学 滋賀医科大学 令和3年度にまとめて記載

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
	11	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数	(資料9)プロトコル作成への関与状況
		京都大学	19件のがんプロ履修生によるプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与が達成され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。
		三重大学	0件
		滋賀医科大学	・令和2年度関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数:1件
		大阪医科大学	該当なし
	12	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	(資料10)国際学会、英文誌への発表一覧
			がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えており、がん医療のグローバル展開を見据え、英文による教育研究成果発表を推進している。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。 拠点全体として、81件の国際学会、英文誌への発表をした。
			各大学における令和2年度取組状況
		京都大学	「がんプロ養成管理委員会」において、履修生自身が海外において研究成果を発表させるため、国際学会への積極的な参加を推進するための支援経費を予算化し発表推進への体制を構築している。 英文研究発表件数は、51件（学会発表 22件、論文発表 29件） うち筆頭発表数は、26件（学会発表15件、論文発表 11件）
		三重大学	10件
		滋賀医科大学	令和2年度国際学会、英文誌への研究論文発表数:5件
		大阪医科大学	該当なし
		京都薬科大学	各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、国際学会・英文誌への成果発表を促している。 令和2年度国際学会研究発表 7件(うち筆頭 5件) 令和2年度英文誌への論文発表 8件(うち筆頭 2件)
	13	コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	(資料11)国内学会、雑誌等への発表一覧
			がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えており、国内学会・和文誌での研究発表を推進させるため、指導教員の推薦の下、論文名、国内学会・和文誌名、研究成果等を記載させ、国内学会・和文誌への発表を推し進めている。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。 拠点全体として、84件の国内学会、和文誌への発表があった。
			各大学における令和2年度取組状況
		京都大学	「がんプロ養成管理委員会」において、履修生自身が国内において研究成果を発表させるため、国内学会への積極的な参加を推進するための支援経費を予算化し発表推進への体制を構築している。 研究発表件数は、41件（学会発表 36件、論文発表 5件） うち筆頭発表数は、27件（学会発表 26件、論文発表 1件）
		三重大学	学会への研究論文の発表については、各コースのコーディネーターが責任を持って、指導・教育に当たり、学会発表を積極的に奨励支援を行った。 国内学会発表件数 令和2年7件
		滋賀医科大学	令和2年度国内学会、和文誌への研究論文発表数:8件
		大阪医科大学	該当なし
		京都薬科大学	各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促している。 令和2年度国内学会研究会発表 24件(うち筆頭 13件)
	14	コース履修者の国際学会等への参加者数	(資料12)海外学会・シンポジウム等参加状況
			がん医療のグローバル展開を見据え、国際学会等へのがんプロ履修生の参加を推進しており、拠点全体として 22名の参加者となった。 なお、令和2年2月末からの新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、渡航自粛等措置を行い学会等へのオンライン参加を取りやめ、オンライン参加に限定した。
			各大学における令和2年度取組状況
		京都大学	「がんプロ養成管理委員会」において、海外腫瘍学会に参加するだけでなく英文研究発表・研究情報交換を前提とする学生に対して支援経費を予算化し経費支援する体制を構築している。 今年度は、医療従事者として新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、旅費支援は中止し、オンライン開催の学会参加費のみを支援とした。 国際学会等への参加者数は、13名
		三重大学	国際学会等への参加者数 0人
		滋賀医科大学	令和2年度国際学会等への参加者数:1名
		大阪医科大学	令和2年度国際学会等への参加者数 2名
		京都薬科大学	令和2年度国際学会等への参加者数 6名

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
	15	コース履修者が国内学会等への参加者数	(資料13)国内学会・シンポジウム等参加状況
			がんプロ履修生が専門的知識を収集できる国内腫瘍学会への積極的な学会参加を推進しており、拠点全体として115名の参加者となった。なお、令和2年2月末からの新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、国内の移動自粛等措置を行い学会等へのオンサイト参加を取りやめ、オンライン参加に限定した。
			各大学における令和2年度取組状況
		京都大学	「がんプロ養成管理委員会」において、国内学会へのがんプロ履修生の積極的な参加と研究成果発表を推進するための支援経費を予算化し助成支援する体制を構築している。今年度は、医療従事者として新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、旅費支援は中止し、オンライン開催の学会参加費のみを支援とした。国内学会等への参加者数は、61名
		三重大学	令和2年4人
		滋賀医科大学	令和2年度国内学会等への参加者数:15名
		大阪医科大学	令和2年度国内学会等への参加者数:12名
		京都薬科大学	令和2年度国内学会等への参加者数 10名
【シンポジウムやセミナー等の実施】			
	16	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況
			(資料6)インテンシブコース実施事業
			各種団体(地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、患者団体等)との連携した取り組みを推進した。
			各大学における令和2年度取組状況
		京都大学	京都大学では、地域貢献のためインテンシブコース(7コース)事業を運用しており、さらに地域医療機関等の各種団体とも連携した取組み推進している。なお、今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の懸念を踏まえ、主にオンラインでの取り組みとした。また、「第8回 臨床腫瘍学会近畿地区セミナー」(2020.10.17 Web配信)の開催にあたり、近畿地区にあるがんプロ3拠点(京都大学拠点、大阪大学拠点、近畿大学拠点)で支援した。
			(プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース)
			該当なし
			(小児・AYA世代コース)
			該当なし
			(希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース)
			市中病院を対象に、より有用性の高い知識と技術の修得を目的としたセミナーを2回開催し、参加施設に対して最新の知見に基づいた放射線治療法を提示した。
			令和3年03月27日 第50回京都放射線腫瘍研究会 96名
			(外科治療・集学的診療コース)
			・Best of SABCS Kyoto, 2021 1/9-1/10, 2021(国際約200名うち学内50名) ・KBCCC,2021 1/23、2/2(国際約200名うち学内50名)
			(リハビリテーションスタッフコース)
			AYAの会のメンバーと協力して医療ケアに対するニーズ調査を行い、リハビリテーションの望まれる事の調査を行った。
			(緩和ケアコース)
			緩和ケア病棟のある医療機関の医師と事例検討を月2回に行っている。
			(がん専門薬剤師養成コース)
			2021年2月12日 第4回 2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都・Web開催:参加者85名、また毎年、京都府下の地域がん医療における病院・薬局・在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた。R2年度は、コロナ禍の影響で中止となった。また、連携大学とのつながりを強化することを目的として、R2年度に連携大学との薬剤師養成コース会議を開催した(2021年2月13日)。京都大学、京都薬科大学、三重大学、滋賀医科大学から39名の参加があり、年次活動の進捗報告と情報交換、ならびにがんプロ履修生に対する「がん患者に寄り添った薬剤師養成の教育」のあり方について議論を行った。
		三重大学	(対面)・MIE Ovarian Cancer Symposiumを2020年10月29日に開催(45名 参加) (Web)・三重Lymphoma Webinarを2020年11月6日に開催(28名参加) (Web)・第12回三重メディカルオンコロジーフォーラムを2020年11月13日に開催(44 名参加) (Web)・Breast Cancer Meeting in 三重を2020年11月27日に開催(45名参加) (Web)・第31回 三重肺癌研究会を2020年12月19日に開催(42名参加) (Web)・第20回 血液腫瘍フォーラムを2021年1月29日に開催(51名参加) (対面)・MIE Ovarian Cancer Symposiumを2021年2月18日に開催(29名 参加)

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
		滋賀医科大学	【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 令和2年度 ・第1回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会レジメン解説・大腸がんの治療(R2/7/30:75名) ・第2回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会レジメン解説・泌尿器がんの治療(R2/8/6:73名) ・第3回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会連携充実加算概要・膀胱がんの治療(R3/3/24:76名) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和2年度 ・「第1、2回がんを学ぼう市民公開講座(R2/10/24)」 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R3/1/21)」 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R3/2/4)」 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R3/2/18)」 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R3/3/4)」/310名(第1～6回合計) ・「第13回東近江圏がん診療公開講座(R3/2/1～3/8)」/1,239名 ・「第14回東近江圏がん診療公開講座(R3/3/1～3/26)」/653名 ・腫瘍センター講演会 第1回(R2/12/23)48名 ・腫瘍センター講演会 第2回(R3/1/27)23名 ・腫瘍センター講演会 第3回(R3/3/24)39名
		大阪医科大学	・三島医療圏がん診療ネットワーク協議会: 参加者40名<1回開催>
		京都薬科大学	1)リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020 京都(2020年10月10日～10月11日、参加者25名、日本対がん協会事業に協力・がんプロ後援) 2)大学院・病院連携プログラムとして、多職種連携の中で指導的役割を担えるがん専門薬剤師育成を目指し履修学生を派遣した。(2021年1月18日～3月12日、京都二赤十字病院に1名) 3)第6回 市民公開講座「放射線治療」(2021年2月15日～2月28日、参加者470名、後援:京都府、京都市、京都府薬剤師会)
	17	社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)	(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況
			社会への情報発信の取組事業として、別添資料「セミナー・シンポジウム等の開催状況(令和2年度)」のとおり推進した。 なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症へのリスクを低減させるため、セミナー等を主にオンライン開催にて取り組んだ。
		各大学における令和2年度取組状況	
		京都大学	京都大学では、社会への情報発信として市民公開講座や各種セミナー等をオンライン開催にて積極的に取り組んでいる。 (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) 該当なし (外科治療・集学的診療コース) 開催なし (小児・AYA世代コース) 令和2年夏に京都府、京都府立医科大学と合同で京都府小児がん拠点病院公開シンポジウムを予定していたが、コロナ禍のため延期となった。 令和2年8月にAYA世代交流会を予定していたが、コロナ禍で中止となった。 令和2年末に患者会(京都たんぼぼの会)を予定していたがコロナ禍で中止となった。 (がん専門薬剤師養成コース) 2021年2月12日 第4回 2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都・Web開催:参加者85名、 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた。R2年度は、コロナ禍の影響で中止となった (リハビリテーションスタッフコース) AYA世代及び両親に対してQOLのアンケート調査を行い、相互の認識のギャップを調査することでお互いを知る試みを行った。
		三重大学	該当なし
		滋賀医科大学	【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和2年度 ・「第1、2回がんを学ぼう市民公開講座(R2/10/24)」 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R3/1/21)」 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R3/2/4)」 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R3/2/18)」 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R3/3/4)」/310名(第1～6回合計) ・「第13回東近江圏がん診療公開講座(R3/2/1～3/8)」/1,239名 ・「第14回東近江圏がん診療公開講座(R3/3/1～3/26)」/653名
		大阪医科大学	該当なし
		京都薬科大学	1)第6回 市民公開講座「放射線治療」(2021年2月15日～2月28日、参加者470名、後援:京都府、京都市、京都府薬剤師会)

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
	18	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	(資料6) インテンシブコース実施事業 京都大学 インテンシブ事業を活用して、継続して地域医療への貢献を推進している。 ・京都放射線腫瘍研究会プログラムを年1回実施 (令和3年3月27日) ・がん専門薬剤師養成研修を実施 (令和3年2月12日) ・家族性腫瘍(遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など)に対応できる医療人育成コースに関するセミナー等を 1 回実施 (令和2年9月25日) を実施、順調に地域医療の貢献を進捗させた。 三重大学 該当なし 滋賀医科大学 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 令和2年度 ・第1回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会レジメン解説・大腸がんの治療(R2/7/30:75名) ・第2回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会レジメン解説・泌尿器がんの治療(R2/8/6:73名) ・第3回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会連携充実加算概要・膵がんの治療(R3/3/24:76名) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和2年度 ・「第1、2回がんを学ぼう市民公開講座(R2/10/24)」 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R3/1/21)」 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R3/2/4)」 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R3/2/18)」 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R3/3/4)」/310名(第1～6回合計) ・「第13回東近江圏がん診療公開講座(R3/2/1～3/8)」/1,239名 ・「第14回東近江圏がん診療公開講座(R3/3/1～3/26)」/653名 ・腫瘍センター講演会 第1回(R2/12/23)48名 ・腫瘍センター講演会 第2回(R3/1/27)23名 ・腫瘍センター講演会 第3回(R3/3/24)39名
【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】			
	19	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	(資料14) 5大学連携海外合同教育セミナー 「がんプロ事業推進運営委員会」において、国際的な視野を有したがん専門医療人養成のために先進的医療・研究機関等にて研修する制度として「5大学連携海外合同教育セミナー」を企画し、毎年度各大学から履修生を選抜して研修を実施する連携事業の枠組みを構築した。これにより、連携大学間の異なった分野の履修生の人材交流、多職種交流、及び先進的医療・研究機関との国際交流を実施する。令和2年度は、「5大学連携海外合同教育セミナー」として、当初オーストラリア国メルボルンにて5/10～5/13開催の「GAP2020」に、がんプロ履修生(医学・薬学)6名が参加・研究成果発表するための渡航予定を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、11/16～11/19にバーチャルカンファレンス開催に変更され、急遽渡航計画は中止した。しかしながら、「GAP2020」バーチャルカンファレンスになったことで、がんプロ履修生の積極的な参加が促進できると連携大学間で意思統一し、がんプロ履修生5名がポスターセッションに研究成果発表、23名が参加し最先端の研究情報を収集する機会を提供できた。 各大学における令和2年度取組状況 京都大学 「がんプロ事業推進運営委員会」にて企画した「5大学連携海外合同教育セミナー」GAP2020バーチャルカンファレンス(2.11.16～2.11.19)に、がん履修生3名がポスターセッションでの成果発表、18名が参加した。 「がんプロ養成管理委員会」において、がんプロ履修生がオンライン開催される国際学会に参加するだけでなく、研究成果発表を前提とする学生2名に対して、学会参加費の支援を行い、学修研究意欲の向上図った。 三重大学 令和3年度にまとめて記載。 滋賀医科大学 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 令和2年度 5大学連携海外合同教育セミナー「GAP Conference2020」Web開催にがんプロ履修生2名が参加した。 大阪医科大学 学内の国際交流基金の整備を行っており、コース履修生が海外への先進的医療・研究機関等へ研修を希望した場合に、教育研究上必要と認められると、一部助成を行うことができる。 京都薬科大学 サポート体制は整備されている。コース履修者が希望すれば留学に必要な資金に充当できる、助成金を支給する学内規程(京都薬科大学科学振興基金規程)や、研究成果を発表するための資金を補助する学内規則(京都薬科大学大学院生学会等参加補助金取扱要綱)を整備している。 2020年11月16日～11月19日「5大学連携海外合同教育セミナー」に、大学院生(がんプロコース履修者)1名が参加し、バーチャルカンファレンスとして開催されたGAP2020にて研究発表をし、最先端のがん研究に係る情報収集を行った。
	20	国際交流プログラムの実施数	(資料14) 5大学連携海外合同教育セミナー 5大学連携の国際交流プログラムとして、11/16～11/19バーチャルカンファレンス開催の「GAP2020」を今年度の「5大学連携海外合同教育セミナー」として位置付け、セッションに教員1名、ポスターセッションにがんプロ履修生5名が発表し、がんプロ履修生(医学・薬学)23名が参加した。 各大学における令和2年度取組状況 京都大学 国際交流・人材交流事業の推進させるため、11/16～11/19バーチャルカンファレンス開催の「GAP2020」のセッションにがんプロ指導教員1名、ポスターセッションにがんプロ履修生3名が発表し、18名が参加した。 (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) 該当なし

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
		三重大学 滋賀医科大学 大阪医科大学 京都薬科大学	(小児・AYA世代コース) 該当なし
			(外科治療・集学的診療コース) ソウル大学研究者との最新癌研究セミナーを予定していたが、コロナウイルス対策のため延期中となっている
			(希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 該当なし
			(がん専門薬剤師養成コース) R2年度はコロナ禍の影響で、教員およびがんプロ履修生の国際学会への参加、国外医療施設での研修などは実施を見送った。
			(リハビリテーションスタッフコース) オーストラリアで開発されたCNQ-YPの日本語版開発をニューキャッスル大学の研究者と共同開発を行った。
			(緩和ケアコース) 該当なし
			(医学物理士養成コース) 該当なし
			三重大大学 該当なし
			滋賀医科大学 該当なし
			大阪医科大学 該当なし
			京都薬科大学 2020年11月16日～11月19日「5大学連携海外合同教育セミナー」に、大学院生(がんプロコース履修者)1名が参加し、バーチャルカンファレンスとして開催されたGAP2020にて研究発表をし、最先端のがん研究に係る情報収集を行った。
	21	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	該当なし

【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】

22	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	(資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況
京都大学	近畿地区にある「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」(大阪大学拠点)と「7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン」(近畿大学拠点)との連携事業として、教職員・学生・一般聴講者を対象としがんプロ人材養成事業の取組概要を周知する「近畿地区3拠点合同フォーラム」を令和2年9月18日にオンライン開催した。 さらに、他拠点が開催するシンポジウム「第4回国際がん研究シンポジウム」(近畿大学)に、本拠点の履修生に周知して履修生 1名が研究成果発表を行い、履修生のプレゼン能力向上を図ると共に、他拠点との人材交流を行った。 地域のがん診療拠点等との連携としては、癌化学療法研究会、緩和ケアセミナー、三島圏域がん研究会等の実施により、地域医療機関・団体との実践教育、多職種教育を実施することができた。 また、各大学のがん相談支援センターががん患者や家族からの意見を集約して、教育内容に反映するシステムを取り入れることで、がん患者の視点に立てるがんプロフェッショナルとしての教育を行うことができた。	
	各大学における令和2年度取組状況	
	がん薬物療法に携わる医師、看護師、薬剤師を対象に、抗がん薬に関する最新かつ高度な専門的知識の普及、及びチーム医療の養成を目的とする研修として、がんチーム医療研修を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大により開催を次年度開催予定に変更した。	
	(プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース)	
	該当なし	
	(外科治療・集学的診療コース)	
	開催なし	
	(小児・AYA世代コース)	
	該当なし	
	(がん専門薬剤師養成コース)	
京都大学	2021年2月12日 第4回 2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都・Web開催:参加者85名、 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた。R2年度はコロナ禍の影響で中止となった。	
	(リハビリテーションスタッフコース)	
	日本理学療法学会第3回がん理学療法部門研究会(オンライン)において研究成果の発表を行う事により意見交換を行った。	
	(緩和ケアコース)	
京都大学	該当なし	

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
		三重大大学	令和2年2月23日(水)に医科歯科連携事業人材養成研修会をWEB形式で開催した
		滋賀医科大学	【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 令和2年度 ・第1回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会レジメン解説・大腸がんの治療(R2/7/30:75名) ・第2回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会レジメン解説・泌尿器がんの治療(R2/8/6:73名) ・第3回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会連携充実加算概要・膀胱がんの治療(R3/3/24:76名) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和2年度 ・「第1、2回がんを学ぼう市民公開講座(R2/10/24)」 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R3/1/21)」 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R3/2/4)」 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R3/2/18)」 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R3/3/4)」/310名(第1～6回合計) ・「第13回東近江圏がん診療公開講座(R3/2/1～3/8)」/1,239名 ・「第14回東近江圏がん診療公開講座(R3/3/1～3/26)」/653名
		大阪医科大学	・三島医療圏がん診療ネットワーク協議会: 参加者40 名<1回開催>
		京都薬科大学	京都薬科大学: 1)リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020 京都(2020年10月10日～10月11日、参加者25名、日本対がん協会事業に協力・がんプロ後援) 2)大学院・病院連携プログラムとして、多職種連携の中で指導的役割を担えるがん専門薬剤師育成を目指し履修学生を派遣した。(2021年1月18日～3月12日、京都二赤十字病院に1名) 3)第6回 市民公開講座「放射線治療」(2021年2月15日～2月28日、参加者470名、後援:京都府、京都市、京都府薬剤師会)
	23	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	(資料14)5大学連携海外合同教育セミナー (資料5)セミナー・シンポジウム等の開催状況 (資料6)インテンシブコース実施事業 (資料15)5大学連携学生短期研修プログラム
			5大学連携としての人材交流、多職種交流を図るため、 1)「5大学連携学生短期研修プログラム」 令和2年12月2日に滋賀医科大学が主幹校として、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からZoomによるオンライン開催により1日短期研修として実施した。 今年度の研修は、オンライン開催でも各大学がんプロ履修生の人材交流・多職種交流が可能な研修内容とするため、当日の9:50～14:00までを第Ⅰ部「講義」として1コマ90分の講義を3コマ開講し、連携する5大学がんプロ履修生35名が参加した。その後の14:30～15:30までは、選抜されたがんプロ履修生15名が3グループ(AYA世代、緩和ケア、ゲノム医療)に分かれて定員制によるライブ配信による「ワークショップ」を開催し、履修生同士でのフリーディスカッションのコース別研修を実施した。特に、ライブ配信によるワークショップでは、がんプロ教育を受ける履修生同士の共通意識の向上を図ることができた。 2)「5大学連携海外合同教育セミナー」 令和2年11月16日～19日、Peter MacCallum Cancer Centerがバーチャルカンファレンスとして開催した「GAP2020 New Frontiers-Leading Inspired Cancer Care」を5大学連携海外合同教育セミナーとして位置付け、連携5大学野がんプロ履修生5名がポスターセッションにて参加発表し、23名のがんプロ履修生が参加した。 3)「5大学連携医療フォーラム」、「近畿地区3拠点合同フォーラム」 今年度の「5大学連携医療フォーラム」は、令和2年9月18日に連携する5大学の医療関係従事者、教育研究者、学生、さらに一般聴講者を対象に、『がん患者や家族の視点を教育内容に反映』をテーマに第Ⅰ部「特別講演」、第Ⅱ部「パネルディスカッション」を新型コロナウイルス感染症の懸念からオンライン開催した。 引き続き、近畿地区にあるがんプロ3拠点(大阪大学拠点、近畿大学拠点、京都大学拠点)合同開催として、全体テーマ『履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成』にがんプロ修了生による「特別講演」、修了生を含めた「パネルディスカッション」をオンライン開催した。
		各大学における令和2年度取組状況	
		がんチーム医療研修(3回予定)新型コロナウイルス感染症拡大により中止 第50回京都放射線腫瘍研究会プログラム(医師・技師・医学物理士96名参加)	
		(プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) がんチーム医療研修(3回予定)新型コロナウイルス感染症拡大により中止	
		(小児・AYA世代コース) 令和3年度にまとめて記載。	
		(希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 年に数回、病棟看護師、外来看護師向けの放射線治療に関する勉強会を開催している。各参加者は、10名～20名程度 令和3年03月27日 第50回京都放射線腫瘍研究会(医師・技師・医学物理士96名)	
		(外科治療・集学的診療コース) 日本癌治療学会:日本癌治療学会がん医療ネットワークナビゲーター実地研修を実施 緩和医療、薬物治療の外来の見学や症例検討会の参加など。2020年度は対応なし。	

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
			(がん専門薬剤師養成コース) 令和3年度にまとめて記載。
			(リハビリテーションスタッフコース) 小児科の医師、看護師と主にAYA世代におけるQOL、ニーズの調査を行う事で多職種で行う事によるケア技術、リハビリテーション技術の向上を行った。
			(医学物理士養成コース) 京都大学工学研究科授業「放射線治療計画・計測学実習」 本コースの教員は、医学物理士の人材養成を図ると共に、医学物理士が効率的に活用できる放射線治療装置の研究者・技師養成のため、工学研究科生命・医工融合分野にて放射線治療の臨床現場で生じた様々な問題に対処し、高精度放射線治療を実現するため装置の性能、照射精度、治療品質を維持管理するための手法を学習できる授業を提供しており、診療放射線関連の研究者、技師養成を行っている。 (参加者数:5名)
		三重大学	緩和ケアセミナー(2件253名)、 TumorBoard(2件30名)、 医師、歯科医師、歯科衛生士が参加する医科歯科連携研修会(1件130名)、 医師、歯科衛生士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師等が参加する医科歯科連携研修会(2件、123名)。
		滋賀医科大学	【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 令和2年度 ・第1回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会レジメン解説・大腸がんの治療(R2/7/30:75名) ・第2回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会レジメン解説・泌尿器がんの治療(R2/8/6:73名) ・第3回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会連携充実加算概要・膀胱がんの治療(R3/3/24:76名) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和2年度 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計23名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計23名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムIで看護師90名にがん医療に関わる研修を実施した。
		大阪医科大学	令和3年度にまとめて記載。
		京都薬科大学	1)大学院・病院連携プログラムとして、多職種と連携できる臨床薬剤師の養成を目指し履修学生を派遣した。(2021年1月18日～3月12日、京都二赤十字病院に1名)
		24	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況
		京都大学	「京大病院ELNEC-J研修会」2021年1月9日1月10日 11名参加 レベルアップ研修会はコロナの影響のため中止 京都府健康福祉部との連携 ・「第1回緩和ケア(PEACE)研修会」はコロナの影響のため中止 ・「ELNEC-J研修会」(エンドオブライフケアについて)はコロナの影響のため中止 (小児・AYA世代コース) 該当なし (がん専門薬剤師養成コース) 該当なし
		三重大学	緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会として、①緩和ケアセミナー(オンライン)を、令和2年10月29日(151名参加)、令和3年1月28日(109名参加)、②対人援助・スピリチュアルケア研修(3日間)を令和2年11月15日、29日、12月13日(6名参加)に開催した。
		滋賀医科大学	【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和2年度 ・腫瘍センター講演会 第1回(R2/12/23)48名 ・腫瘍センター講演会 第2回(R3/1/27)23名 ・腫瘍センター講演会 第3回(R3/3/24)39名
		大阪医科大学	該当なし
	25	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	
		京都大学	がんチーム医療研修(3回予定)新型コロナウイルス感染症拡大により中止 第50回京都放射線腫瘍研究会プログラム(医師・技師・医学物理士96名参加)
		三重大学	例年実施している兵庫県立粒子線医療センターとの連携は、コロナの影響でコース履修者の研修は行われませんでした。
		滋賀医科大学	令和3年度にまとめて記載。
		京都薬科大学	1)大学院・病院連携プログラムとして、多職種連携の中で指導的役割を担えるがん専門薬剤師育成を目指し履修学生を派遣した。(2021年1月18日～3月12日、京都第二赤十字病院に1名) 2)第6回 市民公開講座「放射線治療」(2021年2月15日～2月28日、参加者470名)

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
【事業の運営体制(実施、評価、連携)】			
	26	連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制	事業の運営体制 【事業推進運営委員会】・・・連携5大学間 連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、連携大学担当コーディネータを配置し、事業推進責任者が招集して事業の企画立案・実施・評価の決定を行う。 (構成員) 事業推進責任者、連携大学担当コーディネーター、事業推進運営委員会委員 【養成管理委員会等】・・・各大学 各大学において、事業の実施に向けての現実的な取組を決定 (構成員) 大学担当コーディネーター、コースコーディネーター、事務局担当者 各大学における令和2年度取組状況 京都大学 「事業推進運営委員会」・・・3回(主幹校として開催) 第1回 R2.7.10 第2回 R2.11.18 第3回 R3.2.26 「養成管理委員会」・・・・・・3回 総括コーディネーターを委員長として、事業推進運営委員会で審議決定された事項の取組に向けて意思確認や各担当コースの運営方針を決定する。 第1回 R2.6.17 第2回 R2.10.30 第3回 R3.2.17 三重大学 「5大学連携事業推進運営委員会」が、2020年7月10日に令和2年度第1回が開催され、三重大学から教員1名、事務1名が参加し、2020年11月18日の令和2年度第2回には、教員1名、事務1名が参加、2021年2月26日の令和2年度第3回には、教員1名、事務1名が参加した。 滋賀医科大学 大阪医科大学 京都薬科大学 令和3年度にまとめて記載。
	27	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	【外部評価委員会】 外部有識者を評価委員として外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制を構築しており、令和2年度は、令和元年度事業期間の外部評価を実施した。 なお、令和2年度から外部評価委員については、従前の医師3名による外部評価体制を見直しすることとし、新規に医師以外のメディカルスタッフの薬剤師1名(女性)、看護師1名(女性)、さらに患者団体1名の3名の委員を追加し、6名で構成する外部評価体制にした。これにより今まで以上の広い視野からの観点で令和元2年度事業年度の外部評価を受ける。 ・令和元年度事業年度の外部評価は、令和2年8月に6名の外部評価委員からの評価を受け、全39項目の評価項目のうち、37項目の「A:優」または「B:良」評価、2項目の「C:可」評価であった。 各評価委員からの各評価項目、講評については、令和2年11月18日開催の事業推進運営委員会(第2回)の議題として、連携5大学で評価全般について内容確認の上、プログラムの発展的な見直しのための意見交換を図り、特に、2項目の「C:可」評価である「連携5大学 コース履修生のe-learning受講登録率」、『本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制になっているか』は、改善に向けての対応を協議した。 令和2年度のコース履修生のe-learning受講登録総数は、128名であり、がんプロ関係教職員による受講促進のアナウンス等により、昨年度総数99名より29名の登録者増となった。 各拠点活動は、京都大学拠点ホームページ「イベント」欄での公開講座等の案内、「5大学連携医療フォーラム」欄でのオンデマンド配信、「活動報告」欄での主なプログラムの開催報告、「成果報告」欄での外部評価報告書を公開している。 また、公開講座の案内は、『全国がんプロ協議会』ホームページの「新着イベント情報」欄を活用し、積極的に広報している。
	28	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	令和2年9月18日に「5大学連携医療フォーラム」をオンライン開催として実施、同フォーラムでは、『がん患者や家族の視点を教育内容に反映』をテーマに、第Ⅰ部「特別講演」と第Ⅱ部「パネルディスカッション」を実施した。特定非営利活動法人 がんと共に生きる会 副理事長 濱本 満紀 氏を招き、演題「適切ながん情報の活用とより良いコミュニケーション ～患者にできること、医療者にしかできないこと」の特別講演、その後の「パネルディスカッション」では、本拠点教員によるテーマに沿ったディスカッションを実施、教職員・学生だけでなく、一般聴講者を合わせてオンライン参加110名の参加者であった。 当日のフォーラムでの報告内容は、ホームページにてオンデマンド配信して当日参加できなかった方も視聴でき、広く一般社会に向けて公開している。 http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/forum/event181130
	29	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	連携する5大学の事業を効果的に推進するための「5大学連携事業推進運営委員会」を3回開催、また、大学間の人材交流、多職種交流を目的として「5大学学生短期研修プログラム」(令和2年12月2日)をオンライン研修として実施、「5大学連携医療フォーラム」(令和2年9月18日)をオンライン開催、「5大学連携海外大学合同教育セミナー」(令和2年11月16～19日)としてバーチャルカンファレンス「GAP2020」に参加した。 また、近畿地区にある3拠点(京大、阪大、近大)で持ち回り開催している「近畿地区3拠点合同フォーラム」を主幹拠点として、テーマ「履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成」にがんプロ修了生による特別講演、修了生を含めた3拠点によるパネルディスカッションをオンライン開催し、積極的に取り組むことで他拠点間越える交流を実施した。 さらに、他拠点(近畿大学拠点:7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン)が開催する国際シンポジウム「第4回国際がん研究シンポジウム」については、がんプロ履修生への参加案内を積極的に行った。

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
			各大学における令和2年度取組状況
		京都大学	インテグレーション事業として、連携大学間での情報共有を目的に、毎年、がん専門薬剤師養成連携合同コース会議(年1回)、チーム医療研修(年3回、新型コロナウイルス感染症のため中止)、京都放射線腫瘍研究会(年1回)を開催、さらに、各コースにおいて拠点内大学との研修会が実施され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。 (プレジジョンメディスンがんゲノム医療コース) 該当なし (小児・AYA世代コース) 該当なし (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 5大学連携医療フォーラム(令和2年9月18日)に参加 5大学連携学生短期研修プログラム(令和2年12月2日)に参加 (外科治療・集学的診療コース) 5大学連携医療フォーラムに参加した。 (がん専門薬剤師養成コース) 連携大学とのつながりを強化することを目的として、R2年度に連携大学との薬剤師養成コース会議を開催した(2021年2月13日)。京都大学、京都薬科大学、三重大学、滋賀医科大学から39名の参加があり、年次活動の進捗報告と情報交換、ならびにがんプロ履修生に対する「がん患者に寄り添った薬剤師養成の教育」のあり方について議論を行った。 (リハビリテーションスタッフコース) COVID-19蔓延により実施できず (医学物理士養成コース) 新型コロナ感染症拡大を受け、院外からの人材交流受け入れは実施できなかった。
		三重大学	「5大学連携医療フォーラム」：令和2年度は教員1名がパネリストとして参加した。(2020年9月18日) 「近畿地区3拠点合同フォーラム」：令和2年度はコーディネーター2名が司会・パネリストとして参加した。(2020年9月18日)
		滋賀医科大学	【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 令和2年度 ・5大学連携学生短期研修プログラムに大学院生3名が参加した。 ・がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議(研究発表会)が京都大学主催でWEB開催され、本学より教職員2名(内1名は元がんプロ学生)、大学院生4名が参加し、内1名が研究発表を行った。(R3/2/13) ・附属病院薬剤部で京都薬科大学、立命館大学、大阪薬科大学の学生24名にがん薬物療法の実地研修を行った。 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 令和2年度 ・5大学連携学生短期研修プログラムに大学院生3名が参加した。 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和2年度 ・5大学連携学生短期研修プログラムに大学院生1名が参加した。 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計23名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計23名にがん緩和ケアの実地研修を行った。
		大阪医科大学	該当なし
		京都薬科大学	連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、プログラムコーディネーターを置き、事業責任者が招集する事業推進運営委員会に出席し、事業の企画立案・実施・評価(外部評価を含む。)の決定事項を情報収集する。 5大学連携間 1) 2020年9月18日「5大学連携医療フォーラム」履修学生1名発表、履修学生2名、教職員3名参加 2) 2020年11月16日～11月19日「5大学連携海外合同教育セミナー」に、大学院生(がんプロコース履修者)1名が参加し、バーチャルカンファレンスとして開催されたGAP2020にて研究発表をし、最先端のがん研究に係る情報収集を行った。 3) 2020年12月2日「5大学連携学生短期研修プログラム」履修学生3名、教職員4名参加 他拠点間 1) 2021年1月18日～2月17日「第4回国際がん研究シンポジウム」履修学生2名発表

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
	30	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率	京都大学版 e-learning は、当初からホームページにて受講者募集の案内をしており、その受講できる対象者は、京都大学と連携大学のがんプロ履修生だけでなく、次の方々を受講登録できるシステムであります。 1)京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学とその附属病院等に在籍する医療関係者 2)がん診療を専門とする事を志望する上記各大学の学生 3)本事務局が上記の趣旨に適合すると判断した方 平成29年度がんプロホームページのサイトデザインの刷新と共に、e-learningバナーボタンの変更も実施し、よりわかりやすいデザインに変更を行った。 令和2年度のeラーニングがんプロ履修生受講登録者内訳は、 ・新規申請登録者32名(令和元年度:25名) ・がんプロ履修生の総数143名のうち、受講登録者99名 (令和元年度:総数148名のうち、受講登録者99名) ・受講登録率 拠点全体 69%(令和元年度 66%) 京都大学 73%、67人(令和元年度:82%、83人) 連携4大学 63%、32人(令和元年度:34%、16人) 特に、連携大学での受講登録のアナウンスにより受講率が向上した。 また、がんプロ履修生以外の医療関係者の令和2年度新規申請は、3名(令和元年度:5名)の受講登録がありました。 三重大学 令和2年度第2回事業推進運営委員会にてe-learningの受講登録について、再度周知することが決まったため、各コースコーディネーターに周知するとともに、受講方法について、本学がんプロホームページに継続して掲載し、がんプロ履修生に対し、積極的な登録を促した。 滋賀医科大学 大阪医科大学 京都薬科大学 令和3年度にまとめて記載
	31	新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて	拠点の取り組みとして、令和2年度において、次の5点の講義等について、新たに撮影・収録し聴講できるようにした。これにより、がんプロ履修生や本拠点の医療関係者に向けて、分野横断的、先進的教育研究が推進されるものと期待されている。 ・「がん緩和領域の放射線治療」 滋賀医科大学 医学系研究科・講師 河野 直道 ・「ファーマコゲノミクス検査によるがん薬物療法の個別化」 滋賀医科大学 医学部附属病院・薬剤師 野田 哲史 ・「小児がん治療と妊産性温存」 滋賀医科大学 医学系研究科・病院教授 多賀 崇 ・「診療放射線技師が答える！放射線治療の疑問」 京都大学 医学部附属病院・副診療放射線技師長 藤本 隆広 ・「こんなに役立つ！放射線治療」 京都大学 医学研究科・准教授 松尾 幸憲
	32	主幹大学での事業支援事務組織体制	令和3年度にまとめて記載。
【事業の普及】			
	33	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	本がんプロ拠点のホームページのデザインは、平成29年度にサイトデザインを一新し、引き続き、事業活動の社会への周知、地域医療貢献のために各種フォーラムや公開講座等のイベント活動をホームページに逐次公開しており、社会からのがんプロ活動の理解を頂けるよう発信・充実に努めています。 ホームページ「イベント」欄では、本拠点のイベント活動だけでなく、他拠点との公開講座や近畿地区3拠点とのフォーラム等の開催情報を提供し、他拠点間交流や多職種交流教育にも努めています。 令和元年度に引き続き、「活動報告」欄では本拠点の主なプログラムの取組活動を広く情報公開すると共に、「5大学連携医療フォーラム」欄では、当日の講演内容等もオンデマンド配信にて、広く一般の方に向けて視聴提供をしており、積極的な情報公開を促進しています。 また、ホームページ「成果報告」欄では、毎年度がんプロ事業活動について学外の外部評価委員による評価結果も含む「外部評価報告書」も、HPにて公開しがんプロ事業への理解を得ることに努めています。 http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 「高度がん医療を先導するがん医療人養成」 滋賀医科大学 本学のがんプロホームページから、京都大学拠点事業のホームページへとリンクさせている。 また、本学がんプロホームページには、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載し積極的な情報公開を行っている。 令和2年度更新回数15回 三重大学 大阪医科大学 京都薬科大学 令和3年度にまとめて記載。

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
	34	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組について	
		京都大学	京都府がん医療戦略推進会議の各部会(院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、外来化学療法部会、地域連携部会)および、各種ワーキング(前立腺がん地域連携/パスワーキング等)に参加し、活動に協力した。(総勢29名が活動)※令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、多くの部会がWEB開催となった
			また、府内で実施している以下の事業に講師派遣する等、府のがん対策の企画立案に積極的に協力している。 ・生命のがん教育推進プロジェクト・・・令和2年度は新型コロナウイルスの影響により中止となった
			・かかりつけ医(がん対応力)向上研修・・・地域の医師を対象に最新情報等の研修を行う。本年度は「がんゲノム医療」について医師1名が講演した。 R3.2.28(日) WEB講演
			・隔年で開催している「地域がん相談支援フォーラム in 近畿」の令和3年度開催に向けて、京都府がん相談支援部会の一員として滋賀県がん診療連携協議会と協働し、幹事府県として開催ワーキンググループを開始し、打ち合わせ会議を行った。
			各コースの取組状況は令和3年度にまとめて記載。
		三重大学 滋賀医科大学 大阪医科大学	令和3年度にまとめて記載。
		京都薬科大学	市民の健康福祉に寄与する取り組みとすることを目的として、京都市に後援いただきたき「健康長寿のまち・京都」の取組を応援した。ポスターにロゴマークを掲載し、「健康長寿のまち・京都」ポータルサイトへの掲載をし、広く市民の皆様にご紹介いただいた。 1)第6回 市民公開講座「放射線治療」(2021年2月15日～2月28日、参加者470名)
	35	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	
		京都大学 三重大学 滋賀医科大学	令和3年度にまとめて記載。
	36	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	
		京都大学	令和3年度にまとめて記載。
		三重大学	がんプロ主催の多職種緩和ケアTVカンファレンスは、県内8病院を結んで実施していたが、令和2年4月からは、COVID-19感染拡大の影響を受けて中止を余儀なくされた。
		滋賀医科大学	令和3年度にまとめて記載。
	37	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	
		京都大学	1) 第50回京都放射線腫瘍研究会(2021/3/27):96名 共催:ブレインラボ株式会社、第一三共株式会社 (プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) 該当なし (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 2020年8月29日 第2回京滋がん基礎研究カンファレンス 中外製薬 2020年11月30日 分子標的研究会 MSD (小児・AYA世代コース) 該当なし (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース) 令和3年度にまとめて記載。 (外科治療・集学的診療コース) 京滋乳癌研究会 共催:日本化薬株式会社 9月5日 (緩和ケアコース) 「在宅緩和ケア研修のための双方向遠隔講義」を企業(あゆみ製薬、日本臓器製薬、メディカルシステムネットワーク、アインファーマシーズ)の協力を得ながら開催した。 (がん専門薬剤師養成コース) 令和3年2月12日 第4回 2025年に向けた薬剤師業務研究会 共催:日本化薬株式会社
		三重大学	令和3年度にまとめて記載。
		滋賀医科大学	該当なし

区分	項目 番号	達成目標 (評価項目)	令和2年度 取組状況等
	38	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	
		滋賀医科大学	・次世代シーケンサー、マイクロレイ、パイオマー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんブロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 令和2年度 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計23名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計 23名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムIで看護師90名にがん医療に関わる研修を実施した。
		京都大学 三重大学 大阪医科大学 京都薬科大学	令和3年度にまとめて記載。
	39	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	
		京都大学	(プレジジョンメディシンがんゲノム医療コース) 該当なし (外科治療・集学的診療コース) 光超音波技術を用い、血管が関与する疾患のより早期での診断、治療方法の精密化、個別化を目指す研究を進めている。 また関連病院と共同で共通フォーマットでの診療データベースを運営し、定期的なデータを集約し、WEB化に向け推進。さらに臨床データをAIを用いてデータベースとして活用できる形に実装化など、人工知能を用いた技術にも着目し今後展開を図っている。 (小児・AYA世代コース) (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) (リハビリテーションスタッフコース) (緩和ケアコース) (がん専門薬剤師養成コース) (医学物理士養成コース) 令和3年度にまとめて記載
		三重大学 滋賀医科大学 大阪医科大学 京都薬科大学	令和3年度にまとめて記載。

区分	大学名 ・専攻名	コ ー ス 名	受入目標人数					入学者数					在学者人数									
			年度別					計	年度別					計	1年次	2年次	3年次	4年次	計			
			H29	H30	R1	R2	R3		H29	H30	R1	R2	R3									
① ゲノム医療従事者の養成			8	8	8	8	8	40	5	6	9	9	5	34	5	9	8	7	29			
	1 京大・医学	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	3	3	3	3	3	15	3	2	3	1	0	9	0	1	3	3	7			
	2 京大・医学	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	1	1	1	1	1	5	1	3	2	3	2	11	2	3	2	3	10			
	3 三重大・生命医科学	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	1	1	1	1	1	5	0	0	1	1	1	3	1	1	0	0	2			
	4 滋賀医科・医学	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	1	1	1	1	1	5	0	0	2	2	1	5	1	2	2	0	5			
	5 滋賀医科・医学	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	1	1	1	1	1	5	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1			
	6 大阪医科・医学	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	4			
② 希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成			8	8	8	8	8	40	4	5	6	3	4	22	4	3	6	5	18			
	7 京大・医学	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	2	2	2	2	2	10	0	2	2	0	1	5	1	0	2	2	5			
	8 京大・医学	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	3	3	3	3	3	15	3	3	3	3	3	15	3	3	3	3	12			
	9 三重大・生命医科学	小児がん治療専門医養成コース	1	1	1	1	1	5	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0			
	10 滋賀医科・医学	小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース	1	1	1	1	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	11 大阪医科・医学	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	1	1	1	1	1	5	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1			
③ ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成			19	18	21	18	21	97	17	23	30	20	27	117	27	21	28	14	90			
	12 京大・医学	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4	4	4	4	4	20	8	4	10	4	5	31	5	4	11	5	25			
	13 京大・人間健康	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	1	1	1	1	1	5	1	1	1	2	1	6	1	2	0	0	3			
				1	1	1	1	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1			
	14 京大・医学・薬学	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	1	1	1	1	1	5	2	1	1	1	2	7	2	1	1	0	4			
	15 京大・医学・人間健康	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	1	1	1	1	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			1	1	1	1	1	5	1	2	4	1	6	14	6	1	2	0	9			
	16 京大・医学・人間健康	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	1		1		1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			1		1		1	3	0	1	1	1	2	5	2	1	1	0	4			
								0	0	2	2	1	1	6	1	1	0	0	2			
	17 三重大・生命医科学	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	1	1	1	1	1	5	1	1	1	0	0	3	0	0	1	1	2			
	18 三重大・生命医科学	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	1	1	1	1	1	5	0	0	2	3	3	8	3	3	2	0	8			
	19 三重大・生命医科学	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	1	1	1	1	1	5	0	1	0	0	2	3	2	0	0	1	3			
	20 三重大・生命医科学	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	1	1	1	1	1	5	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1			
	21 三重大・看護学	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	2	2	2	2	2	10	2	1	1	1	2	7	2	1	1	1	5			
	22 滋賀医科・医学	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	1	1	1	1	1	5	0	3	0	2	2	7	2	3	1	1	7			
	23 大阪医科・医学	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	1	1	1	1	1	5	1	1	1	2	0	5	0	2	1	1	4			
	24 京都薬大・薬学	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	1	1	1	1	1	5	1	4	4	2	1	12	1	2	5	3	11			
合 計			35	34	37	34	37	177	26	34	45	32	36	173	36	33	42	26	137			
			(大学別内訳)		京 都 大 学	18	18	20	18	21	95	19	22	30	17	23	111	23	17	26	17	83
					三 重 大 学	8	8	8	8	8	40	4	3	6	5	8	26	8	5	5	3	21
					滋 賀 医 科 大 学	4	4	4	4	4	20	0	3	2	5	3	13	3	6	3	1	13
					大 阪 医 科 大 学	3	3	3	3	3	15	2	2	3	3	1	11	1	3	3	2	9
					京 都 薬 科 大 学	1	1	1	1	1	5	1	4	4	2	1	12	1	2	5	3	11

大阪医科大学は令和3年度より大阪薬科大学と統合し「大阪医科薬科大学」となった。

資料 2 「資格取得者数一覧」(平成29年度～令和3年度)

コースを開設している 大学・研究科・専攻 名	コース名	修 業 年 限	④受験・合格・資格取得者数																	
			学会等認定資格名	H29			H30			R1			R2			R3				
				受験 者数	合格 者数	資格 取得 者数	受験 者数	合格 者数	資格 取得 者数	受験 者数	合格 者数	資格 取得 者数	受験 者数	合格 者数	資格 取得 者数	受験 者数	合格 者数	資格 取得 者数		
計			16	16	31	21	18	31	31	32	35	29	29	30	7	6	6			
京都大学医学研究科 医学専攻	プレジジョンメディシンに対応できるがん ゲノム医療従事者養成コース	4年	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）			1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	
	プレジジョンメディシンに対応できるがん ゲノム医療従事者養成コース	4年	がん治療認定医 （日本がん治療認定機構）						1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	プレジジョンメディシンに対応できるがん ゲノム医療従事者養成コース	4年	外科専門医 （日本外科学会）						1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	
	プレジジョンメディシンに対応できるがん ゲノム医療従事者養成コース	4年	総合内科専門医 （日本内科学会）						0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
	プレジジョンメディシンに対応できるがん ゲノム医療従事者養成コース	4年	消化器病専門医 （日本消化器病学会）									1	1	1	0	0	0	0	0	
	プレジジョンメディシンに対応できるがん ゲノム医療従事者養成コース	4年	認定産業医 （日本医師会）								0	0	1	0	0	0	0	0	0	
京都大学医学研究科 医学専攻	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養 成コース	4年	産婦人科専門医 （日本産科婦人科学会）			0	0	1	0	0	2	0	0	0	3	3	3	0	0	0
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養 成コース	4年	婦人科腫瘍専門医 （日本婦人科腫瘍学会）			0	0	1	0	1	1	1	2	1	2	2	2	1	1	1
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養 成コース	4年	産科婦人科内視鏡技術認定医 （日本産科婦人科内視鏡学会）			1	1	0	1	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養 成コース	4年	がん治療認定医 （日本がん治療認定機構）			0	0	1	0	0	2	1	0	0	1	1	2	0	0	0
京都大学医学研究科 医学専攻	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療 法開発を目指す医療人養成コース	4年	小児科専門医 （日本小児科学会）						0	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療 法開発を目指す医療人養成コース	4年	がん治療認定医 （日本がん治療認定機構）									1	0	0	0	0	0	0	0	0
京都大学医学研究科 医学専攻	希少がん及び小児がんに対する放射線 治療を担う人材養成コース	4年	放射線治療専門医 （日本放射線腫瘍学会）			2	2	6	0	0	1	4	4	4	1	1	1	3	3	3
	希少がん及び小児がんに対する放射線 治療を担う人材養成コース	4年	放射線専門医 （日本医学放射線学会）			0	0	1	0	0	0	0	0	1	4	4	2	0	0	0
	希少がん及び小児がんに対する放射線 治療を担う人材養成コース	4年	がん治療認定医 （日本がん治療認定機構）			0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1
	希少がん及び小児がんに対する放射線 治療を担う人材養成コース	4年	指導医 （日本医学放射線学会）			0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
京都大学医学研究科 医学専攻	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	外科専門医 （日本外科学会）			0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	2	3	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器外科専門医 （日本消化器学会）			1	1	2	0	0	0	1	1	0	2	2	2	1	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器がん外科治療認定医 （日本消化器外科学会）			0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	がん薬物療法専門医 （日本臨床腫瘍学会）			0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器病専門医 （日本消化器病学会）			0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器外科指導医 （日本消化器外科学会）			0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	技術認定医 大腸 （日本内視鏡外科学会）			1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	がん治療認定医 （日本がん治療認定機構）			0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	放射線診断専門医 （日本医学放射線学会）			1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	核医学専門医 （日本核医学会）			1	1	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	乳腺専門医 （日本乳癌学会）			0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	検診マンモグラフィ読影認定医 （日本乳がん検診精度管理中央機構）			0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外 科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	肝臓専門医 （日本肝臓学会）			0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0

コースを開設している 大学・研究科・専攻 名	コース名	修 業 年 限	④受験・合格・資格取得者数																
			学会等認定資格名	H29			H30			R1			R2			R3			
				受験 者数	合格 者数	資格 取得 者数	受験 者数	合格 者数	資格 取得 者数	受験 者数	合格 者数	資格 取得 者数	受験 者数	合格 者数	資格 取得 者数	受験 者数	合格 者数	資格 取得 者数	
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	日本メディカルAI学会 公認資格 (日本メディカルAI学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	リンパ浮腫保険診療医	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
京都大学医学研究科 医学専攻	ライフステージに応じた最先端放射線治療のい実現を担う医学物理士養成コース	4年	医学物理士 (医学物理士認定機構)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
三重大大学医学系研究 科生命医学専攻	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	4年	認定血液専門医 (日本血液学会)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	4年	総合内科専門医 (日本内科学会)				1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三重大大学医学系研究 科生命医学専攻	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	4年	外科専門医 (日本乳癌学会)	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	4年	乳腺専門医 (日本乳癌学会)							1	1	1	0	0	0	1	1	1	
三重大大学医学系研究 科生命医学専攻	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医 (日本婦人科腫瘍学会)	1	1	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三重大大学医学系研究 科生命医学専攻	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	4年	放射線治療専門医 (日本医学放射線学会)				1	1	1	0	0	0	1	1	1	2	2	2	
三重大大学医学系研究 科看護学専攻	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	2年	がん看護専門看護師 (日本看護系大学協議会)	2	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2	0	0	0	
三重大大学医学系研究 科生命医学専攻	ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース	4年	臨床遺伝専門医(日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	2	2	2	
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	肝臓専門医 (日本肝臓学会)	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	日本消化器外科学会専門医				1	1	1	0	0	0	0	0	0				
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	日本医療薬学会認定薬剤師				2	2	2	0	0	0	0	0	0				
	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	2019/01 日本医療薬学会認定 がん指導薬剤師取得				1	1	1	0	0	0	0	0	0				
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	日本内視鏡外科学学会 技師認定医(胆道)				1	0	0	0	1	1	0	0	0				
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	日病薬病院薬学認定薬剤師				1	1	1	1	1	1	0	0	0				
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)				1	0	0	0	1	1	0	0	0				
	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	日本内視鏡外科学学会 技師認定医				1	0	0	0	1	1	0	0	0				
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	腎臓病薬物療法専門薬剤師										1	1	1				
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師										1	1	1				
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	高血圧・循環器病予防療養指導士										1	1	1				
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	2年	日本消化器外科学会(専門医・消化器がん外科治療認定医)										1	1	1				
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	2年	救急認定薬剤師(暫定認定)													1	1		
大阪医科薬科大学医学 研究科医学専攻	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)										0	0	0				
	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会)										0	0	0				
大阪医科薬科大学医学 研究科医学専攻	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	日本消化器病学会専門医 (日本消化器病学会)							1	1	1	0	0	0				
	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	内科認知医 (日本内科学会)							1	1	1	0	0	0				
大阪医科薬科大学医学 研究科医学専攻	放射線療法専門医養成コース	4年	放射線科専門医 (日本医学放射線学会)							1	1	1	0	0	0				
大阪医科薬科大学医学 研究科医学専攻	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	JBCT日本がん治療認定医機構 がん治療認定医試験	0	0	0	2	2	2	1	1	1	0	0	0				
	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	日本産科婦人科学会 専門医	1	1	1	0	0	0	2	2	2	0	0	0				
	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	日本癌治療認定医							1	1	1	0	0	0				
	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医							1	1	1	0	0	0				
京都薬科大学薬学研 究科薬学専攻	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	4年	がん専門薬剤師 (日本医療薬学会)	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	

令和3年度 がんプロ履修生調査(要望・改善点)

【京都大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	いつもさまざまな形でサポート下さり、大変感謝しております。研究発表旅費の助成につきまして、可能なら通年で、発表抄録と参加費の領収書があれば申請可能なフォーマットですと、より利用しやすいのではと思いました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	COVID-19のため個人的には最後まで活用することがなかったのが残念ですが、今後も海外学会現地参加への助成はぜひ継続してほしいです。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	記録のために、ここでも入力したデータを入力者へ送信してほしい	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	今年のリトリートは色々な科の先生方の研究内容が聞けてとても楽しかったです。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
5	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	満足しております。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
6	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	セミナーでは他グループの研究報告など、非常に興味深く拝聴させていただいています。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
7	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	5大学連携医療フォーラムでは他の科の先生方や、他大学、コメディカルの状況も知ることができ、大変参考になります。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
8	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	現地参加も始まっているので旅費の支給をお願いしたいです。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
9	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	研究発表旅費助成につきまして、参加費のみでなく旅費を含めた助成の再開を希望致します。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
10	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	お世話になっております。満足しています。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
11	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	医療フォーラムが平日の時は、外勤のため参加困難なことがある。他科領域の講義を聞くことも勉強になる。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
12	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	癌について包括的な知識の習得はできたように感じるが、病院での実際の臨床についてのリハビリ目線の講義がなかったため、臨床腫瘍学の講義などであると良いと感じた。	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成
13	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	E-ラーニング講義の内容を更新していただけると幸いです	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成
14	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	講演が非常に勉強になっている。	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
15	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	患者団体を含んだ医療従事者の多職種での討論に参加することができ、大変勉強になりました。両者の意見を拝聴し、将来どのような医療者を目指すかを考えるきっかけとなりました。今後もこのような討論に積極的に参加したいと感じました。	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース

16	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	Eラーニングの講義は収録時期が古いものもありますので、適宜更新していただきたく存じます。	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
17	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	自分の専門分野を超えて幅広い知識を得ることができ、非常に満足しております。	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
18	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	講演会に参加することがとてもありがたいです。	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース

【三重大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点、満足点)	大学で開催されている全てのセミナーを、個人情報ふせて配慮しながらWebで開催してほしい。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	がん診療のみでなく基礎研究についても関わることで興味深かった。	小児がん治療専門医養成コース
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	コロナ渦によるがんプロ対象セミナーの中止や延期が多く残念ではありましたが、e-learningやzoom開催があった点は参加しやすくてよかったです。例年よりも少なかった分、次年度は対象セミナーがもう少し増えればと思います。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	オンデマンド配信の講座があり参加しやすかった。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
5	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点、満足点)	今年度はZOOMでの配信であり、授業を聞き逃す機会が減りとても助かりました。画面を共有しながら授業してくださるのでよりわかりやすかったです。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
6	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	月曜日、金曜日開催の講演会が多く、参加できない時が多かった。ビデオでいつでも見れるまた週末にも見れるとよかった。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
7	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点、満足点)	多数の科の先生の話聞く良い機会であった。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
8	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	講演会が1年の上半期に集中しており、もう少し期間をバラけていたほうが受講しやすい。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
9	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点、満足点)	現地でセミナーに参加するのは困難なことも多いため、今後もWEB開催を増やしていただけると幸いです。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
10	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	講義、セミナーともにzoom参加が可能であったため、参加しやすくてよかった。今後もzoom参加、対面参加の選択ができる形を継続していただきたい。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
11	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	がん看護専門看護師から、実臨床を通した講義を聞いたり、がん看護実習においては臨床医からも指導をいただき、良い学習の機会を得ている。しかし、COVID-19感染の影響で、大学院生室で学ぶ時間が減っていることは、やむを得ないが残念である。	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース

【滋賀医科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点など)	現状を継続できれば良い	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点など)	本年度は5大学連携医療フォーラムに参加できませんでしたが、ぜひ次回回は参加したいと思うプログラムでした。	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース

3	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点など)	コロナの影響が甚大であり、海外研修など職場の規定もあり参加が困難の1年でした。 オンラインの合同セミナーなど、グローバルに触れる機会を癌プロとしてより増やして頂ければありがたいと思います。	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース
4	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点など)	「5大学連携 医療フォーラムについて」 要望・セミナー類の開催日程の見直し、平日では業務を休まないといけないため休日や業務後の開催を希望する	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース
5	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点など)	5大学連携 医療フォーラム等の参加を求められるセミナーについて、平日に行う場合は1ヶ月以上前に日時を示しておいてほしい。 先日の「5大学連携学生短期研修プログラム」は1ヶ月前に日程の連絡があり、勤務調整が非常に困難であった。	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース

【大阪医科薬科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	特になし	

【京都薬科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	がんプロ主催のセミナーについて、興味深いテーマが多く大変有意義に勉強ができました。 少しずつ他大学との交流も増えていけばと思います。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	医療フォーラム等にオンラインで積極的に参加することができて勉強になった。 実際に現場を見ることができないのは残念であったが、場所を気にせずに新たな知見を得ることができる貴重な機会だったので、とても満足できた。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	特になし	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	概ね満足	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
5	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	2カ月ある研修プログラムの予定を1年単位で計画していただきたいです。実習が始まるかもしれないと想定して1年間過ごし、長期間研究室に通う必要がある動物実験などの実験計画が立てづらかったです。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
6	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	Eラーニング講義は、様々ながんや治療について学ぶのに非常に役立っています。 5大学連携医療フォーラムなどの発表の場は、他大学の先生や学生の方からの意見などを聞くことができ参考になります。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
7	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	今年度は、コロナ禍の影響もありZOOMによる講座や会議への参加が主でしたが、新たな知識を多く得ることができたので満足しています。コロナの感染拡大状況が改善しましたら、実地での見学や講義を開催していただけることを期待しております。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
8	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	京都薬科大学では、がんプロ教育プログラムとしてがんプロ生の臨床実習が盛り込まれています。 しかし、実習期間や受け入れ先、実習内容等の連絡が直前に決まるため研究活動との兼ね合いが非常に難しいです。 可能であれば、もう少し前もって予定を組んでいただき、がんプロ生としてしっかり準備して実習に臨める体制があるとありがたいと思います。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
9	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	特に問題なく、研究させていております。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース

令和2年度 がんプロ履修生調査(要望・改善点)

【京都大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	「研究発表旅費助成」、「海外合同教育セミナー」で学会に参加でき勉強となった。 他のプロジェクトで行われていることもあります、Career developmentについてのセミナー等あるといいかもしれません。	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	この書式の最下部にある「注意事項」はもっと上方に記していただけると良いと思います。	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	5大学連携医療フォーラムは大変勉強になりました。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	2020年4月に参加を予定していたAACRへの参加を新型コロナのためにキャンセルしたのが残念だった。5大学連携医療フォーラムのワークショップに参加したが、他大学他職種の方々とケーススタディで議論できたのは有意義であった。海外学会参加への助成はぜひ継続してほしい。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
5	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	いつもありがとうございます。セミナーはフォーラムでは、自分の研究テーマ以外の癌種について、またコメディカルの方の考えなどを学ぶ機会を得ることができ、大変勉強になっています。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
6	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	2020年度はコロナの影響もあり、あまり活動できませんでしたが、次年度は積極的に発表など行いたいと思います。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
7	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	普段の腫瘍学の講義は学年が比較的近い先生方の研究内容を聞けて非常に刺激になりました。後期に出産で休学していたので、来年の受講も楽しみです。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
8	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	コロナ禍であまり活用できませんでしたが、今後活用していきたいです。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース
9	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	第4回国際がんシンポジウムに参加させていただいたことは、大変貴重な経験になりました。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース
10	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	e-learningでは、普段関わることの少ない他科の先生の知見を学ぶことができるので、非常にためになりました。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
11	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	コロナ渦のため学会参加がwebに制限される年となりましたが、今年は海外学会への参加を助成して頂きました。非常に勉強となりました。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
12	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	E-ラーニングの教材についてですが、内容の更新が必要な分野があります。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
13	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	年度途中からの参加であり、まだよくわかっていません。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
14	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	このプロジェクトに参加することで、研究計画と実施の両面で多くの助けを得ることができました。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
15	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	学会参加の費用など日頃からご支援いただきましたこと大変ありがたいです。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成

16	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	E-ラーニング講義を受けさせていただきました。たいへん勉強になりました。10年前の講義ですが、更新の予定などはあるのでしょうか。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
17	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	E-ラーニングについて、普段なら聞きできない先生方の講義を拝聴できたことは非常に有意義でした。特に、乳がんと子宮頸がんの講義が興味深かったです。一方で、講義収録日が10年以上前のものが多く、エビデンスの信頼性について疑問を抱きました。	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成
18	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	E-ラーニング講義について、がんに関連する知識を網羅的に取得できたことは非常に満足している。ただ、リハビリテーションへの活用ができる実践的な内容というものは少なかったように思う。実践的な内容を講義として学ぶことができればさらに満足できる内容になると考える。	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成
19	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	がんプロ関連セミナーやフォーラムで、がんに関する幅広い分野の講演や発表を聞くことができ、大変勉強になりました。また、コース会議で、大学院での研究の成果を発表させていただき、他大学の先生方からもご意見や賞賛のお言葉をいただくことができ、大変励みになりました。	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
20	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	コロナ禍で多くのイベントがオンライン開催となりましたが、特段のストレスなく拝聴できました。場所によって参加が難しい会場もあるかと思いますが、この形式を続けていただくことで教員・学生共に参加しやすいように思えます。E-ラーニングの受講も継続しておりますが、動画によっては10年ほど前に撮られたものもあり、どこまで現状を反映しているのかわからないところもありました。	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
21	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	5大学学生短期研修プログラムのワークショップで、他の病院や他職種の先生方と具体例を通じて現在の課題について共有することができ、とても貴重な経験をすることができました。今回のワークショップのような、多施設・多職種間で事例をもとに議論し、情報共有を行える場に積極的に参加していきたいです。	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
22	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	COVID-19の影響で難しいですが、他大学の学生さんと交流・連携する機会があるとよいかもしれません。	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
23	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	いつも細やかなご連絡等でご支援くださりありがとうございます。	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース
24	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	The Cancer Pro program is the best program I have ever attended. Through the lectures, I have built a solid foundation of knowledge structure. The forums broaden my horizons and let me have the chance to discuss with others. Now I am a better soliders in the fight with cancer. I sincerely hope the program become more and more prosperous.	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
25	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	5大学連携フォーラムや各種セミナーがたびたび開催されるので非常に勉強になっており、満足している。	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
26	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	令和2年度 5大学連携海外合同教育セミナーの派遣履修生としてお選び頂き心より感謝申し上げます。 GAP2020は現地開催(メルボルン)が予定されていましたが、日程変更を経てバーチャルカンファレンスでの開催となりました。来年度以降に同様の海外研修が開催される場合、参加を強く希望致します。	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
27	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	「5大学連携医療フォーラムについて」：他大学の方の研究が聞けて良かったです。	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
28	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	e-learningは内容が充実していました	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース

【三重大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点、満足点)	zoomを用いたオンライン講座など興味深い講座があったが就業時間内のため予定が合わず参加できませんでした。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	なかなか参加できないことも多かったですが、e-learningで受講可能なものは便利で自分で勉強する機会を増やすことにもなり、とてもためになりました。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース

3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	がん医療・看護における最新の知見や理論を学ぶことができて、有意義ではあったが、COVID-19感染の影響で実習以外オンラインであり、やむを得ないが残念である。	地域包括ケアのもとで ライフステージに対応した がん医療を担う看護師養成 コース
4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	がん医療に関わる様々なセミナーがあり多くのことを学ぶことができた	小児がん治療専門医養成 コース

【滋賀医科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望・改善点など)	特になし	

【大阪医科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	特になし	

【京都薬科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	コロナウイルスの影響により、他大学との交流ができていない状況の中で、オンラインによる医療フォーラムや合同シンポジウムを行うことは、他大学の研究状況を知ることができてとても有意義でした。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	2021年7月に開催されました市民とがんプロの交流は非常に勉強になりました。なかなか日頃患者側の立場での苦労を体感できないので有意義なセッションでした。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	がんプロのシンポジウム等がコロナの影響でオンラインになりましたが、自宅からでも参加でき、議論も比較的活発に行われていたと思うので、これからもオンラインでのこのような活動を続けていっていただきたいです。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	病院実習などの際は、もう少し事前にやることなどの打ち合わせを行い、もっと有意義な実習にするべきかと思います。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
5	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	Eラーニング講義は、様々ながんや治療について学ぶのに非常に役立っています。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
6	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	コロナ禍でも多数のオンラインセミナーやEラーニング講義に参加することができて良かった。他大学や他研究室での研究活動を見学する機会等がもう少しあってほしい。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
7	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点、満足点)	特に問題なく、研究させて頂いております。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース

がんに特化した講座の設置状況

大学名	名称	分類	目的	体制	総計	専任						兼任						設置年月
						計	教授	准教授	講師	助教	その他	計	教授	准教授	講師	助教	その他	
京都大学	京都大学大学院医学研究科医学専攻腫瘍薬物治療学分野	化学療法	1)化学療法を中心とした高度ながん治療を展開する	[計画] 教授1(専任)、准教授1(専任)、助教1(専任)	3	3	1	1		1		0						H24.09
			2)化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医を養成する	[実施] 教授1(専任)、准教授1(専任)、講師1(専任)、助教2(兼任)	5	3	1	1	1			2				2		
三重大学	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻放射線腫瘍学講座	放射線療法	医学部、大学院での放射線治療の教育を充実させることにより、放射線治療医の育成を強化し、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することを目的とする。	[計画] 教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	2	1			1		0						H24.04
				[実施] 教授1名(兼任)、助教1名(専任)	2	1				1		1	1					
滋賀医科大学	滋賀医科大学医学部臨床腫瘍学講座	化学療法 その他	最新のがん薬物療法を促進するとともに、がんの予防、診断、治療の面から高度先進がん医療の研究・臨床展開と教育を通じたがん専門医・医療スタッフの育成を推進し、社会に貢献する。	[計画] 教授(専任)1名、講師(専任)2名、助教(専任)1名	4	4	1		2	1		0						H24.10
				[実施] 教授(専任)1名、講師(専任)3名、講師(兼任)2名、助教(兼任)1名	7	4	1		3			3			2	1		
大阪医科大学	大阪医科大学医学研究科医学専攻放射線腫瘍学教室	放射線療法	医学の発展に放射線医学がどのように関わり、貢献しているかを明らかにするために放射線医学全般に関する造詣を深め、放射線腫瘍学の進歩に貢献することを目的とした研究を行う。放射線腫瘍学を軸として、生物学的、物理学的要素を加味し、悪性腫瘍の治療成績の向上と副作用の軽減を目的とした研究を行わせる。	[計画] 教授(専任)1名、准教授(専任)1名、講師1名、助教3名	4	4	1	1	1	3		0						R1.08
				[実施] 教授(専任)1名、准教授1名、講師1名、助教1名	4	5	1	0	1	3		0						

資料 5

セミナー・シンポジウム等の開催状況（令和3年度）

※「参加大学数」は、京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学）以外の大学等を示す。
 ※「学内参加者数」は主催大学以外の京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学）の大学を含む。

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	令和3年度目標			令和3年度開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	
										うち拠点外大学数
1	がんプロ5大学連携「医療フォーラム」	京都大学	1	120	5	1	95	25	7	2
2	がんプロ5大学連携合同教育セミナー	京都大学	1	35	5					
3	がんプロ腫瘍セミナー	京都大学	2	50	1					
4	がんプロ特別講演	京都大学	7	280	1					
5	京都府立医科大学・京都大学連携「府民公開講座」	京都大学	1	220	2					
6	がんリハビリテーション特別講演	京都大学、近畿大学	2	70	1					
7	京都がん研究会	京都大学	2	100	1					
8	京都乳がん市民公開講座	京都大学	1	50	1					
9	骨転移セミナー	三重大学	1	50	1					
10	早期からの緩和ケアを考える会	三重大学	1	50	1					
11	医科歯科連携推進人材養成研修会(2月に開催予定)	三重大学	1	120	1					
12	緩和ケアセミナー	三重大学	1	60	1	2	30	85	11	9
13	がんチーム医療研究会	三重大学	1	90	1	1	28	49	1	1
14	膝がん撲滅パープルリボンオーク・セミナー	三重大学	1	100	1	1	113	205	5	1
15	三重がん看護フォーラム	三重大学	1	100	2	1	13	102	6	5
16	三重大ELNECコアカリキュラム	三重大学	1	80	2					
17	三重がん看護専門看護師会議	三重大学	12	180	2	12	58	152	4	3
18	滋賀がん医療講演会(腫瘍センター講演会)	滋賀医科大学	3	60	1					
19	滋賀がん市民公開講座(がんを学ぼう市民公開講座)	滋賀医科大学	4	40	1	3	オンライン開催 参加者数:274名		1	0
20	滋賀県がん医療啓発フォーラム	滋賀医科大学	1	80	1					
21	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース(地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース)	滋賀医科大学	2	200	1					
22	滋賀県がん薬物療法conference	滋賀医科大学	3	90	1					
23	若年がんを考える会(小児・AYA世代のがん患者を支える公開セミナー)	滋賀医科大学	2	40	1					
24	市民公開講座(乳がんまたは消化器がん)	滋賀医科大学	1	120	1					
25	滋賀癌化学療法研究会	滋賀医科大学	1	50	1					
26	三島医療圏がん診療ネットワーク協議会	大阪医科薬科大学	2	70	1	2022/1/27 オンライン開催予定				
27	三島圏域がん研究会	大阪医科薬科大学	2	200	1	3	233	0	0	0
28	大阪医科薬科大学 市民公開講座	大阪医科薬科大学	1	70	1	コロナ禍により開催せず				
29	薬剤師卒後セミナー	京都薬科大学	1	150	1					
30	薬学研究者養成セミナー	京都薬科大学	1	50	1	1	71			
31	がん専門薬剤師によるキャリアパスセミナー	京都薬科大学	1	50	1	1	78	43	2	1
32	市民公開講座	京都薬科大学	1	100	1	2	79	589	4	2
33	地域医療機関との合同セミナー	京都薬科大学	1	50	1	1	93			
34	令和3年度 がんプロ合同シンポジウム	京都大学				1	94	65	10	5
35	令和3年度 5大学連携学生短期研修プログラム	京都大学				1	31	0	5	0
36	令和3年度 近畿地区3拠点合同フォーラム	近畿大学・京都大学・大阪大学				1	19	54	14	9
37	第51回 京都放射線腫瘍研究会	京都大学				1	47	84	10	7
38	2021年度 第1回 京大病院 病診薬連携セミナー 連携充実加算に関する研修会	京都大学				1	21	56	3	3
39	こうやっている！地域薬学ケア専門薬剤師制度の研修	京都大学				1	14	70	3	3
40	第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム	京都大学				1	32	233	18	3

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	令和3年度目標			令和3年度開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	
									うち拠点外大学数	
41	第18回 近畿若手小児血液クラブ	京都大学				1	7	91	19	15
42	第32回KBCCCレギュラー会議	京都大学				1	50	30	0	0
43	第14回上方乳癌研究会	京都大学				1	50	30	0	0
44	「ホルモン受容体陽性乳癌細胞のシグナル伝達—HER系とのinteraction」セミナー	京都大学				1	30	5	0	0
45	「乳房専用PETの潮流: レキシコンによる読影標準化」セミナー	京都大学				1	30	5	0	0
46	第77回京滋乳癌研究会	京都大学				1	43	35	0	0
47	第33回KBCCCレギュラー会議	京都大学				1	50	30	0	0
48	がんの分子医学セミナー/外科3科合同	京都大学				1	72	10	0	0
49	三重メディカルオンコロジーフォーラム	三重大学				1	32	24	1	1
50	MIE Ovarian Cancer Symposium	三重大学				1	10	20	1	1
51	東近江医療圏がん診療公開講座	滋賀医科大学				1	オンライン開催 参加者数: 1,488名		1	0
52	滋賀医大「連携充実加算」算定に伴う講演会	滋賀医科大学				1	オンライン開催 参加者数: 94名		1	0
53	リレー・フォー・ライフ・ジャパン京都	京都薬科大学				2	17	31	3	1
54	実務支援セミナー	京都薬科大学				1		24		
	合計		64	3175	45	36	2,681	1,349	48	27

セミナー・シンポジウム等の開催状況（令和2年度）

※「参加大学数」は、京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学）以外の大学等を示す。
 ※「学内参加者数」は主催大学以外の京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学）の大学を含む。

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	令和2年度目標			令和2年度開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	
										うち拠点外大学数
1	がんプロ5大学連携「医療フォーラム」	京都大学	1	120	5	1	74	36	9	4
2	がんプロ5大学連携合同教育セミナー	京都大学	1	35	5	0	0	0	0	0
3	がんプロ腫瘍セミナー	京都大学	2	50	1	1	28	68	9	3
4	がんプロ特別講演	京都大学	7	280	1	0	0	0	0	0
5	京都府立医科大学・京都大学連携「府民公開講座」	京都大学	1	220	2	0	0	0	0	0
6	がんリハビリテーション特別講演	京都大学、近畿大学	2	70	1	0	0	0	0	0
7	京都がん研究会	京都大学	2	100	1	0	0	0	0	0
8	京都乳がん市民公開講座	京都大学	1	50	1	1	20	20	0	0
9	骨転移セミナー	三重大学	1	50	1	0	0	0	0	0
10	早期からの緩和ケアを考える会	三重大学	1	50	1	0	0	0	0	0
11	医科歯科連携推進人材養成研修会	三重大学	1	120	1	1	10	120	0	0
12	緩和ケアセミナー	三重大学	1	60	1	2	104	168	13	11
13	がんチーム医療研究会	三重大学	1	90	1	0	0	0	0	0
14	膝がん撲滅パープルリボンウオーク・セミナー	三重大学	1	100	1	1	65(他にYOUTUBE LIVE視聴者約400名)	94	3	2
15	三重がん看護フォーラム	三重大学	1	100	2	0	0	0	0	0
16	三重大ELNECコアカリキュラム	三重大学	1	80	2	0	0	0	0	0
17	三重がん看護専門看護師会議	三重大学	12	180	2	12	45	178	3	1
18	滋賀がん医療講演会(腫瘍センター講演会)	滋賀医科大学	3	60	1	3	110	0	1	0
19	滋賀がん市民公開講座(がんを学ぼう市民公開講座)	滋賀医科大学	4	40	1	6	オンライン開催。 参加者数(アクセス者数)は310名		1	0
20	滋賀県がん医療フォーラム	滋賀医科大学	1	80	1	1	オンライン開催。 参加者数(アクセス者数)1,467名		1	0
21	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース(地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース)	滋賀医科大学	2	200	1	0	0	0	0	0
22	滋賀県がん薬物療法conference	滋賀医科大学	3	90	1	0	0	0	0	0
23	若年がんを考える会(小児・AYA世代のがん患者を支える公開セミナー)	滋賀医科大学	2	40	1	0	0	0	0	0
24	市民公開講座(乳がんまたは消化器がん)	滋賀医科大学	1	120	1	0	0	0	0	0
25	滋賀癌化学療法研究会	滋賀医科大学	1	50	1	0	0	0	0	0
26	三島医療圏がん診療ネットワーク協議会	大阪医科大学	2	70	1	0	0	0	0	0
27	三島圏域がん研究会	大阪医科大学	2	200	1	1	22	48	0	0
28	大阪医科大学 市民公開講座	大阪医科大学	1	70	1	0	0	0	0	0
29	薬剤師卒後セミナー	京都薬科大学	1	150	1	0	0	0	0	0
30	薬学研究者養成セミナー	京都薬科大学	1	50	1	0	0	0	0	0
31	がん専門薬剤師によるキャリアパスセミナー	京都薬科大学	1	50	1	0	0	0	0	0
32	市民公開講座 (コロナウィルス感染防止のため中止)	京都薬科大学	1	100	1	1	24	446	4	2
33	地域医療機関との合同セミナー	京都薬科大学	1	50	1	1	93	0	1	0
34	2020年度 近畿地区3拠点合同フォーラム	京都大学・大阪大学・近畿大学				1	58	45	9	4
35	the Official Best of SABCS® (San Antonio Breast Cancer Symposium®) Kyoto	京都大学				1	30	114	0	0
36	the Kyoto Breast Cancer Consensus Conference 2021 International Convention	京都大学				2	30	114	0	0
37	第4回 2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都	京都大学				1	33	52	4	0
38	薬剤師(研究者)養成コース会議	京都大学				1	9	30	4	0

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	令和2年度目標			令和2年度開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	
									うち拠点外大学数	
39	がん薬物療法における薬薬連携研修会	三重大学				1	5	77	1	1
40	MIE Ovarian Cancer Symposium	三重大学				2	26	48	2	0
41	三重メディカルオンコロジーフォーラム	三重大学				1	26	18	3	2
42	東海北陸若手がん生殖セミナー	三重大学				1	22	122	13	5
43	三重Lymphoma Webinar	三重大学				1	13	15	2	1
44	Breast Cancer Meeting in 三重	三重大学				1	21	24	1	0
45	「本人の意向」を最優先にした病院との地域連携、地域のチームに学ぶ	三重大学				1	18	31	3	0
46	第30回三重乳腺診断フォーラム	三重大学				1	28	80	1	0
47	保険診療がんゲノム検査説明会	三重大学				18	1	348	1	0
48	東近江医療圏がん診療公開講座	滋賀医科大学				2	オンライン開催。 参加者数(アクセス者数)は1,892名		1	0
49	滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会	滋賀医科大学				3	オンライン開催。 参加者数(アクセス者数)は224名		1	0
50	三島医療圏がん登録部会実務者研修会	大阪医科大学				1	11	125	0	0
51	リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020京都	京都薬科大学				1	10	15	3	1
52	2020年度 実務支援セミナー	京都薬科大学				1	0	24	0	0
	合計		64	3,175	45	68	5,062	2,150	86	37

令和3年度 インテンシブコース実施事業

()の数字は参加人数

【京都大学】

がん免疫療法と新規分子標的薬・生物製剤治療を担う医療人育成コース(インテンシブ)	
該当なし	
高度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)	
21/10/30	第51回京都放射線腫瘍研究会(131)
地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース(インテンシブ)	
21/08/05	第1回 京大病院 病診薬連携セミナー 連携充実加算に関する研修会
21/08/26	こうやっている！地域薬学ケア専門薬剤師制度の研修
21/09/04	第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム
22/02/03	第4回がんプロ薬剤師養成インテンシブコース会議
様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース(インテンシブ)	
21/05/28	第1回 がんチーム医療研修(23)
21/07/28	第2回 がんチーム医療研修(14)
21/09/29	第3回 がんチーム医療研修(7)
21/11/24	第4回 がんチーム医療研修(7)
家族性腫瘍(遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など)に対応できる医療人育成コース(インテンシブ)	
21/05/28	がん専門病院での遺伝性腫瘍診療の現状
21/06/25	小児がんとゲノム医療
21/11/12	BRCA1/2の分子遺伝学
ビックデータ医科学を担う人材育成コース(インテンシブ)	
該当なし	
社会と交流できるがん相談支援者育成コース(インテンシブ)	
該当なし	

【三重大学】

地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース(インテンシブ)	
該当なし	
ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース(インテンシブ)	
21/07/29	第25回緩和ケアセミナー(31名) 多職種
21/10/20	第26回緩和ケアセミナー(77名) 多職種
21/10/30	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会(1日間)(15名) 多職種
21/11/28, 12/12,26	対人援助・スピリチュアルケア研修(3日間)(6名) 多職種 <予定>
22/01/26	第27回緩和ケアセミナー 多職種<予定>
22/03/19	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会(1日間) 多職種<予定>
ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース(インテンシブ)	
21/06/11	三重メディカルオンコロジーフォーラム(56)
21/07/10	第14回三重がん看護フォーラム(132)
21/07/14	第138回 Tumor Board(29)
21/09/17	第25回 がんチーム医療研究会(77)
21/10/13	第139回 Tumor Board(26)
21/10/14	MIE Ovarian Cancer Symposium(30)
21/10/20	三重大学緩和ケアセミナー2021 第26回(88)
21/11/10	第140回 Tumor Board(25)
21/12/07	三重大学大学院医学系研究科看護学専攻がん看護学公開授業(22)
21/12/08	第141回 Tumor Board(40)
21/12/11	第32回三重肺癌研究会(32)
22/01/26	三重大学緩和ケアセミナー2021 第27回
22/01/29	第31回三重乳腺診断フォーラム
ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブ)	
毎週火曜日	エキスパートパネル
毎週火曜日、 水曜日	遺伝カウンセリング
毎月第一火曜日	遺伝カウンセリングカンファレンス

【滋賀医科大学】

ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース(インテンシブ)	
2021/9/1～9/30	第1回がんを学ぼう市民公開講座
2021/10/1～10/31	第2回がんを学ぼう市民公開講座
2021/11/1～11/30	第3回がんを学ぼう市民公開講座
2021/12/1～12/28	第4回がんを学ぼう市民公開講座
2022/1/4～1/31	第5回がんを学ぼう市民公開講座
2022/2/1～2/28	第6回がんを学ぼう市民公開講座
2021/9/18～11/21	第15回東近江医療圏がん診療公開講座
2022/1/22～3/21	第16回東近江医療圏がん診療公開講座
21/12/15	第1回腫瘍センター講演会
22/02/16	第2回腫瘍センター講演会
開催日未定	第3回腫瘍センター講演会
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師コース(インテンシブ)	
21/07/07	第22回滋賀県がん薬物療法conference
21/10/07	第4回滋賀医大「連携充実加算」算定に伴う講演会 婦人科がん・保険薬局事例紹介

令和2年度 インテンシブコース実施事業

()の数字は参加人数

【京都大学】

がん免疫療法と新規分子標的薬・生物製剤治療を担う医療人育成コース(インテンシブ)	
該当なし	
高度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)	
21/03/27	第50回京都放射線腫瘍研究会(96)
地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース(インテンシブ)	
21/02/12	第4回地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース(本研修会は、新型コロナウイルス感染症の懸念により開催中止) 第4回 2025年に向けた薬剤師業務研究会 in京都(Web開催)(85)
様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース(インテンシブ)	
該当なし	
家族性腫瘍(遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など)に対応できる医療人育成コース(インテンシブ)	
20/09/25	遺伝性腫瘍in2020: がん薬物療法専門家と臨床遺伝専門家が協議して生む力(51)
ビックデータ医科学を担う人材育成コース(インテンシブ)	
新型コロナウイルス感染症の懸念のため開催中止	
社会と交流できるがん相談支援者育成コース(インテンシブ)	
20/04/23	第19回がんゲノム医療連携病院説明会(77)
20/06/24	第20回がんゲノム医療連携病院説明会(141)
20/07/22	第21回がんゲノム医療連携病院説明会(116)
20/09/09	第22回がんゲノム医療連携病院説明会(151)
20/11/11	第23回がんゲノム医療連携病院説明会(126)
21/01/13	第24回がんゲノム医療連携病院説明会(106)
21/03/17	第25回がんゲノム医療連携病院説明会(153)

【三重大学】

地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース(インテンシブ)	
20/07/26	令和2年度 第1回がん薬物療法における薬薬連携研修会(82)
21/02/04	令和2年度 第2回がん薬物療法における薬薬連携研修会(82)
ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース(インテンシブ)	
20/10/29	第23回緩和ケアセミナー(151名) オンライン 多職種
20/11/15,29, 12/13	対人援助・スピリチュアルケア研修(3日間)(6名参加)
21/01/28	第24回緩和ケアセミナー(109名) オンライン 多職種
21/03/21	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会(1日間)(5名) 多職種
ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース(インテンシブ)	
20/07/26	がん薬物療法における薬薬連携研修会(82)
20/10/29	第23回 三重大学緩和ケアセミナー2020 (151)
20/10/29	MIE Ovarian Cancer Symposium(45)
20/11/06	三重 Lymphoma Webinar(28)
20/11/07	東海北陸若手がん生殖セミナー(144)
20/11/13	第12回 三重メディカルオンコロジーフォーラム(44)
20/11/27	Breast Cancer Meeting in 三重(45)
20/12/08	「本人の意向」を最優先にした病院との地域連携、地域のチームに学ぶ(49)
21/01/28	第24回 三重大学緩和ケアセミナー2020 (42)
21/01/30	第30回 三重乳腺診断フォーラム(108)
21/02/18	MIE Ovarian Cancer Symposium(29)
ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース(インテンシブ)	
毎週火曜日	エキスパートパネル
毎週火曜日、 水曜日	遺伝カウンセリング

【滋賀医科大学】

ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース(インテンシブ)	
2020/10/24	第1、2回がんを学ぼう市民公開講座
2021/1/21	第3回がんを学ぼう市民公開講座
2021/2/4	第4回がんを学ぼう市民公開講座
2021/2/18	第5回がんを学ぼう市民公開講座
2021/3/4	第6回がんを学ぼう市民公開講座
2021/2/1～3/8	第13回東近江医療圏がん診療公開講座
2021/3/1～3/26	第14回東近江医療圏がん診療公開講座
2020/12/23	第1回腫瘍センター講演会
2021/1/27	第2回腫瘍センター講演会
2021/3/24	第3回腫瘍センター講演会
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師コース(インテンシブ)	
20/07/30	第1回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会レジメン解説・大腸がんの治療
20/08/06	第2回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会レジメン解説・泌尿器がんの治療
21/03/04	第3回滋賀医大「連携充実加算」算定開始に伴う講演会連携充実加算概要・膀胱がんの治療

令和3年度に導入された医療チーム

大学名	名称	分類	活動内容	備考
三重大学	小児・AYAがんトータルケアセンター	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児がんおよびAYA世代がんを対象とした、小児科、腫瘍内科、産婦人科、緩和ケア科および同センターからなる集学的診療体制	

令和2年度に導入された医療チーム

大学名	名称	分類	活動内容	備考
三重大学	小児がんチーム	「放射線療法」 「化学療法」 「がんリハビリ」 「ケム医療」 「緩和ケア」 「その他」	小児がん患者のトータルケアを目指し、多職種によるテーマ別小グループを作成し、目標をもって活動を開始している。	

医療チームの整備体制(令和3年度)

大学名	名称	分類	活動内容	備考
京都大学	脳腫瘍／ 小児脳腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	脳神経外科・放射線治療科・小児科合同による集学的がん診療	
京都大学	前立腺がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	泌尿器科・放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	肺がん／ 中皮腫ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科、放射線診断科による集学的がん診療	
京都大学	乳がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	乳腺外科、外来化学療法部、放射線治療科、放射線診断科、病理診断部、集学的がん診療部からなる集学的診療体制を構築	
京都大学	食道がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	消化管外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科、耳鼻科・頭頸部外科からなる集学的診療体制	
京都大学	膵臓がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	肝胆膵・移植外科、消化器内科、放射線治療科、腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	血液腫瘍ユニット	「化学療法」 「放射線療法」	血液腫瘍に関する血液内科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	緩和ケアチーム ユニット	「緩和ケア」	多職種横断的なチームによる診療と支援	
京都大学	頭頸部がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、放射線治療科、腫瘍内科合同による集学的がん診療	
京都大学	胃がん／ GISTユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	腫瘍内科、消化管外科、消化器内科による集学的がん診療	
京都大学	小児がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児腫瘍に関する横断的ながん療法	
京都大学	大腸がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	腫瘍内科、消化器内科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	原発不明がん／ 希少がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」	診療科横断的かつ迅速な治療方針の決定と治療の実践	

京都大学	家族性腫瘍ユニット	「その他」	遺伝相談も含めたチーム医療	
京都大学	婦人科腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	婦人科腫瘍に関する診療科横断的チーム医療	
京都大学	NET(内分泌細胞腫瘍)ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	非がん領域の診療科も含めたチーム医療	
京都大学	メラノーマユニット	「化学療法」 「放射線療法」 「その他」	皮膚科、腫瘍内科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	クリニカルシーケンスユニット	「化学療法」 「その他」	遺伝子解析に基づくゲノム医療に関するチーム医療	
京都大学	放射線治療医療チーム	「放射線療法」 「緩和ケア」	臓器横断的な放射線治療の教育と実践	
京都大学	薬物治療チーム	「化学療法」 「緩和ケア」	がん薬物療法専門医の育成、がん薬物療法のレジメン管理	
京都大学	骨転移ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	整形外科、放射線治療科、乳腺外科、泌尿器科による集学的がん診療	
京都大学	胆道がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	消化器内科、肝胆膵・移植外科、腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科による集学的診療	
京都大学	OncoNephrologyユニット	「化学療法」 「緩和ケア」 「腎障害」 「その他」	腎臓内科、腫瘍内科、薬剤部によるがん領域と腎臓領域の両面から連携したチーム医療	
三重大学	口腔ケアチーム	「緩和ケア」	がん治療前の口腔ケア	
三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	がん患者のトータルな緩和医療 麻酔科医、鍼灸師も加わった多職種による緩和医療	
三重大学	栄養サポートチーム	「その他」	がん患者の栄養管理	
三重大学	褥瘡チーム	「その他」	がん患者の褥瘡管理	
三重大学	乳癌治療検討会	「放射線療法」 「化学療法」	1回/2週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討	
三重大学	乳腺疾患術後検討会	「その他」	1回/2週、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討	
三重大学	乳房MRI検討会	「その他」	1回/週、乳房MRIの画像診断を放射線科、乳腺外科で検討	
三重大学	乳腺疾患検討会	「その他」	1回/月、放射線科、病理、乳腺外科で術後症例の画像・病理について勉強	
三重大学	膵がん教室	「化学療法」	医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士による膵がん教室を月2回実施	
三重大学	内科小児科合同移植カンファレンス	「化学療法」	血液内科医、小児科医、輸血部医、薬剤師、看護師による、治療、移植等ミーティング1回/月実施	
三重大学	がん免疫療法対策チーム	「化学療法」	診療科横断的、多職種の連携によるがん免疫療法のチーム医療	
三重大学	AYAがんチーム	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児科、腫瘍内科、産婦人科、緩和ケア科、小児トータルケアセンターからなる集学的診療体制	
滋賀医科大学	化学療法チーム	「化学療法」	医師7名、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
滋賀医科大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
滋賀医科大学	栄養サポートチーム	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士がチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	

滋賀医科大学	呼吸器カンファレンス	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	呼吸器内科、呼吸器外科、腫瘍内科、放射線科が定例カンファレンスと集学的治療を行っている。	
滋賀医科大学	消化器カンファレンス	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	消化器内科、消化器外科、腫瘍内科、放射線科が定例カンファレンスと集学的治療を行っている。	
滋賀医科大学	乳腺腫瘍カンファレンス	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	乳腺外科、放射線科が定例カンファレンスと集学的治療を行っている。	
滋賀医科大学	家族性腫瘍カンファレンス	「その他」	腫瘍診療科医師、臨床遺伝専門医、病理医、認定遺伝カウンセラー、看護師、薬剤師が定例カンファレンスと遺伝カウンセリング対応を行っている。	
大阪医科薬科大学	緩和ケア室	「放射線療法」	がん患者の痛みや心のケアに関するチーム医療	
大阪医科薬科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療	

がん

【京都大学】

区分	がん種	がん種	主な診療科名	メンバー職名・職種(◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科 放射線治療科 小児科	◎脳神経外科医 放射線治療医 小児科医 看護師 作業療法士・理学療法士 薬剤師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
2	前立腺がんユニットカンファレンス	前立腺がん 精巣がん 陰茎がん	泌尿器科 放射線治療科	◎泌尿器科医、放射線治療科医、画像診断科、病理部門、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	肺がんユニットカンファレンス	肺がん 悪性中皮腫 縦隔腫瘍	呼吸器内科 呼吸器外科 放射線治療科 放射線診断科	◎呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線治療科医、放射線診断医	集学的治療を要する患者の治療方針検討、他科への治療依頼、治療難渋例についてのディスカッション	25%未満実施
4	乳がんユニットカンファレンス	乳がん	乳腺外科 腫瘍内科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科	◎乳腺外科医、腫瘍内科医、放射線治療科医、放射線診断科医、病理診断科医	新規、継続治療患者のの治療並びに診断の標準化を行う。	全例実施
5	食道がんユニットカンファレンス	食道がん	消化管外科 消化器内科 放射線治療科 腫瘍内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	◎消化管外科医、消化器内科医、放射線治療科医、耳鼻科・頭頸部外科医、腫瘍内科医、理学療法士	新規治療開始患者および再発患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
6	膵臓がんユニットカンファレンス	膵臓がん	肝胆膵・移植外科 消化器内科 放射線治療科 放射線診断科 腫瘍内科 遺伝子診療部	◎肝胆膵・移植外科医、腫瘍内科医、放射線治療科医、放射線診断科医、消化器内科医、精神科医、看護師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	血液腫瘍ユニットカンファレンス	造血器腫瘍	血液内科 放射線治療科	◎血液内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
8	緩和ケアチームユニットカンファレンス	全種	緩和医療科 各診療科	◎緩和ケア医、精神科医、各診療科医、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、作業療法士	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針・療養場所の選択の検討および経過報告をする。	20～30%実施
9	頭頸部がんユニットカンファレンス	頭頸部がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 放射線治療科 腫瘍内科	◎耳鼻咽喉科・頭頸部外科医、放射線治療医、腫瘍内科医、看護師	新規治療開始患者の治療方針決定。 放射線治療中患者の経過報告。 治療中患者で今後の治療方針が悩ましい症例の方針決定。	全例実施
10	胃がん・GISTユニットカンファレンス	胃がん 消化管間質腫瘍(GIST)	腫瘍内科 消化器内科 消化管外科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
11	小児がんユニットカンファレンス	骨軟部腫瘍 神経芽腫などの小児がん	小児科 整形外科 小児外科 眼科 耳鼻咽喉科 泌尿器科	◎小児科医、整形外科医、必要時：小児外科医、耳鼻咽喉科医、泌尿器科医、眼科医	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
		小児脳腫瘍	小児科 脳外科 放射線治療科	◎小児科医、脳外科医、放射線治療科	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
12	大腸がんユニットカンファレンス	大腸がん	腫瘍内科 消化器内科 消化管外科 肝胆膵・移植外科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化器内科医、消化管外科医、肝胆膵移植外科医、放射線治療科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
13	原発不明がん・希少がんユニットカンファレンス	原発不明がん 希少がん	腫瘍内科 病理診断科 放射線診断科 放射線治療科 呼吸内科 小児科 消化器内科 整形外科	◎腫瘍内科医、消化器内科医、病理診断科医、小児科医、呼吸器内科医、婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、肝胆膵移植外科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満

14	骨転移ユニットカンファレンス	転移性骨腫瘍	ウイルス・再生医学 研究所 整形外科 放射線治療科 呼吸内科 リハビリテーション科	◎整形外科医、乳腺外科医、放射線治療 医、泌尿器科医	新規対象患者の診断、治療方 針の決定、治療中患者の方針 の検討および経過報告をす る。	50%以上75%未 満
15	家族性腫瘍ユニットカンファレン ス	家族性腫瘍	遺伝子診療部 産科・婦人科 乳腺外科 泌尿器科 眼科	◎遺伝子診療部、臨床遺伝専門医、認定遺 伝カウンセラー	新規治療開始患者の治療方針 の決定および経過報告をす る。	全例実施
16	婦人科腫瘍ユニットカンファレン ス	子宮がん 卵巣がん 外陰がん	産科婦人科	◎婦人科医、放射線治療医、放射線診断 医、病理医、看護師	新規治療開始患者の治療方針 の決定および経過報告をす る。	全例実施
17	NET(神経内分泌腫瘍)ユニット カンファレンス	神経内分泌腫 瘍	肝胆膵・移植外科 腫瘍内科 糖尿病・内分泌・栄 養内科 消化器内科 放射線診断科	◎肝胆膵移植外科医、腫瘍内科医、消化器 内科医、内分泌代謝内科医、放射線診断科 医、放射線治療医	新規依頼患者および継続診察 患者の支援方針の検討および 経過報告をする。	全例実施
18	メラノーマユニットカンファレンス	悪性黒色腫	皮膚科 耳鼻科 腫瘍内科 産科婦人科 薬剤部 放射線治療科	◎皮膚科医、腫瘍内科医、病理診断医、放 射線治療医、薬剤師	新規依頼患者および継続診察 患者の支援方針の検討および 経過報告をする。	全例実施
19	オンコネフロジーユニットカン ファレンス	腎がん 尿路がん 副腎腫瘍	腎臓内科 腫瘍内科 薬剤部	◎腎臓内科医、腫瘍内科医、薬剤部	新規治療開始患者の治療方針 の決定および経過報告をす る。	全例実施
20	クリニカルシーケンスユニットカ ンファレンス	原発不明がん 希少がん 標準治療が終 了もしくは収量 が見込まれる 固形がん	腫瘍内科 病理診断科 遺伝子診療部	◎腫瘍内科医、肝胆膵移植外科医、泌尿器 科医、婦人科医、放射線治療医、消化器内 科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外 科、放射線診断医、臨床遺伝専門医、病理 医、バイオインフォマティクス、ゲノム基礎 研究者、認定遺伝カウンセラー、ゲノム医療 コーディネーター	クリニカルシーケンス (OncoPrime)を受けた患者の治 療方針の決定および経過報告 をする。	全例実施
21	胆道がんユニットカンファレンス	胆道がん 胆のうがん 肝がん	肝胆膵・移植外科 消化器内科 腫瘍内科 放射線診断科 放射線治療科	◎肝胆膵移植外科医、消化器内科医、腫瘍 内科医、放射線診断科医、放射線治療科医	新規治療開始患者の治療方針 の決定および経過報告をす る。	全例実施

【三重大学】

	カンサーボード名	がん種	メンバーの 診療科名	メンバー職名・職種(◎:リーダー)	内容	新規治療開始 患者のうち検 討症例の割合
1	乳癌治療検討会	乳癌	放射線科 腫瘍内科 乳腺外科	◎乳腺外科医 腫瘍内科医 放射線治療医 薬剤師 看護師	1回/2週、放射線科、腫瘍内 科、乳腺外科で乳癌患者の治 療方針を検討	全例実施
2	乳腺疾患術後検討会	乳癌	病理 乳腺外科	◎乳腺外科医 病理医	1回/月、乳腺疾患術後の病理 結果を病理、乳腺外科で検討	全例実施
3	乳房再建検討会	乳癌	形成外科 乳腺外科	◎乳腺外科医 形成外科医	1回/月、形成外科、乳腺外科 で乳房再建予定症例について 検討	全例実施
4	乳腺疾患カンファレンス	乳癌	乳腺外科 放射線科 病理	◎乳腺外科医 放射線診断医 病理医 放 射線技師 臨床検査技師	1回/2ヶ月、乳腺疾患の画像 と病理を対して検討	毎回2～3例 (現在、休止 中)
5	がんゲノム医療エキスパートパ ネル	特定なし	ゲノム医療部、検査 部、病理部、腫瘍内 科、耳鼻科、消化器 内科、消化管外科、 呼吸器内科、産婦人 科、看護部、その他 関連する診療科医師 など	◎医師、看護師、遺伝カウンセラー、	がんパネル検査のデータの ディスカッション	
6	Tumor Board	特定なし	放射線診断科、放射 線治療科、IVR科、 病理部、腫瘍内科、 小児科、整形外科、 緩和ケア科、その他 関連する診療科すべ て	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放 射線技師、ケースワーカー	1回/月、診断困難例、治療難 渋例についての検討	

7	骨転移合同カンファレンス	特定なし	放射線診断科、放射線治療科、IVR科、腫瘍内科、整形外科、緩和ケア科、その他関連する診療科すべて	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師	1回/月、骨転移例についての検討	
8	血液腫瘍内科全体症例検討会	造血器腫瘍 固形腫瘍	血液内科、腫瘍内科	◎血液内科医、腫瘍内科医、乳腺外科医	1回/週、造血器腫瘍患者、固形腫瘍患者の治療方針を検討	全例実施
9	血液内科検討会	造血器腫瘍	血液内科	◎血液内科医、臨床検査技師	1回/週、造血器腫瘍患者の治療方針を検討	全例実施
10	小児がん検討会	小児がん	小児科	◎小児科医、小児血液専門医	1回/週、小児がん患者の治療方針を検討	全例実施
11	小児造血細胞移植カンファレンス	小児がん	小児科	◎小児科医、小児血液専門医、看護師、薬剤師、管理栄養士	2回/週、小児がんで造血細胞移植患者の治療方針を検討	全例実施
12	小児造血細胞移植前カンファレンス	小児がん	小児科、放射線治療科、緩和ケア科、高度生殖医療センター、栄養部、薬剤部、輸血部、その他関連する診療科すべて	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、産婦人科医、ケースワーカー	不定期	全例実施

【滋賀医科大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種(◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	腫瘍薬物療法カンファレンス	全固形腫瘍	腫瘍内科 消化器内科 消化器外科 乳腺外科	◎腫瘍センター副センター長、腫瘍内科医、消化器内科医、乳腺外科医、呼吸器内科医、消化器外科医、薬剤師、看護師	新規の入院患者対診、外来初診患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
2	肺癌放射線治療カンファレンス	肺癌	放射線科 呼吸器外科 呼吸器内科	◎放射線科科長、放射線科医、呼吸器外科医、呼吸器内科医	新規入院患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	骨髄移植カンファレンス	白血病 リンパ腫	血液内科 小児科	◎血液内科医、血液内科ローター、小児科医	移植予定者について前処置薬の検討および移植後患者についての経過報告をする。	全例実施
4	血液疾患カンファレンス	血液全疾患	血液内科 薬剤部 検査部 輸血部	◎血液内科医、病棟看護師、薬剤師、血液検査技師、薬剤部検査技師	全ての入院症例の経過報告と問題点を検討する。	全例実施
5	婦人科癌カンファレンス	婦人科がん	母子・女性診療科 放射線科 薬剤部	◎母子・女性診療科科長、母子・女性診療科医、放射線治療医、	新規入院患者、外来初診患者の治療方針、術式の検討および経過報告をする。	全例実施
6	乳癌カンファレンス	乳癌	乳腺・一般外科	◎乳腺一般外科科長、乳腺外科医、放射線科医、病理医、研修医、学生	新規入院患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	胃癌カンファレンス	食道癌 胃癌	消化器内科 消化器外科 放射線科 病理部、光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	全例実施
8	肝胆膵がんカンファレンス	肝胆膵がん	消化器内科 消化器外科 放射線科 病理部、光学診療部	◎消化器外科医、消化器内科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	75%以上-100%未満実施
9	大腸癌カンファレンス	大腸癌	消化器内科 消化器外科 放射線科 病理部、光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	全例実施
10	乳腺カンファレンス	乳癌	乳腺一般外科、放射線科、病理部	◎乳腺一般外科科長、乳腺外科医、放射線科医、病理医、研修医、放射線治療医、近隣病院の乳腺科医、放射線科医、放射線技師	乳癌患者の診断、治療方針を検討する	50%以上-75%未満実施
11	脳腫瘍治療カンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科	◎脳神経外科医、学生	脳腫瘍にて入院の患者の治療方針、治療経過ならびに外来患者の治療方針について評価報告する	全例実施
12	泌尿器癌カンファレンス	泌尿器癌	泌尿器科	◎泌尿器科科医、学生	泌尿器癌入院患者の治療方針につき討議する。主な外来抗がん療法患者について評価する。	全例実施

13	耳鼻科放射線科合同カンファレンス	頭頸部癌	耳鼻科 放射線科	◎耳鼻咽喉科長、耳鼻咽喉科医、放射線治療医、診療放射線技師、看護師	放射線治療を受ける頭頸部癌の治療方針や治療経過について検討、評価する。	全例実施
14	放射線治療カンファレンス	全がん腫	放射線科	◎放射線治療医、診療放射線技師、看護師	放射線治療新規患者の照射範囲・線量の確認や治療中患者の治療方針について検討する。	全例実施
15	緩和ケアカンファレンス	全悪性腫瘍	腫瘍内科 腫瘍センター 精神科 薬剤部 看護部	◎腫瘍内科長・腫瘍センター長、腫瘍内科医、精神科医、がん診療全科医、看護師、薬剤師、理学療法士、MSW	新規の介入患者対診、外来初診患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
16	緩和ケアカンファレンス	頭頸部癌	歯科口腔外科 緩和ケアチーム ソーシャルワーカー	◎歯科口腔外科医、精神科医認定看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー	高齢患者の治療後の療養施設決定のための検討、評価を行う	全例実施
17	皮膚悪性腫瘍カンファレンス	皮膚癌、皮膚原発悪性リンパ腫	皮膚科	◎皮膚科医	入院患者および外来手術患者の治療方針を決定する。	全例実施
18	骨転移カンファレンス	転移性骨腫瘍	整形外科 放射線科	◎整形外科医、放射線科医、乳腺一般外科医、消化器外科医、血液内科医、呼吸器内科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、母子女性科医、耳鼻咽喉科医、	骨転移患者の治療方針を決定する	50%以上-75%未満実施
19	小児血液腫瘍多職種カンファレンス	小児血液腫瘍	小児科 看護部 薬剤部 栄養治療部 リハビリテーション部	◎小児科医、整形外科医、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士	小児血液腫瘍患者の新規入院症例と問題の多い症例を多職種で検討する	全例実施
20	がんセンター	原発不明癌	腫瘍センター、呼吸器外科、泌尿器科、消化器外科、消化器内科、放射線科、整形外科、腫瘍内科、病理部、看護部	◎消化器外科医、消化器内科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、放射線科医、整形外科医、腫瘍内科医、病理医、医学生、研修医、看護師	大腸癌術後、多発肺腫瘍、多発リンパ節腫瘍のある原発不明の淡明細胞癌症例に対する、分子標的薬治療の妥当性について	25%未満実施

【大阪医科薬科大学】

	がんセンター名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種(◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	がんセンター	舌がん術後頭部再発	脳神経外科、放射線腫瘍科、化学療法センター、呼吸器内科、病理部、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター	脳神経外科、放射線腫瘍科、化学療法センター、呼吸器内科、病理部、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター 医師、技師、事務	症例検討	
2	がんセンター	鼻腔癌再発	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、整形外科、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、整形外科、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター、技師、医学物理士、事務	カンファレンス(治療経過)	
3	がんセンター	左上顎洞癌再発	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、整形外科、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、整形外科、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター、技師、医学物理士、事務	カンファレンス(治療経過)	
4	がんセンター	下咽頭癌他	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、耳鼻咽喉科、消化器外科、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、耳鼻咽喉科、消化器外科、医療総合研修センター 医師、看護師、事務	カンファレンス(治療経過)	
5	がんセンター	下咽頭癌術後局所再発	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、BNCT、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、BNCT、医療総合研修センター 医師、技師、事務	カンファレンス(治療経過)	
6	がんセンター	上咽頭癌	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、BNCT、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、BNCT、医療総合研修センター 医師、技師、事務	カンファレンス(治療経過)	
7	がんセンター	右眼こう外側部腫瘍	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、呼吸器内科、泌尿器科、脳神経外科	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、呼吸器内科、泌尿器科、脳神経外科 医師、看護師、薬剤師、事務	カンファレンス(治療内容の再検討)	
8	がんセンター	下咽頭癌局所再発	脳神経外科、放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、緩和ケアセンター、BNCT	脳神経外科、放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、緩和ケアセンター、BNCT 医師、看護師、事務	症例検討	

9	がんセンター	Ewing 肉腫	脳神経外科、放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、緩和ケアセンター、BNCT	脳神経外科、放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、緩和ケアセンター、BNCT医師、看護師、事務	カンファレンス（治療内容の再検討）	
10	がんセンター	下咽頭癌治療後局所再発、舌癌頭部転移	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、耳鼻咽喉科、緩和ケアセンター、泌尿器科、BNCT、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、耳鼻咽喉科、緩和ケアセンター、泌尿器科、BNCT医師、薬剤師、事務	症例検討	
11	がんセンター	上咽頭癌 転移性後頭部腫瘍	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、脳神経外科、耳鼻咽喉科、緩和ケアセンター、泌尿器科、BNCT、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、脳神経外科、耳鼻咽喉科、緩和ケアセンター、泌尿器科、BNCT、医療総合研修センター医師、看護師、薬剤師、事務	カンファレンス（治療経過）	
12	がんセンター	進行胃癌	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、血液内科、消化器外科、消化器内科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、血液内科、消化器外科、消化器内科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター医師、看護師、薬剤師、事務	カンファレンス（治療内容の再検討）	
13	がんセンター	中咽頭癌局所再発、下咽頭癌局所再発	放射線腫瘍科、化学療法センター、緩和ケアセンター、BNCT	放射線腫瘍科、化学療法センター、緩和ケアセンター、BNCT医師、事務	症例検討	
14	がんセンター	上顎洞癌再発	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター医師、事務	症例検討	
15	がんセンター	右下顎肉癌再発、左上顎洞癌再発、左頬粘膜癌	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、病理部、整形外科、泌尿器科、BNCT	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、病理部、整形外科、泌尿器科、BNCT医師、技師、事務	症例検討	
16	がんセンター	頭部食道癌左鎖骨上こう転移、下咽頭癌局所再発	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、病理部、緩和ケアセンター、BNCT	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、病理部、緩和ケアセンター、BNCT医師、事務	症例検討	
17	がんセンター	右耳下腺粘表皮癌再発他	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、呼吸器内科、泌尿器科、BNCT	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、呼吸器内科、泌尿器科、BNCT医師、看護師、事務	症例検討	
18	がんセンター	下咽頭癌上縦隔転移	放射線腫瘍科、化学療法センター、整形外科、緩和ケアセンター、BNCT	放射線腫瘍科、化学療法センター、整形外科、緩和ケアセンター、BNCT医師、事務	症例検討	
19	がんセンター	中咽頭癌頭部再発	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、化学療法センター、病理部、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター医師、事務	症例検討	
20	がんセンター	咽頭癌再発	化学療法センター、病理部、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター	化学療法センター、病理部、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター医師、技師、事務	症例検討	
21	がんセンター	右外耳道癌	放射線腫瘍科、化学療法センター、整形外科、BNCT	放射線腫瘍科、化学療法センター、整形外科、BNCT医師、事務	症例検討	
22	がんセンター	右下顎肉癌再発、篩骨洞腺様嚢胞癌再発	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、病理部、脳神経外科、糖尿病内科、BNCT、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、病理部、脳神経外科、糖尿病内科、BNCT、医療総合研修センター医師、技師、事務	症例検討	
23	がんセンター	左外耳道癌	化学療法センター、病理部、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター	化学療法センター、病理部、緩和ケアセンター、BNCT、医療総合研修センター医師、技師、事務	症例検討	
24	がんセンター	上咽頭癌後発リンパ節転移	化学療法センター、緩和ケアセンター、放射線診断科、BNCT、医療総合研修センター	化学療法センター、緩和ケアセンター、放射線診断科、BNCT、医療総合研修センター医師、事務	症例検討	

25	転移性骨腫瘍	腎癌	脳神経外科、放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、呼吸器内科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター	脳神経外科、放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、呼吸器内科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター医師、事務	骨転移病名検討他 骨転移登録	
26	転移性骨腫瘍	肺癌	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、呼吸器内科、泌尿器科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、呼吸器内科、泌尿器科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター医師、事務	骨転移病名検討他 骨転移登録	
27	転移性骨腫瘍	膀胱癌、肺癌	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、リハビリテーション科、整形外科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、リハビリテーション科、整形外科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター医師、事務	骨転移病名検討他 骨転移登録	
28	転移性骨腫瘍	肺腺癌、乳癌	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、リハビリテーション科、整形外科、呼吸器内科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、リハビリテーション科、整形外科、呼吸器内科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター医師、事務	骨転移病名検討他 骨転移登録	
29	転移性骨腫瘍	悪性黒色腫	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、緩和ケアセンター、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、緩和ケアセンター、医療総合研修センター医師、事務	骨転移病名検討他 骨転移登録	
30	転移性骨腫瘍	肺癌、腎盂癌	放射線腫瘍科、放射線診断科、整形外科、BNCT、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、放射線診断科、整形外科、BNCT、医療総合研修センター医師、事務	骨転移病名検討他 骨転移登録	
31	転移性骨腫瘍	腎癌、膀胱癌、直腸癌、粘液型脂肪肉腫	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、リハビリテーション科、整形外科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、リハビリテーション科、整形外科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター医師、事務	骨転移病名検討他 骨転移登録	
32	転移性骨腫瘍	右副鼻腔腺様嚢胞癌、卵巣癌	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、リハビリテーション科、整形外科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、リハビリテーション科、整形外科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター医師、事務	骨転移病名検討他 骨転移登録	
33	転移性骨腫瘍	小細胞肺癌	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、整形外科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、整形外科、緩和ケアセンター、医療総合研修センター医師、事務	骨転移病名検討他 骨転移登録	
34	転移性骨腫瘍	小細胞肺癌乳癌	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、リハビリテーション科、整形外科、医療総合研修センター	放射線腫瘍科、放射線診断科、化学療法センター、リハビリテーション科、整形外科、医療総合研修センター医師、事務	骨転移病名検討他 骨転移登録	

資料 9

令和3年度 プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況

【京都大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏 名
1	子宮筋腫と子宮肉腫を術前に鑑別するアルゴリズム作成のための研究	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	鈴木 悠
2	JGOG3030 (倫理委員会審査予定)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	植田 彰彦
3	JGOG3025-A1 (倫理委員会審査予定)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	植田 彰彦
4	G1320: 婦人科がんに対する新規治療戦略の開発	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
5	G1323: JGOG-ToMMoバイオバンキング事業	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
6	C1509-3、婦人科がん患者に対するモバイルアプリケーション等を用いたデータベースの構築とヘルスケア評価の探索的研究	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
7	C1458-5、婦人科がん患者に対するモバイルアプリケーションを用いたがんヘルスケア管理のFeasibility Study	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
8	小児髄芽腫に対し新規リスク分類を導入したチオテパノメルファラン大量化学療法併用放射線減量治療の有効性と安全性を検討する第II相試験 (JCCG MB19)	小児と AYA 世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
9	頭頸部扁平上皮癌の再発高リスク患者に対する過分割照射法・強度変調放射線治療を用いたシスプラチン同時併用術後化学放射線治療の多施設共同 第IIa相試験	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	平岡 伸也
10	生体インピーダンス法で測定した胃癌手術前後における骨格筋量変化の検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
11	日本肝胆膵外科学会プロジェクト研究	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	牧野 健太
12	G0424『乳癌微小環境形成に関わる分子生物学的機序の生体試料を用いた探索研究』	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	福井 由紀子
13	小児脳腫瘍治療後の高次の認知・運動機能の障害とその社会生活自立度 に関する調査研究	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	杉原 雄大
14	若年がん患者のニーズ尺度(CNQ-YP)日本語版の開発と信頼性・妥当性の検証(R2794-2)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
15	治療終了後長期間経過した小児がん患者のQOL及び、それに影響を及ぼす因子についての検討(R3111)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
16	覚醒下手術前向き観察研究	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場 千夏
17	プロトンポンプ阻害薬とマクロライド系抗菌薬の併用が急性腎障害のリスクに及ぼす影響について	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田 慧子

【三重大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏 名
1	パルプロ酸の併用がワルファリン服用患者のPT-INRに及ぼす影響に関する後ろ向き観察研究	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	白石ひろ
2	オラパリブ投与時における貧血の発現要因に関するコホート研究	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	白石ひろ
3	卵巣がん患者におけるPARP阻害薬による葉酸及びビタミンB12の変動に関する観察研究	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	白石ひろ
4	臨床研究テーマが決まり、プロトコル作成途中の段階である。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	小高紗季
5	高度肥満子宮体癌(BMI 30kg/m ²)に対するMinimally Invasive Surgery(MIS)の後方視的研究	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	吉田健太
6	GD2発現乳癌の臨床病理学的特徴および予後に関する後方視的観察研究	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東千尋
7	癌精巢抗原発現乳癌の臨床病理学的特徴及び予後に関する後方視的観察研究	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東千尋

【滋賀医科大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏 名
1	「分子標的抗がん薬カボザンチニブの薬物動態に基づく至適投与法の確立に向けた臨床薬理学的研究」現在進行中。	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	道家雄太郎
2	感染症治療初期におけるリネゾリドとバンコマイシン併用による効果(事務チェック中)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
3	「レボチロキシンの吸収に影響を及ぼす併用薬の実態調査と影響因子の探索(R2021-058)」	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴

令和2年度 プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況

【京都大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏 名
1	ニボルマブ+イピリウムマブで治療される悪性黒色腫患者における腸内細菌代謝産物の臨床的意義に関する前向き観察研究	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤 伴樹
2	治療抵抗性を示すヒト固形がん由来CTOSを用いたがんバイオマーカーの探索と新規治療の開発	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤 伴樹
3	「G1101: 卵巣癌における相同組換え修復異常の頻度とその臨床的意義を明らかにする前向き観察研究」	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
4	JGOG2043A-2	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	鈴木 悠
5	C1458-1「婦人科がん患者に対するモバイルアプリケーションを用いたがんヘルスケア管理のFeasibility Study」	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
6	C1509婦人科がん患者に対するモバイルアプリケーション等を用いたデータベースの構築とヘルスケア評価の探索的研究	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
7	小児最末分化型急性骨髄性白血病(FAB分類M0)におけるゲノム・エピゲノム 変異および遺伝子発現プロファイルの生物学的、臨床的意義に関する検討	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
8	小児の複数回再発・難治ALLに対する少量シタラビンとプリナツモマブによる寛解導入療法の第Ⅱ相試験(ALL-R19-BLIN).	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
9	小児B前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第Ⅱ相および第Ⅲ相臨床試験(ALL-B19)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
10	JCOG「小児髄芽腫に対し新規リスク分類を導入したチオテパ／メルファラン大量化学療法併用放射線減量治療の有効性と安全性を検討する第Ⅱ相試験」	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
11	JCOG「小児髄芽腫に対し新規リスク分類を導入したチオテパ／メルファラン大量化学療法併用放射線減量治療の有効性と安全性を検討する第Ⅱ相試験」	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
12	JCOG「非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍に対して強化髄注短期決戦型化学療法とチオテパ／メルファラン大量化学療法後に遅延放射線治療を行う集学的治療レジメンの安全性と有効性を検討する第Ⅱ相試験」	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
13	C1463 胸腹部体内臓器の位置再現性評価	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
14	C1484-1、食道癌根治手術患者における骨格筋量減少予防を目的とした栄養運動療法の前向き介入試験	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
15	R2348、炎症性腸疾患合併消化管癌のデータベース作成と臨床病理学的研究	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
16	R2362、腹膜播種に対するCRS+HIPECの意義に関する他施設共同研究	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
17	NAFLD/NASH移植患者における遺伝的素因の解析 作成(倫理委員会承認済み)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	牧野 健太
18	R2257-1 がん患者-家族間での患者のQuality of Lifeに関する認識の乖離の横断的調査	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	森野 達平
19	「若年がん患者ニーズ尺度(CNQ-YP)日本語版の開発と信頼性・妥当性の検証」研究の実施計画書、研究説明書作成済み。現在、医の倫理委員会【受付番号：R2794】にて専門小委員会による審査中。	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀

【三重大大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏 名
1	該当なし		

【滋賀医科大学】

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏 名
1	「免疫チェックポイント阻害薬の腎機能への影響調査(R2020-152)」	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴

令和3年度 国際学会、英文誌への発表一覧

【京都大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	学会等発表 Kondo T, Kanai M, Yamamoto Y, et al. Clinical utility of the ESMO Precision Medicine Working Group recommendation on indication for germline follow-up testing in tumour-only sequencing. ESMO CONGRESS 2021, Paris, France, September 2021.(筆頭)	プレジジョンメディスンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
2	学会等発表 Kondo T, Yamada T, Yoshioka M, et al. Confirmatory germline testing for presumed germline pathogenic variants using tumor-only testing. ASCO Annual Meeting 2021, USA, June 2021.(筆頭)	プレジジョンメディスンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
3	学会等発表 「AACR annual meeting 2021」,「CD276 in tumor cells contributes to the M2 macrophage-rich immunosuppressive tumor microenvironment via upregulating the CCL2-CCR2 axis in ovarian cancer」,「2021年4月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
4	学会等発表 「The 63rd Annual meeting of the Japan Society of Gynecologic Oncology」,「CD276 downregulation associates with IFN- γ -rich immunoreactive tumor microenvironment in ovarian cancer」,「2021年7月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
5	学会等発表 日本産科婦人科学会 Tertiary lymphoid structures and B cells are associated with favorable survival outcomes in patients with endometrial cancer 2021/4 筆頭	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	鈴木 悠
6	学会等発表 第73回日本産科婦人科学会学術講演会、ZDHHC7 contributes to ferroptosis resistance through Hippo signaling in ovarian clear cell carcinoma, 2021年4月、筆頭	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
7	学会等発表 第80回日本癌学会学術総会、ZDHHC7 contributes to ferroptosis resistance through YAP localization in ovarian clear cell carcinoma、2021年10月、筆頭	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
8	学会等発表 April 10-15th, 2021, AACR Annual Meeting 2021, Identification of a clinically significant pan-cancer biomarker for homologous recombination deficiency, First author	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗
9	学会等発表 July 16-18th, 2021, The 63th Annual Meeting of the Japan Society of Gynecologic Oncology, The utility of homologous recombination deficiency biomarkers across cancer type, First author	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗
10	学会等発表 Sep 30th - Oct 2nd, 2021, The 80th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, A novel mutational signature-based tumor genomic subtyping method predicts response to immune checkpoint inhibitors	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗
11	学会等発表 The 73rd Congress of Japan Society of obstetrics and Gynecology, 'Health care management using mobile applications for gynecological cancer patients', 2021/04, 筆頭発表	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
12	学会等発表 第80回 日本癌学会学術総会, 'Health care monitor using mobile applications for gynecological cancer patients', 2021/10, 筆頭発表	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
13	学会等発表 The 73rd Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology, International Workshop for Junior Fellows. Current status of risk-reducing surgery for hereditary breast and ovarian cancer in gynecology (Risk-reducing bilateral salpingo-oophorectomy: RRSO) in Japan. April 2021 (筆頭)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	稲山 嘉英
14	学会等発表 「日本血液学会学術集会」,「The molecular landscape of pediatric and adult minimally differentiated acute myeloid leukemia」,「2021年9月」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
15	学会等発表 「日本小児血液・がん学会学術集会」,「Comprehensive genetic analysis of pediatric minimally differentiated acute myeloid leukemia (AML-M0)」,「2021年11月」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
16	学会等発表 世界肺癌学会、"Impact of Local Control on Cause-Specific Survival After SBRT for Early-Stage NSCLC: Dynamic Prediction With Landmarking", 2021.9.10 筆頭発表	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
17	学会等発表 19th International Congress on Neutron Capture Therapy / Improvement of quantitative autoradiography in boron neutron capture therapy / 2021年9月27日 - 2021年10月1日 / 筆頭演者	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	武野 慧
18	学会等発表 "4th Global Adolescent and Young Adult Cancer Congress", "A Survey of the Needs of Japanese AYA Generation Cancer Patients Using the Japanese Version of the Cancer Needs Questionnaire Young People (CNQ-YP-J)", 1-2 December 2021, 筆頭	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
19	学会等発表 AAPM 63rd Annual meeting, valuation of the displacement of the target position caused by residual setup errors in stereotactic radiosurgery with single-isocenter volumetric modulated arc therapy for multiple brain metastases, July 2021. (First author)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	鶴田 裕輔

20	学会等発表 The 121 Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics, Development of AI-based prediction models in real-time tumor tracking radiotherapy, 21/4/, 筆頭発表	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	Dejun Zhou
21	学会等発表 The 9th Korea-Japan Joint Meeting on Medical Physics, Effect of couch rotation on positional errors at off-isocenter positions, 2021年9月, 共著発表	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	木戸 貴久
22	論文発表 Yamada A, Matsuoka Y, Minamiguchi S, Yamamoto Y, Kondo T, et al. Real-world outcome of universal screening for Lynch syndrome in colorectal cancer underscores the importance of targeting patients with young-onset disease. Mol Clin Oncol 2021 (in press). (共著)	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
23	論文発表 Cancers, Acquired Evolution of Mitochondrial Metabolism Regulated by HNF1B in Ovarian Clear Cell Carcinoma, 2021年5月, 共著	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
24	論文発表 Cancer Science, PDK2 leads to cisplatin resistance through suppression of mitochondrial function in ovarian clear cell carcinoma, 2021年8月, 共著	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
25	論文発表 BJOG: An International Journal of Obstetrics & Gynaecology CT scan assessment of intrauterine balloon tamponade failure for the treatment of atonic postpartum haemorrhage: implications for treatment 2021年5月 共著発表	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	植田 彰彦
26	論文発表 「Cancer Immunology, Immunotherapy」, 「Tertiary lymphoid structures are associated with favorable survival outcomes in patients with endometrial cancer」, 「2021年10月(Online first)」(共著発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
27	論文発表 「Cancer Immunology Research」, 「B7-H3 suppresses anti-tumor immunity via the CCL2-CCR2-M2 macrophage axis and contributes to ovarian cancer progression」 「2021年11月(Online first)」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
28	論文発表 JCO Precision Oncology, Utility of Homologous Recombination Deficiency Biomarkers Across Cancer Types, 2021 Aug 11, First author	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗
29	論文発表 Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. A report on the 73th Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology International Workshop for Junior Fellows: Risk-reducing surgery for hereditary breast and ovarian cancer. Nov 2021 (筆頭, Contributed equally)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	稲山 嘉英
30	論文発表 Acta Obstetrica et Gynecologica Scandinavica. Vertical transmission of methicillin-resistant Staphylococcus aureus at delivery and its clinical impact: An observational, prospective cohort study. Nov 2021. (共著)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	稲山 嘉英
31	論文発表 「Pediatr Blood Cancer」, 「Inotuzumab ozogamicin following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation successfully rescued relapse of CD19-negative acute lymphoblastic leukemia after CAR-T cell therapy」, 「2021年5月」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
32	論文発表 「J Pediatr Hematol Oncol」, 「Intracranial Growing Teratoma Syndrome With Intraventricular Lipid Accumulation」, 「2021年5月」, (共著発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
33	論文発表 「J Pediatr Hematol Oncol」, 「Improvement of Bone Marrow Necrosis by Tyrosine Kinase Inhibitor Substitution in a Pediatric Patient With Philadelphia Chromosome-positive Acute Lymphoblastic Leukemia」, 「2021年4月」, (共著発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
34	論文発表 Internal Journal of Clinical Oncology, Efficacy of local salvage therapy for recurrent uterine cervical cancer after definitive radiotherapy, 24 June 2021, 筆頭著者	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	平岡 伸也
35	論文発表 ①JRR ② Dosimetric comparison among dynamic conformal arc therapy, coplanar and non-coplanar volumetric modulated arc therapy for single brain metastasis 2021年9月 ③筆頭演者	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	鳥塚 大地
36	論文発表 「Journal of Medical Internet Research」, 「Public Opinion and Sentiment Before and at the Beginning of COVID-19 Vaccinations in Japan: Twitter Analysis」, 「July 23, 2021」(筆頭発表者Qian Niu, 私は共著者です)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	加藤 雅也
37	論文発表 「PLoS ONE」, 「Potential application of measuring serum infliximab levels in rheumatoid arthritis management: A retrospective study based on KURAMA cohort data」, 「2021 21年10 月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井 翔
38	論文発表 Radiation oncology, Geometric and dosimetric impact of 3D generative adversarial network-based metal artifact reduction algorithm on VMAT and IMPT for the head and neck region, May 2021. (Co-author)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	鶴田 裕輔

【三重大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	Salvage endoscopic submucosal dissection with a small-caliber endoscope for recurrent esophageal cancer on distal side of esophageal stricture. Endoscopy. 2021;53:E363-E364. 共著発表	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
2	Improving the Prognosis of Pancreatic Cancer Through Early Detection: Protocol for a Prospective Observational Study. JMIR Res Protoc. 2021;10:e26898. 共著発表	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
3	Clinical utility of endoscopic submucosal dissection using the pocket-creation method with a HookKnife and preoperative evaluation by endoscopic ultrasonography for the treatment of rectal neuroendocrine tumors. Surg Endosc. 2021 Jan 25. 共著発表	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
4	Increased Reflux Esophagitis after Helicobacter pylori Eradication Therapy in Cases Undergoing Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Cancer. Cancers (Basel). 2021;13:1779. 共著発表	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
5	英文誌 Drug-Drug Interaction between Azathioprine and Allopurinol in Patients with Chronic Kidney Disease: A Case Series Study .BPB Reports 2021 Oct 21.4(5). 170-174 (共同著者)	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	白石ちひろ
6	Case Report, Peutz-Jeghers syndrome complicated by gastric-type cervical mucinous carcinoma and primary peritoneal carcinoma, Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, Volume 47, Issue 10, 3732-3736	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	小高紗季
7	Laparoscopic retroperitoneal para-aortic lymph node biopsy in advanced cervical cancer with pelvic lymph node metastases: A single-center prospective study J Obstet Gynaecol Res.2021 Aug 18.Online ahead of print.	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	吉田健太
8	Laparoscopic Versus Robotic Hysterectomy in Obese Patients With Early-stage Endometrial Cancer: A Single-centre Analysis Anticancer Res.2021 Aug;41(8):4163-4167.	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	吉田健太
9	Difficulties faced by Japanese physicians in while practicing advance care planning (ACP), 14th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference (APHC),November, 2021,JAPAN	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	Kumiko Yamaguchi
10	Donor-derived M2 macrophages attenuate GVHD after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Immun Inflamm Dis. 2021 Dec;9(4):1489-1499. doi: 10.1002/iid3.503. (共著発表)	小児がん治療専門医養成コース	伊藤 卓洋
11	論文発表 Endobronchial brachytherapy combined with surgical procedure for synchronous multiple primary lung cancer: A case report Thorac Cancer. 2021 Apr; 12(8): 1252-1255.	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を实践する人材養成コース	大森 千輝

【滋賀医科大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	Tetsuichiro Isono, Daiki Hira, Masahiro Kawahara, Akira Andoh, Tomohiro Terada, Shin-ya Morita: Construction and validation of real-time PCR based measurement of NUDT15 gene polymorphism, 第31回日本医療薬学会年会, 2021年10月9日	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
2	Tetsuichiro Isono, Daiki Hira, Aya Morikochi, Tadateru Fukami, Satoshi Ueshima, Kazuhiko Nozaki, Tomohiro Terada, Shin-ya Morita. Urine volume to hydration volume ratio is associated with pharmacokinetics of high-dose methotrexate in patients with primary central nervous system lymphoma. Pharmacol. Res. Perspect., 9 (6) e00883 (2021).	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
3	Rika Fukui, Daiki Hira, Yuki Kunitzu, Tetsuichiro Isono, Yohei Tabuchi, Yoshihiro Ikuno, Satoshi Ueshima, Hideki Itoh, Toshihiro Tanaka, Tomohiro Terada. High incidence of major bleeding with off-label use of edoxaban. J. Clin. Biochem. Nutr., 69 (3), 311-316 (2021).	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
4	Surgery Today, Differences in the safety line of the future liver remnant plasma clearance rate of indocyanine green necessary to prevent post-hepatectomy liver failure associated with underlying diseases, 2021.5, first author	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
5	「Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition」, 「High incidence of major bleeding with off-label use of edoxaban」, 「2021年6月」(共著)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴

【大阪医科薬科大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	該当なし		

【京都薬科大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	論文発表 Biochemical and Biophysical Research Communications、Human $\gamma 9V \delta 2$ T cells exert anti-tumor activity independently of PD-L1 expression in tumor cells.、2021.8.4(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金 眞光
2	論文発表 (共著発表)「Biochemical and Biophysical Research Communications」、「Human $\gamma 9V \delta 2$ T cells exert anti-tumor activity independently of PD-L1 expression in tumor cells」、「2021年8月」	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	佐野 友亮
3	論文発表(筆頭論文) Chiami Moyama, Mitsugu Fujita, Shota Ando, Keiko Taniguchi, Hiromi Ii, Seisuke Tanigawa, Naoya Hashimoto and Susumu Nakata. (2021). Stat5b inhibition blocks proliferation and tumorigenicity of glioblastoma stem cells derived from a de novo murine brain cancer model. American Journal of Cancer Research (in press).	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
4	論文発表 Human $\gamma 9V \delta 2$ T cells exert anti-tumor activity independently of PD-L1 expression in tumor cells. Biochem. Biophys. Res. Commun. (2021)、共著発表	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	清水 大器

令和2年度 国際学会、英文誌への発表一覧

【京都大学】

NO.	取 組 状 況 等	所 属 コース	氏 名
1	学会等発表 American Association for Cancer Research (AACR) Virtual Annual Meeting II・ Characterization of the chick chorioallantoic membrane tumor model in comparison with various xenograft mouse tumors.・2020年6月22日～24日	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤 伴樹
2	学会等発表 第79回日本癌学会学術集会・The chick chorioallantoic membrane tumor model retaining a series of histological features of the parental tumor. 2020年10月1日～3日	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤 伴樹
3	学会等発表 GAP2020, Clinical utility of comprehensive genomic profiling for chemotherapy-naïve gastrointestinal malignancies. 2020年11月(筆頭発表)	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
4	学会等発表 「The 79th annual meeting of the Japanese Cancer Association」 「CD276 contributes to immunosuppressive phenotype in ovarian cancer via CCL2-CCR2 axis」 「2020年10月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
5	学会等発表 「The 62th annual meeting of the Japan Society of Gynecologic Oncology」 「CD276 contributes to malignant feature in mesenchymal subtype in ovarian cancer」 「2021年1月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
6	学会等発表 第72回日本産婦人科学会、Ferroptosis resistance may be associated with epithelial-mesenchymal transition and cell adhesion. 2020年4月23日～4月28日(Web) 筆頭演者	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
7	学会等発表 第79回日本癌学会学術総会、Ovarian clear cell carcinoma exhibit resistance against ferroptosis through possible association with Hippo signaling.、2020年10月1日～10月3日(Web) 筆頭演者	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
8	学会等発表 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、Ferroptosis resistance through Hippo signaling is a distinct mechanism from platinum resistance. 2021年1月29日～2月11日(Web) 筆頭演者	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
9	学会等発表 第79回 日本癌学会学術総会 2020年10月1日～3日 広島市Shiro Takamatsu, Koji Yamanoi, Junzo Hamanishi, Ken Yamaguchi, Noriomi Matsumura, Masaki Mandai 「New patient classification method for immunotherapy response prediction based on pan-cancer mutational signature」	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗
10	学会等発表 第72回日本産科婦人科学会学術講演会 2020年4月23日～28日 Web Shiro Takamatsu, Koji Yamanoi, Junzo Hamanishi, Ken Yamaguchi, Noriomi Matsumura, Masaki Mandai 「Pan-cancer patient stratification based on mutational signatures with applications to gynecological cancers」	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗
11	学会等発表 第4回国際がん研究シンポジウム 2021年1月27日 近畿大学主催 高松 士朗 「Pan-cancer analysis of homologous recombination deficiency identifies patients with favorable response to DNA-damaging chemotherapy」	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗
12	学会等発表 「American society for radiation oncology annual meeting 2020」、「Efficacy of metastasis-directed therapy for recurrent uterine cervical cancer after definitive radiotherapy」、「2020年11月」、「筆頭発表」	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	平岡 伸也
13	学会等発表 WCLC 2020 Singapore, A propensity score-weighted analysis for SBRT, lobectomy and sublobar resection in elderly patients with cStage I NSCLC (2021/1/28-31、筆頭演者)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
14	学会等発表 「JSMO2021, 2021/2/21, The prediction of pathogenic germline variants in Japanese breast cancer patients(筆頭)」	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田 典子
15	学会等発表 「JSHG2020, 2020/11/18, Prediction of pathogenic germline variant carriers in breast cancer patients at genetic counseling(筆頭)」	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田 典子
16	学会等発表 「臨床外科学会、ポスターセッション」 「G-CSF Producing Carcinoma of the Breast Showing the Rapid Progression Caused by Core Needle Biopsy: a case report」 「2021年2月18日～31日」筆頭発表	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	福井 由紀子
17	学会等発表 2020 Joint AAPM I COMP Virtual Meeting, “Prognostic prediction for lung stereotactic body radiotherapy by using breath-hold CT-based radiomic features with random survival forest: A multi-institutional study”, 2020/07, (筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野 諒
18	学会等発表 「The 119th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics」, 「Prediction of radiation pneumonitis after lung stereotactic body radiation therapy using dose-based radiomics features: a retrospective multi-institutional study」, 2020/4/9-12, 第1著者	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立 孝則
19	学会等発表 「The 119th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics」, 「Radiomic robustness assessment to respiratory motion on average intensity projection images」, 2020/4/9-12, 第4著者	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立 孝則

20	学会等発表 「2020 Joint AAPM COMP Virtual Meeting」, 「Prediction of radiation pneumonitis after lung stereotactic body radiation therapy using dosiomics features: a retrospective multi-institutional study」, 2020/7/12-16, 第1著者	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立 孝則
21	学会等発表 「2020 Joint AAPM COMP Virtual Meeting」, 「Prognostic prediction for lung stereotactic body radiotherapy by using breath-hold CT-based radiomic features with random survival forest: A multi-institutional study」, 2020/7/12-16, 第16著者	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立 孝則
22	学会等発表 「Global Academic Program 2020」, 「Prediction of radiation pneumonitis after lung SBRT using dosiomics features」, 2020/11/16-19, 第1著者	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立 孝則
23	論文発表 Kondo T, Mastubara J, Quy PN, et al. Comprehensive genomic profiling for patients with chemotherapy-naïve advanced cancer. Cancer Science 2020.(筆頭発表)	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
24	論文発表 Kondo T, Kanai M, Mastubara J, et al. BRCA2 Reversion Mutation Identified by Liquid Biopsy After Durable Response to FOLFIRINOX in BRCA2-Associated Pancreatic Cancer. Pancreas 2020(筆頭発表)	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
25	論文発表 「Case Reports in Obstetrics and Gynecology」, 「Low-Grade Endometrial Stromal Sarcoma with a Nodule-in-Nodule Appearance in Preoperative Magnetic Resonance Images」, 「2020年7月」(共著発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
26	論文発表 Case Reports in Obstetrics and Gynecology Two cases of ectopic pregnancy mimicking gestational trophoblastic disease 2020年6月 筆頭発表	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	鈴木 悠
27	論文発表 The Journal of Obstetrics and Gynecology A novel classification of glucose profile in pregnancy based on continuous glucose monitoring data 2021年1月 共著発表	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	鈴木 悠
28	論文発表 J Obstet Gynaecol Res, Conservative management for retained products of conception after less than 22 weeks of gestation, 2020年10月(共著)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	河原 俊介
29	論文発表 Leukemia. Leukemic cells expressing NCOR1-LYN are sensitive to dasatinib in vivo in a patient-derived xenograft mouse model. 2020. (共著)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
30	論文発表 「Pediatric Blood and Cancer」, 「Inotuzumab ozogamicin following allogeneic HSCT successfully rescued relapse of CD19-negative ALL after CAR-T cell therapy」, 「2021年2月」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
31	論文発表 「Journal of Pediatric Hematology/Oncology」, 「Intracranial Growing Teratoma Syndrome With Intraventricular Lipid Accumulation」, 「2020年8月」(共著発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
32	論文発表 「Nature Communications」, 「Oncogenic cooperation between the TCF7-SPI1 fusion and NRAS(G12D) requires β -catenin activity to drive T-cell acute lymphoblastic leukemia」, in press (共著)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
33	論文発表 Kishi N, Nakamura M, Hirashima H, et al. Validation of the clinical applicability of knowledge-based planning models in single-isocenter volumetric-modulated arc therapy for multiple brain metastases. J Appl Clin Med Phys. 2020;21(10):141-150. (筆頭)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
34	論文発表 Yamanashi K, Hamaji M, Matsuo Y, et al. Updated long-term outcomes of salvage surgery after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small-cell lung cancer. Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2020;31(6):892-894. (共同)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
35	論文発表 Ohira S, Kanayama N, Wada K, et al. Improvement of image quality and assessment of respiratory motion for hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombosis using contrast-enhanced four-dimensional dual-energy computed tomography. PLoS One. 2021;16(1):e0244079. Published 2021 Jan	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
36	論文発表 Shintani T, Kishi N, Matsuo Y, et al. Incidence and Risk Factors of Symptomatic Radiation Pneumonitis in Non-Small-Cell Lung Cancer Patients Treated with Concurrent Chemoradiotherapy and Consolidation Durvalumab [published online ahead of print, 2021 Feb 4]. Clin Lung Cancer. 2021;S1525-7304(21)00020-6. (共同)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
37	論文発表 Urologic Oncology: Seminars and Original Investigations, Increased risk of disease progression in younger men: Analysis of factors predicting biochemical failure and castration-resistant prostate cancer after high-dose intensity-modulated radiation therapy for nonmetastatic prostate cancer, 2020/11/01(Epub), 筆頭著者	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	相澤 理人
38	論文発表 「JAMA Netw Open」, 「Association of Chemoradiotherapy With Thoracic Vertebral Fractures in Patients With Esophageal Cancer」, 「2020年9月」(共著発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	稲生 浩之
39	論文発表 「International Cancer Conference Journal」, 「Definitive radiotherapy for secondary esophageal cancer after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation」, 「2021年3月」(共著発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	稲生 浩之

40	論文発表 「Frontiers in Digital Health」「Satisfaction With Web-Based Healthcare Content in Cancer Survivors: A Cross-Sectional Survey」「Publish: 2020年12月16日」(筆頭: 華井明子 / 共著: 森野達平、篠原有紀、青山朋樹、坪山直生)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
41	論文発表 「Journal of Adolescent and Young Adult Oncology」「Perception Gap in Health-related Quality of Life Between Young Adult Survivors of Childhood Cancer and Their Family」「Accept: 2021年1月25日」(筆頭: 森野達平 / 共著: 篠原有紀、牛蒡、下浦佳南子、田畑阿美、華井明子、小川真寛、加藤寿宏、谷向仁、坪山直生、松岡真里、足立壮一、青山朋樹)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
42	論文発表 Journal of Adolescent and Young Adult Oncology Perception Gap in Health-related Quality of Life Between Young Adult Survivors of Childhood Cancer and Their Family 掲載決定 (2021年1月26日) (筆頭) Morino Tappei, Shinohara Yuki, Niu Qian, Shimoura Kanako, Tabata Ami, Hanai Akiko, Ogawa Masahiro, Kato Toshihiro, Tanimukai Hitoshi, Tsuboyama Tadao, Matsuoka Mari, Adachi Soichi, Aoyama Tomoki	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	森野 達平
43	論文発表 Frontiers Digital Health Satisfaction With Web-Based Healthcare Content in Cancer Survivors: A Cross-Sectional Survey 2020年12月16日 Hanai, MorinoのDouble-firstとして投稿	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	森野 達平
44	論文発表 「Cancer Research」, 「Pro-nociceptive roles of Schwann cell-derived galectin-3 in taxane-induced peripheral neuropathy」, 「In press. (2021年2月にonlineに先行掲載)」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳 円花
45	論文発表 「Neuropharmacology」, 「Cilostazol is an effective causal therapy for preventing paclitaxel-induced peripheral neuropathy by suppression of Schwann cell dedifferentiation」, 「In press. 」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳 円花
46	論文発表 「BMJ Open」「Association of proton pump inhibitors and concomitant drugs with risk of acute kidney injury: nested case control study」「2021年1月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田 慧子
47	論文発表 「Bioorg Med Chem」, 「Combined use of chemically modified nucleobases and nanostructured DNA for enhanced immunostimulatory activity of CpG oligodeoxynucleotide」, 「2021年1月」(共著発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	梅村 圭祐
48	論文発表 「Nanomedicine」, 「Critical contribution of macrophage scavenger receptor 1 to the uptake of nanostructured DNA by immune cells」, 「2021年3月 In press」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	梅村 圭祐
49	論文発表 Medical Physics, “Application and limitation of radiomics approach to prognostic prediction for lung stereotactic body radiotherapy using breath-hold CT images with random survival forest: A multi-institutional study”, 2020/09	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野 諒
50	論文発表 「Medical Physics」, 「Multi-institutional dose-segmented dosimetric analysis for predicting radiation pneumonitis after lung stereotactic body radiation therapy」, 2021/2 (In press), 1st author	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立 孝則
51	論文発表 「Medical Physics」, 「Application and limitation of radiomics approach to prognostic prediction for lung stereotactic body radiotherapy using breath-hold CT images with random survival forest: A multi-institutional study」, 2020/9, 16th author	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立 孝則

【三重大学】

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	A Fish Bone Migrating into the Peritoneal Cavity. Intern Med. 2020;59:3243-3244. 共著発表	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
2	An Unusual Web Stricture in the Cervical Esophagus. Gastroenterology. 2020;158:54-55. 筆頭発表.	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
3	Unusual cause of hematochezia in an elderly man Dig Liver Dis. 2020;52:234. 筆頭発表	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
4	Small gastric metastases of malignant melanoma mimicking gastric erosion (with video). Gastrointest Endosc. 2020;92:423-424. 筆頭発表	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
5	Esophageal muscle layer tear during endoscopic submucosal dissection treated by polyglycolic acid sheets and fibrin glue. Endoscopy. 2020;52:E211-E212. 共著発表	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
6	Primary Colorectal Follicular Lymphoma Observed by Magnifying Endoscopy, with a Five-year Follow-up. Intern Med. 2020;59:1395-1399. 共著発表	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
7	Usefulness of an additional lead shielding device in reducing occupational radiation exposure during interventional endoscopic procedures: An observational study. Medicine (Baltimore). 2020;99:e21831. 共著発表	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平

8	Adult hypertrophic pyloric stenosis that improved by spontaneous double channel pylorus formation. JGH Open. 2020;5:317-319. 共著発表	ライフステージに応じた 集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	梅田悠平
9	英文誌 Okamoto A, Ikemura K, Mizutani E, Iwamoto T, Okuda M. Opioid therapy duration before naldemedine treatment is a significant independent risk of diarrhea: a retrospective cohort study. J Pharm Health Care Sci. 2021 Feb 1;7(1):3.	ライフステージおよびゲノム情報 に応じた個別化医療を推進するがん専門 薬剤師養成コース	岡本明大
10	Role of microRNAs in glucocorticoid-resistant B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia. Oncol Rep . 2019 Aug;42(2):708-716. doi: 10.3892/or.2019.7191. (共著発表)	小児がん治療専門医養成コース	伊藤 卓洋

【滋賀医科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	Yuichi Sawayama, Takashi Yamamoto, Yukinori Tomita, Kohei Asada, Noriaki Yagi, Megumi Fukuyama, Akashi Miyamoto, Hiroshi Sakai, Tomoya Ozawa, Tetsuichiro Isono, Daiki Hira, Tomohiro Terada, Minoru Horie, Yoshihisa Nakagawa; Comparison between clopidogrel and prasugrel associated with CYP2C19 genotypes in patients receiving percutaneous coronary intervention in a Japanese population, Circ. J., 84 (9), 1575-1582 (2020).	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース	磯野哲一郎
2	Ann Surg Oncol. Prognostic Impact of Pancreatic Invasion in Duodenal Carcinoma: A Single-Center Experience, 2020.4, first author	ライフステージに応じたがん集学的治療と 全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
3	World J Surg. Prognostic Impact of Paraaortic Lymph Node Metastasis in Extrahepatic Cholangiocarcinoma, 2020.10, first autho	ライフステージに応じたがん集学的治療と 全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
4	Journal of Surgical Case Reports, Middle segment-preserving pancreatotomy for multifocal pancreatic ductal adenocarcinoma located in the head and tail of the pancreas: a case report, 2020.8, fist author	ライフステージに応じたがん集学的治療と 全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
5	「The Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition」「High Incidence of Major Bleeding with Off-Label Use of Edoxaban」「2021年3月」(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース	福井里佳

【大阪医科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	該当なし		

【京都薬科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	論文発表 「Biological and Pharmaceutical bulletin」, 「Factors associated with dose modification of lenalidomide plus dexamethasone therapy in multiple myeloma」, 「2020年8月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	角 陽子
2	論文発表 「Biochem. Biophys. Res. Commun.」, 「A novel dipeptide type inhibitor of the Wnt/ β -catenin pathway suppresses proliferation of acute myelogenous leukemia cells」, 「2021.1月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	若林 亮介
3	学会等発表 American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2020 (e-Poster). Cdk4/6 inhibitor Abemaciclib overcomes resistance to BET inhibitor in leukemic cells with MLL-AF5q31 fusion gene. 2020.4.24-29. (筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	甘利 圭悟
4	学会等発表 Global Academic Programs 2020 (e-Poster). MLL-AF5q31 cells acquire BET inhibitor resistance by Brd4-regulated molecules upregulation. 2020.11.16-18. (筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	甘利 圭悟
5	論文発表 Anticancer Research, Sphere-derived prostate cancer stem cells are resistant to $\gamma \delta$ T cell cytotoxicity., 2020.10 (共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	友金 眞光
6	学会等発表 American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2020, Application of BET/CBP/p300 multi-bromodomain inhibitors as a novel therapeutic strategy for MLL-rearranged acute lymphoblastic leukemia, 2020年6月(筆頭発表/Web開催)	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	今吉 菜月
7	学会等発表 第4回国際がん研究シンポジウム. (Web)「Hypoxic adaptation of myeloma cells diminishes antimyeloma effects of $\gamma \delta$ T cells」, 2021.1.25-27, 2.1-3.(筆頭)	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	佐野 友亮

8	学会等発表 The 4th International Cancer Research Symposium of Training Plan for Oncology Professionals. The acetogenin analog JCI-20679 abrogates proliferation of glioblastoma stem cell via NFAT1 suppression. 2021年1月(筆頭)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
9	論文発表 Cancer Gene Therapy、Inhibition of Gli2 suppresses tumorigenicity in glioblastoma stem cells derived from a de novo murine brain cancer model.、2021年1月(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
10	論文発表 Cancer Gene Therapy、 γ -Glutamylcyclotransferase, a novel regulator of HIF-1 α expression, triggers aerobic glycolysis.、2021年1月(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
11	論文発表 Ito Y, Inoue E, Matsui Y, Kobuchi S, Moyama C, Amagase K, Yoshimura M, Ikehara Y, Nakata S, Nakanishi H. (2020). Cytology-based Detection of Circulating Tumour Cells in Human Pancreatic Cancer Xenograft Models With KRAS Mutation. Anticancer research, 40(12), 6781-6789.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
12	論文発表 Tanigawa S, Fujita M, Moyama C, Ando S, Ii H, Kojima Y, Fujishita T, Aoki M, Takeuchi H, Yamanaka T, Takahashi Y, Hashimoto N, Nakata S. (2021). Inhibition of Gli2 suppresses tumorigenicity in glioblastoma stem cells derived from a de novo murine brain cancer model. Cancer gene therapy, 10.1038/s41417-020-00282-5.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
13	論文発表 Taniguchi K, Kageyama S, Moyama C, Ando S, Ii H, Ashihara E, Horinaka M, Sakai T, Kubota S, Kawauchi A, Nakata S. (2021). γ -Glutamylcyclotransferase, a novel regulator of HIF-1 α expression, triggers aerobic glycolysis. Cancer gene therapy, 10.1038/s41417-020-00287-0.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
14	学会等発表 γ δ T細胞の体外増幅培養における予測可能なバイオマーカーの探索. 第79回日本癌学会学術総会. 2020.10.1-3.(共著発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	清水 大器
15	学会等発表 低酸素環境に適応した多発性骨髄腫に対する γ δ T細胞の抗腫瘍効果. 第79回日本癌学会学術総会. 2020.10.1-3.(共著発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	清水 大器

令和3年度 国内学会、雑誌等への発表一覧

【京都大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	学会等発表 第59回日本癌治療学会学術集会、がん遺伝子パネル検査における二次的所見疑い症例に対する生殖細胞系列確認検査の適応、2021年10月(筆頭)	プレジジョンメディスンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
2	学会等発表 第63回 日本婦人科腫瘍学会学術講演会、'Health care monitor using mobile applications for gynecological cancer patients', 2021/08,筆頭発表	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
3	学会等発表 第36回 日本女性医学学会学術集会、'婦人科がん患者に対する化学療法中の疲労感評価におけるライフログの有用性', 2021/11、筆頭発表	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
4	学会等発表 第63回 日本小児血液・がん学会学術集会、肝未分化肉腫と肝間葉系過誤腫の統合的遺伝学的検討、2021年11月、筆頭著者	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田坂 佳資
5	学会等発表 第124回日本小児科学会学術集会、SPI1融合遺伝子陽性T細胞性急性リンパ性白血病における新規克服法の開発、2021年4月 (筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
6	学会等発表 第83回日本血液学会学術集会、Novel therapeutic strategies for SPI1(+) T-ALL based-on the genome and transcriptome analyses、2021年9月(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
7	学会等発表 第80回日本癌学会学術集会、A novel high-risk subtype in T-cell acute lymphoblastic leukemia, identified by an integrative transcriptome and methylation analysis、2021年10月(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
8	学会等発表 第63回日本小児血液がん学会学術集会、Frequent SPI1-like signature in early T-cell precursor acute lymphoblastic leukemia、2021年11月(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
9	学会等発表 日本癌治療学会(2021/11、Benefit of long-term adjuvant androgen deprivation therapy for locally advanced prostate cancer with multiple unfavorable risks in the setting of high dose irradiation、筆頭演者)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
10	学会等発表 日本泌尿器腫瘍学会(2021/11、非転移性前立腺癌に対する放射線治療後の長期アジュバントアンドロゲン除去療法の有用性の評価、筆頭演者)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
11	学会等発表 日本放射線腫瘍学会 第34回学術大会”同時性複数肺病変に対する体幹部定位放射線治療後の放射線性肺臓炎” 共著発表 2021年11月	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
12	学会等発表 日本放射線腫瘍学会第32回学術大会 同時性複数肺病変に対する体幹部定位放射線治療後の放射線性肺臓炎 2021.10.12-14(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
13	学会等発表 第17回日本中性子捕捉療法学会学術大会 / BNCTにおける組織切片中の粒子飛程を考慮した定量ARG / 2021年7月10日 - 2021年7月11日 / 筆頭演者	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	武野 慧
14	学会等発表 日本放射線腫瘍学会 小児髄芽腫根治治療における永久脱毛に関する皮下放射線量閾値の検討 2021年11月	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	鳥塚 大地
15	学会等発表 JASTRO、切除可能境界腺癌に対する術前化学療法併用寡分割IMRTの病理学的奏効率について、2021年11月、筆頭発表	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小川 彩加
16	学会等発表 「第121回日本外科学会総会」「肝切除を伴う胆道癌に対する術前胆汁監視培養の有用性の検討」「2021年4月」(筆頭)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	牧野 健太
17	学会等発表 「第57回日本肝癌研究会」「当科における細胆管細胞癌の臨床的特徴」「2021年7月」(筆頭)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	牧野 健太
18	学会等発表 「第57回日本胆道学会学術集会」「肝切除・胆道再建を伴う胆道癌に対する術前胆汁監視培養の有用性の検討」「2021年11月」(筆頭)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	牧野 健太
19	学会等発表 「第44回 肝臓学会西部会」「当科における細胆管細胞癌と肝内胆管癌の臨床的特徴の比較検討」「2021年12月」(筆頭)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	牧野 健太

20	学会等発表 第121回日本外科学会定期学術集会/膵頭十二指腸切除術後の膵液瘻とドレーン排液アミラーゼ値推移の検討/2021年4月/筆頭発表	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	栗本 信
21	学会等発表 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会/Examination of early removal of external stent in pancreatic duct and drainage volume of stent after pancreaticoduodenectomy/2021年6月/筆頭発表	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	栗本 信
22	学会等発表 第76回日本消化器外科学会総会/膵頭十二指腸切除術後の膵液瘻と術後膵炎の関連についての検討/2021年7月/筆頭発表	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	栗本 信
23	学会等発表 第29回日本乳癌学会学術総会 当院におけるタキサン投与時のInfusion reaction についての検討 2021年7月1日	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	中川 梨恵
24	学会等発表 「第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会」、「治療終了後の経過年数が小児がん経験者及び家族のQOLに与える影響について」、2021年11月12-14日、筆頭	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
25	学会等発表 第23回宝ヶ池セミナー、肺移植後における抗真菌剤の体内への吸収を考慮したマネジメント、2021年10月、筆頭発表	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	梅村 圭祐
26	学会等発表 「医療薬学フォーラム2021 第29回クリニカルファーマシーシンポジウム」「プロトンポンプ阻害薬使用患者においてNSAIDs又は抗菌薬の併用が急性腎障害に及ぼす影響」(2021年7月25日)(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田 慧子
27	学会等発表 「第26回日本薬剤疫学学術総会」「プロトンポンプ阻害薬使用患者においてNSAIDs又は抗菌薬の併用が急性腎障害発症に及ぼす影響」(2021年11月27日)(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田 慧子
28	学会等発表 「医療薬学フォーラム2021 第29回クリニカルファーマシーシンポジウム」、「エタネルセプトのN末端は生体内でDPP-4により欠損される」、「2021年7月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井 翔
29	学会等発表 「医療薬学フォーラム2021 第29回クリニカルファーマシーシンポジウム」、「関節リウマチ患者における血中インフリキシマブ 濃度と抗薬物抗体測定による二次不応答の予測」、「2021年7月」(共著発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井 翔
30	学会等発表 「第15回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム」、「Prediction of drug discontinuation due to secondary non-response by serum infliximab and IL-6 levels in patients with rheumatoid arthritis」、「2021年10月」(共著発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井 翔
31	学会等発表 第77回日本放射線技術学会学術大会、線量計算の不確かさ、2021年4月(筆頭)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	鶴田 裕輔
32	学会等発表 第49回日本放射線技術学会秋季学術大会、臨床研究の実践、2021年10月(筆頭)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	鶴田 裕輔
33	学会等発表 第34回日本放射線腫瘍学会学術大会、頭頸部領域におけるcycleGANに基づくメタルアーチファクト低減、2021年11月(共著)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	鶴田 裕輔
34	学会等発表 「次世代放射線シンポジウム 2021」「深層学習を用いたCBCT画像のアーチファクト軽減」(2021年8月20日)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	大西 隆生
35	論文発表 「腫瘍内科」「切除不能・進行・固形がんにおけるリキッドバイオプシー」「第28巻第4号(2021年10月発行)」「(筆頭)	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
36	論文発表 産婦人科の実践、70巻5号、pp.485-493、殺細胞性化学療法剤の作用機序とDNA修復機構との関連、2021年5月、筆頭著者	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗

【三重大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	学会発表 「バーコード認証システムを用いた薬剤師以外の者による内服・外用薬ピッキング業務の評価」第31回日本医療薬学会年会2021.10.9-10(共同演者)	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師コース	岡本明大
2	学会発表 「医薬品トレーサビリティシステム(キュービックス)を利用した高額医薬品管理の有用性」日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2021.10.30-11.7(共同演者)	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師コース	岡本明大

3	学会発表 「薬剤師以外の者による一化補助業務実施に伴うエラー発生率および内容分析」日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2021 2021.10.30-11.7(共同演者)	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本明大
4	学会発表 「腎機能低下者におけるアザチオプリンとアロプリノールとの薬物相互作用:症例集積研究」第31回日本医療薬学会年会2021.10.9-10(共同演者)	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	白石ちひろ
5	学会発表 「ST合剤による高K血症を予測する数数学的モデルの構築」第15回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2021 2021.11.6-7(共同演者)	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	白石ちひろ
6	学会発表 骨盤内炎症性疾患を契機に卵巣癌の診断に至った一例、第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2021年7月16日～18日、Web開催	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	小高紗季
7	Fetus in uteroでNeoadjuvant chemotherapyを行った子宮頸部腺癌合併双胎妊娠の1例 日本婦人科腫瘍学会雑誌 (1347-8559)39巻3号 Page642-647(2021.07)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	吉田健太
8	第73回日本産科婦人科学会 液状化検体細胞診を用いた遺伝子解析による子宮体癌早期診断の検討	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	二村涼
9	第59回日本癌治療学会 子宮体癌早期診断における子宮頸部・体部液状化検体細胞診の遺伝子解析の有用性の検討	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	二村涼
10	学会発表 日本乳癌学会「乳房下溝線部脂肪筋膜弁を用いた乳房温存手術を誰でもできる手術にするための工夫」2021年7月1日-3日 (筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	吉川 美侑子
11	第29回日本乳癌学会学術総会 上部領域乳癌に対する乳房温存術の工夫(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東千尋
12	論文発表 Oncoplastic Breast Surgery, 6巻 1号 12-16, 2021 異時性乳癌に対する乳房温存手術時に対側乳房に修正を加え良好な整容性を得た1例(筆頭著者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東千尋
13	学会発表 日本乳癌学会「余剰な皮膚を脱上位化して利用するおちこまない法」2021年7月1-3日(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜
14	学会発表 東海外科学会「術後、原発巣の特定が困難であった乳癌の孤立性副腎転移の一例」2021年11月3日(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜
15	学会発表 日本乳癌検診学会「当院で手術を施行された検診発見乳癌と腫瘍自覚症例の臨床病理学的因子の比較検討」2021年11月26-27日(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜
16	学会発表 第294回 三重外科集談会「乳癌手術と同時に施行した対側リスク低減乳房切除術にて非浸潤性乳管癌が発見された遺伝性乳癌卵巣癌症候群の1例」(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
17	学会発表 第9回 日本乳房コンボラスティックサージェリー学会「上腹部真皮脂肪弁を用いて下垂を作成し良好な整容性を得たNSM後一次二期SBI再建の一例」(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
18	学会発表 第22回乳癌最新情報カンファランス「当院での遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)診療の現状と課題」(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
19	学会発表 第18回日本乳癌学会中部地方会「嚢胞形成を伴い急速増大したため術前減圧処置を必要とした巨大乳腺Metaplastic carcinoma(Squamous cell carcinoma)の一例」2021/9/4-9/5(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	小島 玲那
20	学会発表 第83回日本臨床外科学会総会「当院におけるBRCA1/2遺伝学的検査とリスク低減乳房切除術の実践」2021/11/18-11-20(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	小島 玲那
21	学会発表 第18回日本乳癌学会中部地方会「全身性アミロイドーシス素因を指摘されていない乳腺アミロイド腫瘍の一例」2021/9/4-9/5(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	畑川恵里奈
22	学会発表 第83回日本臨床外科学会総会「Nipple sparing mastectomy時に乳腺外科医ができることー上腹部真皮脂肪弁を利用した人工物による乳房再建ー」2021/11/18-11-20(筆頭演者)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	畑川恵里奈
23	アドバンスケアプランニング(ACP)において医師が看護師に期待する役割、第35回日本がん看護学会学術集会、令和3年2月	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	山口久美子

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	磯野哲一郎: シンポジウム 抗菌薬TDM代行オーダー, 第4回日本病院薬剤師会Future Pharmacist Forum, 2021年7月10-18日	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
2	磯野哲一郎: シンポジウム NSAIDsとTriple Whammyによる薬剤性腎障害, 第15回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2021, 2021年11月7日	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
3	磯野 哲一郎 平 大樹 河原 真大 稲富 理 安藤 朗 寺田 智祐 森田 真也 チオプリン製剤投与患者におけるNUDT15遺伝子多型c.416G>A変異の臨床的影響、第12回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2021年 11月26, 27日	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
4	磯野 哲一郎 シンポジウム 腎機能低下患者への糖尿病薬と設計、第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会 2022年1月29, 30日	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
5	第48回日本膵切研究会、膵切除後早期パנקレリパーゼ投与が術後栄養状態に与える影響、2021年8月、筆頭	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
6	第59回日本癌治療学会、The relationship between the recurrence patterns and the survival outcomes in resected extrahepatic cholangiocarcinoma, 2021年10月、筆頭	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
7	第83回日本臨床外科学会、膵頭十二指腸切除における早期ドレーン除去後再ドレナージ危険因子の検討、2021年11月、筆頭	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
8	第59回 日本癌治療学会 ポスター4「大腸2 手術療法」、タイトル: 左側閉塞性結腸癌に対する術後合併症の危険因子、2021年10月21日(筆頭発表)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	全有美
9	「滋賀県病薬第42回学術大会」、「連携充実加算算定の実施状況の報告」、「2021年8月21日」(筆頭)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	道家雄太郎
10	「日本泌尿器科学会英文誌」、「Treatment with Cabozantinib in a metastatic renal cell carcinoma patient undergoing hemodialysis」Case report「現在執筆中」(筆頭)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	道家雄太郎
11	「薬学教育」テキストマイニング手法を用いた在宅医療における薬学的シミュレーション教育効果の解析「2021年5月」(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳

【大阪医科薬科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	該当なし		

【京都薬科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	学会等発表 第80回日本癌学会学術集会 UCHL5 overexpression confers resistance to BETi in MLL-r leukemia cells by suppressing degradation of BRD4 protein. 2021.9.30-10.2 (筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利 圭悟
2	学会等発表 (共著発表)「第80回日本癌学会学術総会」、「Acidic microenvironment increased the anti-tumor effect of $\gamma \delta$ T cell on A549 lung cancer cells」、「2021年9月30日～10月2日」	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	佐野 友亮
3	学会等発表 令和3年9月3日、令和3年度5大学連携医療フォーラム、浸潤・遊走を標的とするクマリン系化合物を基にしたがん転移抑制薬の創製、オンライン(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	杉山 雄輝
4	学会等発表 筆頭発表 第80回日本癌学会学術総会、A novel coumarin-based compound inhibits invasion and migration of osteosarcoma cells, 2021年10月1日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	杉山 雄輝
5	学会等発表 令和3年11月22日～12月6日、4大学連携研究フォーラム、骨肉腫細胞に対する浸潤・遊走抑制効果を有するクマリン系化合物の創製、オンライン(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	杉山 雄輝

6	学会等発表 第80回日本癌学会学術総会 JCI-20679 suppresses proliferation of glioblastoma stem cells via activation of AMPK and decrease of NFAT1 横浜, 2021.10.(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
7	学会等発表 第71回日本薬学会関西支部総会・大会, JCI-20679はAMPKを活性化しNFAT1の発現を減少させ膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する。—アセトゲニン誘導体化合物の作用機序の解明—大阪, 2021.10.(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
8	学会等発表 第71回日本薬学会関西支部大会 口頭発表(筆頭)「生体内におけるStat5bノックダウンはマウス膠芽腫モデルの生存を改善する。」2021.10.	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
9	学会等発表 第71回日本薬学会関西支部大会 口頭発表(共著)「JCI-20679はAMPKを活性化しNFAT1の発現を減少させ膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する。」2021.10.	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
10	学会等発表 第71回日本薬学会関西支部大会 ポスター発表(共著)「新規アセトゲニン誘導体NK-134のヒト肺がんA549に対する抗腫瘍効果。」2021.10.	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
11	学会等発表 第71回日本薬学会関西支部大会 ポスター発表(共著)「GGCT発現の人為的抑制が脳腫瘍幹細胞の遺伝子発現プロファイルに与える影響。」2021.10.	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
12	学会等発表 第80回日本癌学会学術総会 ポスター発表(筆頭)「Stat5bの阻害はマウスモデル由来膠芽腫幹細胞の腫瘍形成能を抑制する。」2021.10.	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
13	学会等発表 第80回日本癌学会学術総会 ポスター発表(共著)「JCI-20679はAMPKの活性化とNFAT1の減少を介して膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する。」2021.10.	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
14	学会等発表 第21回日本分子脳神経外科学会 口頭発表(共著)「マウス由来膠芽腫幹細胞におけるHedgehogシグナル転写因子Gli2抑制による抗腫瘍効果の検討。」2021.9.	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
15	学会等発表 Acidic microenvironment increased the anti-tumor effect of $\gamma\delta$ T cell on A549 lung cancer cells. 第80回日本癌学会学術総会 (2021)、共著発表	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	清水 大器

令和2年度 国内学会、雑誌等への発表一覧

【京都大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	学会等発表 第44回日本遺伝カウンセリング学会学術大会、がん遺伝子パネル検査での二次的所見疑い症例における生殖細胞系列の確認検査実施の促進要因と阻害要因についての検討、2020年7月(筆頭発表)	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
2	学会等発表 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会、Comprehensive genomic profiling for patients with chemotherapy-naïve advanced cancer、2021年2月(筆頭発表)	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
3	学会等発表 2020年9月11日 第39回 京都がん研究会 京都 高松 士朗、山ノ井 康二、山口 建、濱西 潤三、松村謙臣、万代 昌紀「変異スペクトラム解析による臓器横断的腫瘍免疫の解析」	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗
4	学会等発表 2020年10月24日 第2回 婦人科がんゲノム研究会 京都 高松 士朗、山ノ井 康二、山口 建、濱西 潤三、松村謙臣、万代 昌紀「変異スペクトラム解析に基づく臓器横断的腫瘍免疫の解析とその応用」	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗
5	学会等発表 第35回日本女性医学学会学術集会「婦人科がんヘルスケアにおけるモバイルアプリケーションの有用性—フィジビリティスタディ中間報告」2020年11月(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
6	学会等発表 「第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会」「未熟奇形腫治療後PETで異常集積があり、審査腹腔鏡にて確定診断を得たperitoneal gliomatosisの1例」2021/1/30(筆頭演者)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	小椋 淳平
7	学会等発表 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 鏡視下術後に判明した、微小な成人型顆粒膜細胞腫が成熟嚢胞性奇形腫と共存していた一例 2021年1月 筆頭発表	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	鈴木 悠
8	学会等発表 「第82回日本血液学会学術集会」、「CAR-T療法後の再発に対しInotuzumab Ozogamicinによる寛解導入後ハプロ移植を施行した小児ALLの一例」、「2020年10月」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
9	学会等発表 第123回日本小児科学会学術集会、最新型マスマイトメリーを用いた小児骨髄の免疫環境解析、2020年8月(共著)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
10	学会等発表 第79回日本癌学会学術総会、最新型マスマイトメリーを用いた小児白血病の骨髄免疫環境解析、2020年10月(筆頭)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
11	学会等発表 第33回高精度放射線外部照射学会学術大会 定位放射線治療後の臨床I期非小細胞肺癌高齢患者における予後因子としてのMarital status(2020/5/8-18、筆頭)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
12	学会等発表 第58回日本癌治療学会学術大会 Propensity score-weighted analysisを用いたI期NSCLC高齢患者における治療成績の検討(2020/10/22-28、筆頭)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
13	学会等発表 第61回日本肺癌学会学術集会 Propensity score-weighted analysisを用いたI期NSCLC高齢患者における治療成績の検討(2020/11/12-14、筆頭)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
14	学会等発表 日本泌尿器科学会第6回学術集会、高-超高リスク前立腺癌への強度変調放射線治療におけるIDC-Pの生化学的再発予測因子としての意義、2020年10月、筆頭発表	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	相澤 理人
15	学会等発表 第58回日本癌治療学会学術集会、Ten-year outcomes of whole pelvic intensity-modulated radiation therapy with simultaneous-integrated boost for locally advanced prostate cancer: A propensity-score matching analysis、2020年10月、筆頭発表	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	相澤 理人
16	学会等発表 (筆頭発表)「日本泌尿器腫瘍学会第6回学術大会」 「再発尿路上皮癌に対するPembrolizumab併用放射線治療でアブスコパル効果により多発肺転移が消失した一例」2020年10月24日	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
17	学会等発表 第34回高精度放射線治療部会学術集会「肺癌SBRTにおける局所制御の意義」2021/3/20(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
18	学会等発表 「2020/9/11第39回京都がん研究会 日本人乳癌患者における生殖細胞系列病的変異の保有予測(筆頭)」	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田 典子

19	学会等発表 第35回日本臨床代謝学会総会、経腸栄養チューブ留置による早期経腸栄養が食道切除術後の体組成に与える影響と今後の課題、2020年2月27日、筆頭	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
20	学会等発表 第57回日本外科代謝栄養学会総会、食道切除患者における、CTにて測定した骨格筋量の周術期変化、2020年12月24日、筆頭	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
21	学会等発表 第75回日本消化器外科学会総会、胃全摘術は術後早期に胃癌患者の骨格筋量を減少させる、2020年12月、筆頭	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
22	学会等発表 第120回日本外科学会定期学術集会、食道癌の術後栄養状態と長期予後予測における治療前の摂食変化についての問診の有用性、2020年8月14日、筆頭	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
23	学会等発表 「日本乳癌学会、ポスターセッション」「前胸壁に発生した副乳癌の1例」「2020年7月9日～11日」筆頭発表	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	福井 由紀子
24	学会等発表 日本外科学会「直腸癌に対する腹腔鏡下リアルタイム・ナビゲーション手術」、2020年8月、共同演者	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	愛須 佑樹
25	学会等発表 日本コンピュータ外科学会、「直腸癌手術に対する腹腔鏡下ナビゲーション手術のためのレジストレーション方法の検証」、2020年11月、共同演者	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	愛須 佑樹
26	学会等発表 日本大腸肛門病学会、「TaTMEを安全に導入・施行するための工夫 Ta/TpTMEに必要な男性の直腸肛門管解剖」、2020年9月、共同演者	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	愛須 佑樹
27	学会等発表 第3回がん理学療法部門研究会 小児がん経験者のQuality Of Lifeに関する患者-家族間での認識の差に関する研究 2020年12月5-6日 (筆頭)森野 達平、篠原 有紀、松岡 真里、足立 壮一、青山 朋樹	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	森野 達平
28	学会等発表 「第3回がん理学療法部門研究会・がん理学療法を次のステージへ」、「小児がん経験者のQuality Of Lifeに関する患者-家族間での認識の差に関する研究」、「2020年12月5日～12月6日」(筆頭:森野達平 / 共著:篠原有紀、田畑阿美、華井明子、松岡真里、足立壮一、青山朋樹)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
29	学会等発表 「第3回がん理学療法部門研究会 がん理学療法を次のステージへ」、「がんサバイバーのウェブ活用の実態と心理的問題への対処 -インターネット調査による横断研究-」、「2020年12月5日～12月6日」(筆頭:篠原有紀 / 共著:華井明子、森野達平、青山朋樹、坪山直生)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
30	学会等発表 「第70回日本薬学会関西支部大会」、「KURAMA コホートをを用いた関節リウマチ患者におけるインフリキシマブ血中濃度・抗薬物抗体測定の有効性評価」、「2020年10月10日」、(共著発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井 翔
31	学会等発表 「第36回日本DDS学会学術集会」、「ナノ構造化核酸の細胞取り込みにおけるマクロファージスカベンジャーレセプター1の関与」、「2020年8月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	梅村 圭祐
32	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第33回学術大会」、「肺定位放射線治療における線量計算アルゴリズム間のDosimetric特徴量の比較」、2020/10/1-3、第1著者	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立 孝則
33	学会等発表 「第119回 日本医学物理学会学術大会」、「Radiomic robustness assessment to respiratory motion on average intensity projection images」、「5月15日(金)～6月5日(金)」(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	長澤 良子
34	学会等発表 「第50回 京都放射線腫瘍研究会」、「人工知能に基づく腫瘍位置予測モデルの開発」、「令和3年3月27日」	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	周 徳軍
35	学会等発表 The 119th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics, "Development of neutron-shielding filter for reducing cardiac implantable electronic device.", 2020/04、(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野 諒
36	学会等発表 日本放射線腫瘍学会第33回学術大会, "3D-CNNに基づく肺SBRT後の遠隔転移予測に関する多施設共同研究.", 2020/11、(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野 諒
37	論文発表 Manabu Muto, Tomohiro Kondo, Junichi Matsubara, et al. Precision Medicine Provided by National Health Insurance. Cancer & Chemotherapy, 2020 (共著発表)近藤知大、武藤学、NTRK融合遺伝子検査、モダンメディア、2020	プレジジョンメディスンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
38	論文発表 日本周産期・新生児医学会雑誌、子宮内を着床部とした異所性妊娠に対するメントレキセート局所投与 当院の成績と文献レビュー、2020年12月(共著)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	河原 俊介

39	論文発表 産婦人科の進歩、前治療レジメン数の多いプラチナ製剤抵抗性再発卵巣癌症例に対するベバシズマブ併用単剤化学療法の治療経験、2020年8月(共著)	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	河原 俊介
40	論文発表 「日本臨床外科学会雑誌」「前胸壁に発生した副乳癌の1例」「2021年3月」筆頭発表	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	福井 由紀子
41	論文発表 胆と膵、「超偏極13C-MRIを用いた膵癌に対するLDH阻害治療効果の動的な可視化」、2020年8月、共著	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	愛須 佑樹

【三重大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	学会発表 麻薬注射剤返納システムの改修による麻薬管理の正確性及び効率性の向上 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2020 2020.11.21-22(共同演者)	ライフステージおよびゲノム情報 に応じた個別化医療を推進するがん専門 医薬剤師養成コース	岡本明大
2	学会発表 第28回日本乳癌学会学術総会 経験値の低い術者でも施行可能な下部領域乳癌に対する乳房部分切除術(筆頭演者)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	東千尋
3	学会発表 第8回オンコプラステックサージェリー学会 乳房温存術時に乳輪周囲の脱上皮のみでNACの偏位を防いだ1例(筆頭演者)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	東千尋
4	学会発表 日本乳癌学会中部地方会「乳房温存術後10年以上経過してオイルシストが皮膚に自壊した2例」 2020年9月12-13日(筆頭演者)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜
5	学会発表 日本臨床外科学会「高度肥満症に対する整容性を考慮した乳房切除術 Goldilocks mastectomy」 2020年10月29-31日(筆頭演者)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜
6	学会発表 第82回日本臨床外科学会総会「膵頭部神経内分泌腫瘍と術前診断した膵paragangliomaの1例」(筆頭演者)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
7	学会発表 日本乳癌学会中部地方会「乳房部分切除術時に対側乳頭乳輪偏位を修正した異時性両側乳癌の1例」 2020年9月12-13日(筆頭演者)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	金森春佳
8	学会発表 日本臨床外科学会「対側の乳房温存療法後に著名な乳房サイズ差を生じた異時性両側乳癌に対するmodified round block techniqueを用いたoncoplastic surgery」 2020年10月29-31日(筆頭演者)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	金森春佳
9	就労する女性がん患者のご瘡痍皮膚による外見の変化に対するセルフマネジメント、第34回日本がん看護学会学術集会(東京)、令和2年2月	地域包括ケアのもとでライフステージに 対応したがん医療を担う看護師養成コース	上田祥子
10	緩和ケア病棟看護師の感情労働とワーク・エンゲイジメントの特徴、第25回日本緩和医療学会学術集会、令和2年8月	地域包括ケアのもとでライフステージに 対応したがん医療を担う看護師養成コース	田中雄規
11	学会発表 肺部分照射による放射線肺臓炎・肺線維症モデルマウスの構築 第33回日本放射線腫瘍学会 2020年10月1日～3日	ライフステージに応じた放射線治療・集学的 診療を実践する人材養成コース	大森 千輝

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	磯野哲一郎、平大樹、中村吉伸、辻徳治、赤羽理也、河原真大、森田真也、安藤朗、寺田智祐：NUDT15 遺伝子多型検査測定法の構築法、第30回日本医療薬学会年会、2020年10月24日	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース	磯野哲一郎
2	第120回日本外科学会定期学術集会、切除可能膵癌における術後早期再発症例の検討、2020年8月、筆頭	ライフステージに応じたがん集学的治療と 全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
3	第75回日本消化器外科学会、Prognostic impact of pancreatic invasion in duodenal carcinoma、2020年12月、筆頭	ライフステージに応じたがん集学的治療と 全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
4	第32回日本肝胆膵外科学会、Surgical and survival outcomes in elderly for surgically resected periampullary cancer、2021年3月、筆頭	ライフステージに応じたがん集学的治療と 全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人

5	「第30回日本医療薬学会年会」、「シミュレーショントレーニングによる思考・問題解決能力への影響」、「2020年10月」	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
6	「第30回日本医療薬学会年会」、「電子カルテシステムと連動した病名禁忌処方チェックシステムの有用性評価」、「2020年10月」(筆頭)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴
7	「第30回日本医療薬学会年会」、「医薬品の取り違えと名称・薬効・外観類似性の関連性評価」、「2020年10月」(共著)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴
8	「医療薬学」、「電子カルテシステムと連動した病名禁忌処方チェックシステムの有用性評価」、「2020年9月」(筆頭)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴

【大阪医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	該当なし		

【京都薬科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	学会等発表 「第79回日本癌学会学術総会」、「急性骨髄性白血病に対する新規ペプチド型Wnt/ β -catenin阻害剤の効果」、「2020.10.1-3」(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	若林 亮介
2	学会等発表 第82回日本血液学会学術集会(Web開催) Cdk4/6i Abemaciclib overcomes resistance to BETi in leukemic cells with MLL-AF5q31 fusion gene. 2020.10.10-11.8. (筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利 圭悟
3	学会等発表 第79回日本癌学会学術総会、前立腺がん幹細胞に対する γ δ T細胞の抗腫瘍効果、2020.10 (共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金 眞光
4	学会等発表 第79回日本癌学会学術総会、 γ δ T細胞の体外増幅培養における予測可能なバイオマーカーの探索、2020.10 (筆頭)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金 眞光
5	学会等発表 第79回日本癌学会学術総会、低酸素環境に適応した多発性骨髄腫に対する γ δ T細胞の抗腫瘍効果、2020.10 (共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金 眞光
6	学会等発表 第29回泌尿器科分子・細胞研究会、前立腺がん幹細胞に対する γ δ T細胞の抗腫瘍効果検討、2020.8 (共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金 眞光
7	学会等発表 日本薬学会第141年会、Butyrophilin3A1の γ δ T細胞の増幅効率の予測マーカーとしての有用性、2021.3 (共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金 眞光
8	学会等発表 「日本薬学会」 「PHB2阻害剤であるfluorizolineは乳がん細胞MCF7の細胞増殖を抑制する」 「2021年3月」 (筆頭発表・ポスター・オンライン開催)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	高木 寛子
9	学会等発表 第82回日本血液学会学術集会、Novel BET/CBP/p300 multi-bromodomain inhibitors as a strategy for MLL-rearranged ALL、2020年10月 (筆頭発表/Web開催)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	今吉 菜月
10	学会等発表 第79回日本癌学会学術総会、(広島(Web Poster)) 「低酸素環境に適応した多発性骨髄腫に対する γ δ T細胞の抗腫瘍効果」、2020.10.1-3. (筆頭)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	佐野 友亮
11	学会等発表 第79回日本癌学会学術総会、(広島(Web Poster))、 「 γ δ T細胞の体外増幅培養における予測可能なバイオマーカーの探索」 2020.10.1-3. (共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	佐野 友亮
12	学会等発表 第79回日本癌学会学術総会、(広島(Web Poster))、 「前立腺がん幹細胞に対する γ δ T細胞の抗腫瘍効果」 2020.10.1-3 (共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	佐野 友亮

13	学会等発表 第79回日本薬学会学術総会、The acetogenin analog JCI-20679 suppresses proliferation of glioblastoma stem cells via decrease of NFAT1., 2020年10月（筆頭）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
14	学会等発表 第70回日本薬学会関西支部総会・大会、アセトゲニン誘導体JCI-20679はNFAT1の発現を減少させる事で膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する、2020年10月（筆頭）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
15	学会等発表 日本薬学会第141年会、アセトゲニン誘導体JCI-20679はAMPKの活性化とNFAT1発現低下を介して膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する、2021年3月（筆頭）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
16	学会等発表 第79回日本薬学会学術総会、ポスター発表（筆頭発表）：「Stat5b阻害はマウスモデル由来膠芽腫幹細胞の増殖を抑制し、アポトーシスを誘導する」、発表年月：2020年10月	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
17	学会等発表 第79回日本癌学会学術総会、ポスター発表（共著発表）：「アセトゲニン誘導体 JCI-20679 は NFAT1 の減少を介して膠芽腫 幹細胞の増殖を抑制する」、発表年月：2020年10月	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
18	学会等発表 第79回日本癌学会学術総会、ポスター発表（共著発表）：「井上絵莉子, 伊藤由佳子, 河瀬真治, 茂山千愛美, 中田晋, 柴田敏之, 中西速夫. 予後予測因子としての血中循環腫瘍細胞検出モデル: GFP-SUIT2 ヒト膀胱癌細胞同所移植 vs. 皮下移植モデルの比較」、発表年月：2020年10月	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
19	学会等発表 第70回日本薬学会関西支部総会・大会、口頭発表（筆頭発表）：「マウス膠芽腫モデルにおける Stat5b阻害による表現型及び生体内での抗腫瘍効果に関する研究」発表年月：2020年10月	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
20	学会等発表 第70回日本薬学会関西支部総会・大会、口頭発表（共著発表）：「アセトゲニン誘導体 JCI-20679 は NFAT1 の発現を減少させる事で膠芽腫幹細胞 の増殖を抑制する」発表年月：2020年10月	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
21	学会等発表 第58回日本癌治療学会学術集会、口頭発表（共著発表）：「MCF7乳がん細胞担がんマウスにおける新規GGCT阻害剤の抗腫瘍効果」発表年月：2020年10月	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
22	学会等発表 日本薬学会第141年会、口頭発表（筆頭発表）：「マウス膠芽腫モデルにおける生体内での STAT5b阻害による抗腫瘍効果」発表年月：2021年3月	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
23	学会等発表 日本薬学会第141年会、ポスター発表（共著発表）：「アセトゲニン誘導体JCI-20679はAMPKの活性化とNFAT1発現低下を介して膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する」発表年月：2021年3月	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
24	学会等発表 「第79回日本癌学会学術総会」、「骨髄系細胞が動員された前転移ニッチにおける乳酸アンドロシス」、「2020年10月1日-3日(Web Poster)」(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	松井 透磨

資料 12

令和3年度 海外学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	ASCO Annual Meeting 2021, USA, 4-8 June 2021	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
2	ESMO CONGRESS 2021, Paris, France, 16-21 September 2021	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
3	2021年4月10日～15日、AACR annual meeting 2021参加、オンライン形式	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
4	2021年10月25日～28日 ASTRO annual meeting 2021	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	佐藤 玄基
5	世界肺癌学会、2021.9.8-14 オンライン開催	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
6	ASTRO Annual Meeting 2021.10.24-27 シカゴ(オンライン参加)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
7	2021年9月27日 - 2021年10月1日 19th International Congress on Neutron Capture Therapy	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	武野 慧
8	2021年12月1-2日(予定)、4th Global Adolescent and Young Adult Cancer Congress、イギリス(オンライン)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
9	2021年7月25-29日、AAPM 63rd Annual meeting参加、米国(完全web開催)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	鶴田 裕輔
10	21/7/25-29, 63rd Annual Meeting of the American Association of Physicists in Medicine, virtual participate	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	Dejun Zhou

【三重大大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	14th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference. Nov 13-14, 2021	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本明大

【滋賀医科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	該当なし		

【大阪医科薬科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	該当なし		

【京都薬科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	該当なし		

令和2年度 海外学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	2020/11/16～2020/11/19 Global Academic Programs 2020 参加 Web	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	小椋 淳平
2	2020年10月25日～10月28日、62回米国放射線腫瘍学会参加、マイアミ(バーチャル参加)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
3	2021年1月28日～31日 WCLC 2020 Singapore	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
4	2020年11月28日～12月1日 ESTRO2020, Online	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	相澤 理人
5	2021年2月11～13日 Genitourinary Cancers Symposium, Online	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	相澤 理人
6	ASTRO(2020年10月24日～28日)web	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	鳥塚 大地
7	2021年2月11日～2月3日、ASCO-GU(オンライン参加)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
8	2020年11月16日～19日、Global Academic Programs 2020 参加、Web開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物 療法および支持療法を推進するがん専門 薬剤師養成コース	梅村 圭祐
9	2020/11/16～2020/11/19 GAP 2020 Online 参加、オンライン開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物 療法および支持療法を推進するがん専門 薬剤師養成コース	増井 翔
10	2021年2月22日～24日、11th Annual Texas Adolescent and Young Adult Oncology Conference学会参加、アメリカテキサス州(オンライン)	ライフステージに応じた最先端放射線治 療の実現を担う医学物理士養成コース	篠原 有紀
11	2020年5月29日～31日、American Society of Clinical Oncology Annual Meeting参加、米国、シ カゴ	ライフステージに応じた最先端放射線治 療の実現を担う医学物理士養成コース	足立 孝則
12	2020/6/12～2020/6/16 2020 Joint AAPM COMP Virtual Meeting;	ライフステージに応じた最先端放射線治 療の実現を担う医学物理士養成コース	周 徳軍
13	2020/11/16～2020/11/19 Global Academic Program (GAP) 2020 Online Conference	ライフステージに応じた最先端放射線治 療の実現を担う医学物理士養成コース	周 徳軍

【三重大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	該当なし		

【滋賀医科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	2020年11月16日～19日、Global Academic Program 2020参加、オンライン	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース	國津侑貴

【大阪医科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	ESMO GI conference 2020/7/1-7/4	ライフステージに応じた 化学療法専門医養成コース	児玉 紘幸
2	ESMO GI conference 2020/7/1-7/4	ライフステージに応じた 化学療法専門医養成コース	石塚 保亘

【京都薬科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	令和2年4月24日～29日 American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2020オンラインにより学会参加 アメリカ、サンディエゴ	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利 圭悟
2	令和2年11月16日～18日 Global Academic Programs 2020 オンラインにより学会参加 オーストラリア、メルボルン	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利 圭悟
3	令和3年1月18日～2月17日 第4回国際がん研究シンポジウム オンラインにより参加 日本、大阪	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利 圭悟
4	2021年1月18日～2021年2月17日、第4回国際がんシンポジウム参加、日本/大阪府 (Web開催)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	今吉 菜月
5	2021年1月25～1月27日(1st week)2021年2月1日～2月3日(2nd week)、第4回国際がん研究シンポジウム、日本 大阪 (オンライン)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
6	2021年1月25日～27日、The 4th International Cancer Research Symposium—a Training for Oncology Professionals、オンライン	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美

資料 13

令和3年度 国内学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	がん治療学会2021/10/21-23	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
2	癌学会2021/9/30-10/2	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
3	日本産科婦人科学会 2021年4月22日-25日 Web	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	鈴木 悠
4	2021年4月22日-2021年4月25日、第73回日本産科婦人科学会学術講演会、web参加、私費	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
5	2021年9月30日-2021年10月2日、第80回日本癌学会学術総会、web参加、私費	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
6	2021年4月11日-14日、第73回日本産科婦人科学会学術講演会参加、新潟県新潟市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
7	2021年7月16日-18日、The 63rd Annual meeting of the Japan Society of Gynecologic Oncology参加、オンライン形式	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
8	2021年4月22日-25日、The 73rd Congress of Japan Society of obstetrics and Gynecology参加、新潟県新潟市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
9	2021年9月30日-10月3日、第80回 日本癌学会学術総会参加、神奈川県横浜市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
10	2021年7月16日-7月18日、第63回 日本婦人科腫瘍学会学術講演会参加、大阪府大阪市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
11	2021年11月6日-11月7日、第36回 日本女性医学学会学術集会参加、大阪府大阪市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
12	2021年4月22日-2021年4月25日 第73回日本産科婦人科学会学術講演会(私費)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	稲山 嘉英
13	2021年9月30日-10月2日、日本癌学会学術集会、神奈川県横浜市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
14	2021年10月28日-30日 第49回日本臨床免疫学会総会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	佐藤 玄基
15	2021年9月30日-10月2日 第80回日本癌学会学術総会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	佐藤 玄基
16	2021年11月12日-14日 日本放射線腫瘍学会第34回学術大会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	佐藤 玄基
17	日本癌治療学会(2021/10/21-23)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
18	日本泌尿器腫瘍学会(2021/10/23-24)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
19	日本医学放射線学会秋季臨床大会(2021/09/17-19)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
20	日本放射線腫瘍学会(2021/11/12-14)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
21	前立腺癌シンポジウム(2021/10/16-17)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
22	日本放射線腫瘍学会 第34回学術大会 2021年11月12日-14日 オンライン開催	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
23	第 51 回京都放射線腫瘍研究会 2021 年 10 月 30 日 オンライン開催	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
24	2021年11月12-2021年11月14日 日本放射線腫瘍学会第34回学術大会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	米山 正洋
25	2021/7/10-11 第17回日本中性子捕捉療法学会学術大会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	武野 慧

26	2021/11/12-14 日本放射線腫瘍学会第34回学術大会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	武野 慧
27	2021年11月12日-14日 日本放射線腫瘍学会 オンライン参加	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小川 彩加
28	2021年4月8日～2021年4月10日、第121回日本外科学会総会、一般演題ポスター発表、千葉県千葉市(がんプロ経費)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	牧野 健太
29	2021年7月22日～2021年7月23日、第57回日本肝臓学会、一般演題口演発表、鹿児島県鹿児島市(がんプロ経費)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	牧野 健太
30	2021年10月7日～2021年10月8日、第57回日本胆道学会学術集会、一般演題口演発表、東京都港区(がんプロ経費)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	牧野 健太
31	2021年12月9日～2021年12月10日、第44回肝臓学会西部会、一般演題口演発表、岡山県岡山市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	牧野 健太
32	第121回日本外科学会定期学術集会/2021年4月8日～2021年4月10日/Web	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	栗本 信
33	第33回日本肝胆膵外科学会学術集会/2021年6月2日-3日/Web	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	栗本 信
34	第76回日本消化器外科学会総会/2021年7月7日-9日/Web	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	栗本 信
35	2021年11月1-4日 JDDW 神戸市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	木村 有佑
36	2021年7月1日～3日 日本乳癌学会学術総会 オンライン	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	中川 梨恵
37	2021年7月10日がんプロ合同シンポジウム参加	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	杉原 雄大
38	2021年9月10日、11日日本作業療法学会参加	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	杉原 雄大
39	2021年11月12～13日、第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術会、愛知県名古屋市	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
40	2021年9月3日 令和3年度 5大学連携医療フォーラム参加、オンライン	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田 圭子
41	2021年5月13日～15日、日本薬剤学会第36年会、オンライン	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	梅村 圭祐
42	2021年8月28日、第82回医療薬学公開シンポジウム、オンライン	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	梅村 圭祐
43	2021年9月4日～5日、第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム、オンライン	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	梅村 圭祐
44	2021年10月9日～10日、第31回日本医療薬学会年会、オンライン	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	梅村 圭祐
45	2021年7月24日～2021年7月25日、医療薬学フォーラム 第29回クリニカルファーマシーシンポジウム参加、オンライン	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田 慧子
46	2021年10月30日～2021年10月31日、日本臨床疫学会 第4回年次学術大会参加、オンライン	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田 慧子
47	2021年11月26日～2021年11月28日、第26回日本薬剤疫学学術総会参加、オンライン	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田 慧子
48	2021年5月29日～2021年5月30日、第37回日本TDM学会学術大会、Web開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	圓東 寛基
49	2021年10月9日～2021年10月10日、第31回日本医療薬学会、Web開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	圓東 寛基
50	2022年1月29日～2022年1月30日、第43回日本病院薬剤師近畿学術大会、Web開催、参加予定	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	圓東 寛基
51	2021年9月4日～2021年9月5日、第40回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム参加、オンライン開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井 翔

52	2021年4月15日-18日, 日本医学物理学会学術大会参加, 神奈川県横浜市(ハイブリッド開催)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	鶴田 裕輔
53	2021年10月15日-17日, 第49回日本放射線技術学会秋季学術大会参加, 熊本県熊本市	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	鶴田 裕輔
54	2021年11月12日-14日, 第34回日本放射線腫瘍学会学術大会参加, Web開催	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	鶴田 裕輔
55	21/4/15-18, The 121 Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics, virtual participate	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	Dejun Zhou

【三重大大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	第31回日本医療薬学会年会、WEB 2021.10.09-10、2021.10.15-11.30	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	白石 ちひろ
2	第31回日本医療薬学会年会、WEB 2021.10.09-10、2021.10.15-11.30	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本 明大
3	第14回日本緩和医療薬学会年会、WEB 2021.5.13-16、2021.5.13-24	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本 明大
4	第26回日本緩和医療学会学術大会、WEB 2021.6.18-19、2021.6.18-7.31	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本 明大
5	日本緩和医療学会第3回関西支部学術大会、WEB 2021.11.21、2021.11.21-12.28	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本 明大
6	第63回婦人科腫瘍学会学術講演会、2021年7月16日～18日、Web開催	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	小高紗季
7	第73回日本産科婦人科学会学術講演会、2021年4月22日～25日、Web開催	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	小高紗季
8	第61回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、2021年9月11日～13日、Web開催	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	小高紗季
9	第9回日本婦人科ロボット手術学会 ワークショップ	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	吉田健太
10	第61回日本産科婦人科内視鏡学会 シンポジウム	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	吉田健太
11	第73回日本産科婦人科学会	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	二村涼
12	第59回日本癌治療学会	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	二村涼
13	第29回日本乳癌学会学術総会、横浜 2021.7.1-1	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	吉川 美侑子
14	第18回日本乳癌学会中部地方会、静岡 2021.9.4-5	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	吉川 美侑子
15	第29回日本乳癌学会学術総会2021/07/01-07/03 横浜	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東千尋
16	第18回日本乳癌学会中部地方会 2021/09/04-09/05 静岡	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東千尋
17	第29回日本乳癌学会、WEB 2021.7.1-3	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜
18	第300回東海外科学会、WEB 2021.11.3	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜
19	第31回日本乳癌検診学会学術総会 WEB 2021.11.26-27	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜

20	第47回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会 2021.10.9～10	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
21	第121回日本外科学会定期学術集会 2021.4.8～10	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
22	第29回日本乳癌学会学術総会 2021.7.1～3	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
23	第9回 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 2021.9.16～17	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
24	第18回 日本乳癌学会中部地方会 2021.9.4～5	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
25	第12回 関東産婦人科乳腺医学会 2021.8.29	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
26	第22回 乳癌最新情報カンファランス 2021.8.27～28	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
27	第18回日本乳癌学会中部地方会 2021/9/4-9/5	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	小島 玲那
28	第83回日本臨床外科学会総会 2021/11/18-11-20	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	小島 玲那
29	第18回日本乳癌学会中部地方会 2021/9/4-9/5	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	畑川恵里奈
30	第83回日本臨床外科学会総会 2021/11/18-11-20	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	畑川恵里奈
31	第121回日本外科学会定期学術集会、千葉(Web配信)、2021.4.8～10	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山口亜友
32	第18回日本乳癌学会中部地方会、静岡(Web配信)、2021.9.4～5	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山口亜友
33	日本放射線腫瘍学会第34回学術大会、仙台(オンライン) 2020.11.12-14	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	大森 千輝
34	日本放射線腫瘍学会第34回学術大会、仙台(オンライン) 2020.11.12-14	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	谷口 彰人

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	2021年5月29日(土)～30日(日) 第37回日本TDM学会・学術大会参加	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
2	2021年10月30日 第58回日本糖尿病学会近畿地方会参加	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
3	第48回日本膀胱研究会 on line 2021/8/27-28	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
4	第59回日本癌治療学会 on line 2021/10/21-23	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
5	第83回日本臨床外科学会 on line 2021/11/18-20	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人

6	第29回日本消化器関連学会週間 on line 2021/11/4-11/7	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
7	第76回日本消化器外科学会総会(2021年7月7日～9日)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	全有美
8	第59回 日本癌治療学会(2021年10月21日～23日)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	全有美
9	第76回日本大腸肛門病学会学術集会(2021年11月12日～13日)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	全有美
10	2021年9月26日、第五回臨床薬理学集中講座	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	道家雄太郎
11	2021年10月9日～2021年10月10日、日本医療薬学会年会第31回、WEB開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	道家雄太郎
12	2021年11月1日～2021年12月28日、令和3年度がん専門薬剤師集中教育講座、WEB開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	道家雄太郎
13	2021年5月7日～5月9日、第69回日本化学療法学会総会、web開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
14	2021年5月29日～5月30日、第37回日本TDM学会・学術大会、web開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
15	2021年6月10日～6月12日、第24回日本臨床救急医学会総会・学術集会参加、web開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
16	2021年7月21日～7月22日、第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会、web開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
17	2021年10月9日～10月10日、第31回日本医療薬学会年会、web開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
18	2021年10月9日～10日、第30回日本医療薬学会年会参加、オンライン	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴
19	2021年11月6日～7日、第15回日本腎臓病薬物療法学会学術集会参加、オンライン	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴

【大阪医科薬科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2021/7/16-7/18	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田信一
2	第73回日本産科婦人科学会学術講演会 2021/4/22-4/25	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田信一
3	第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 2021/7/10	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	池上 貴子
4	第23回日本高齢消化器病学会総会 2021//30-7/31	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	池上 貴子
5	第23回日本高齢消化器病学会総会 2021//30-7/31	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	児玉 紘幸
6	第76回日本大腸肛門病学会学術集会 2021/11/12-11/13	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	児玉 紘幸

7	第23回日本高齢消化器病学会総会 2021//30-7/31	ライフステージに応じた 化学療法専門医養成コース	山崎 瑛貴
8	日本消化器病学会近畿支部第115回例会 2021/9/18	ライフステージに応じた 化学療法専門医養成コース	山崎 瑛貴

【京都薬科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	令和3年9月30日～10月2日 第80回日本癌学会学術集会 神奈川県、横浜市	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	甘利 圭悟
2	2021年9月30日～10月2日、第80回日本癌学会学術総会、神奈川県横浜市	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	友金 眞光
3	令和3年9月23日～25日、第83回日本血液学会学術集会参加(Web開催)	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	今吉 菜月
4	令和3年10月9日～10日、第31回日本医療薬学会年会参加(Web開催)	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	今吉 菜月
5	2021年9月30日～10月2日 第80回日本癌学会学術総会 オンライン参加	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	佐野 友亮
6	2021年9月30日～10月2日、第80回日本癌学会学術総会参加、神奈川県横浜市	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	杉山 雄輝
7	令和3年11月22日～12月6日、4大学連携研究フォーラム参加、オンライン	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	杉山 雄輝
8	第80回日本癌学会学術総会、横浜、2021年9月30日～10月2日	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	安藤 翔太
9	第71回日本薬学会関西支部総会・大会、大阪、2021年10月9日	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	安藤 翔太
10	2021年9月30日～2021年10月2日、第80回日本癌学会学術総会、オンライン	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	茂山 千愛美
11	2021年10月9日、第71回日本薬学会関西支部総会・大会、オンライン	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	茂山 千愛美
12	3年9月30日～3年10月2日 第80回日本癌学会学術総会 参加・オンデマンド視聴 神奈川県横浜市	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献するがん専門 薬剤師養成コース	松井 透磨

令和2年度 国内学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	2020年4月23日～4月28日 第72回日本産婦人科学会学術講演会参加、Web	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
2	2021年1月29日～2月11日 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会参加、Web	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
3	2020年10月1日～10月3日 第79回日本癌学会学術講演会参加、Web	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
4	2020年4月11日～4月14日、第72回日本産科婦人科学会学術講演会参加、愛知県名古屋市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
5	2020年10月1日～10月3日、第79回日本癌学会学術総会参加、広島県広島市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
6	2020年10月7日～10月9日、第24回日本がん免疫学会総会参加、北海道札幌市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
7	2021年1月29日～1月30日、第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会参加、宮城県仙台市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
8	2021年1月29日～30日、第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会参加	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	河原 俊介
9	2020年10月1日～3日、第78回日本癌学会学術総会、web参加	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	河原 俊介
10	第79回日本癌学会学術総会 2020年10月1日～3日 Web参加	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	鈴木 悠
11	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2020年12月14日～28日 Web参加	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	鈴木 悠
12	第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2021年1月29日～2月11日 Web参加	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	鈴木 悠
13	2020/4/23～2020/4/28 第72回日本産科婦人科学会 参加 Web	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	小椋 淳平
14	2020/10/1～2020/10/3 第79回日本癌学会学術総会 参加 Web	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	小椋 淳平
15	2021/1/29～1/30 第62回婦人科腫瘍学会 参加 Web	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	小椋 淳平
16	2021年1月29日～2月11日 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会参加(Web、私費)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
17	2020年10月22日～24日第58回癌治療学会学術集会(Web私費)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
18	2020年10月1日～3日 第79回日本癌学会学術集会(Web、私費)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
19	2020年4月23日～28日 第72回日本産科婦人科学会学術集会(Web、私費)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	東山 希実
20	2020年10月1日～3日、第79回日本癌学会学術総会、広島市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
21	2020年10月10日～11月8日、第82回日本血液学会学術集会、WEB開催	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥 達哉
22	2020年8月 第123回日本小児科学会学術集会 兵庫県神戸市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
23	2020年10月 第79回日本癌学会学術総会 広島県広島市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
24	2020年10月1日～10月3日、第79回日本癌学会学術総会 参加(オンライン)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
25	2020年10月10日～10月11日 第82回日本血液学会学術集会参加(オンライン)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部 清孝
26	2020/5/8-5/18 第33回高精度放射線外部照射学会学術大会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子

27	2020年10月1日～10月3日 日本放射線腫瘍学会第33回学術大会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
28	2020年10月22-24日 第58回日本癌治療学会学術大会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
29	2020/11/12-11/14 第61回日本肺癌学会学術集会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
30	2021/2/18-21 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
31	日本放射線腫瘍学会(2020年10月01日～03日) web	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	鳥塚 大地
32	2020年10月22-24日 第58回日本癌治療学会学術集会, 京都	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	相澤 理人
33	2020年10月24-25日 日本泌尿器科学会第6回学術集会, 京都	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	相澤 理人
34	2020年10月1日～10月3日、日本放射線腫瘍学会第33回学術大会、オンライン開催	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
35	2020年10月24日～10月25日、日本泌尿器腫瘍学会第6回学術大会、京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
36	2020年10月28日～11月26日、第56回日本医学放射線学会秋季臨床大会、オンライン開催	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	緒方 隆司
37	2020年5月15日～6月14日、日本放射線学会第79回日本医学放射線学会総会、Web開催	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	稲生 浩之
38	2020年10月1日～10月3日、日本放射線腫瘍学会第33回学術大会、Web開催	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	稲生 浩之
39	2021年3月20日～3月21日、日本放射線腫瘍学会第34回高精度放射線外部照射部会学術大会、Web開催	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	稲生 浩之
40	2020年10月1日～10月3日、日本放射線腫瘍学会、オンライン参加	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
41	2021年3月20日～3月21日、34回高精度放射線外部照射部会学術大会、オンライン参加	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
42	第28回日本乳癌学会学術総会, 2020/10/9-31, 愛知県名古屋市(WEB)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田 典子
43	第18回日本臨床腫瘍学会学術集会2021/2/18-21, 大阪府大阪市(WEB)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田 典子
44	日本人類遺伝学会第65回大会, 2020/11/18-12/2, 愛知県名古屋市(WEB)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田 典子
45	第44回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2020/7/3-5, 沖縄県沖縄市(WEB)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田 典子
46	第35回日本臨床代謝学会総会、2020年2月27日	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
47	第57回日本外科代謝栄養学会総会、2020年12月24日	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
48	第75回日本消化器外科学会総会、2020年12月15日	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
49	第120回日本外科学会定期学術集会、2020年8月14日	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田 真也
50	2021/1/23 Kyoto Breast Cancer Consensus Conference 2021 International Convention	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	WANG JIAO
51	2020年12月5日～6日、第3回がん理学療法部門研究会参加、兵庫県神戸市(オンライン)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
52	2020年9月18日、【高度がん医療を先導するがん医療人材養成】5大学連携医療フォーラム参加、オンライン	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀
53	2020年9月18日、【高度がん医療を先導するがん医療人材養成】近畿地区3拠点合同フォーラム参加、オンライン	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	篠原 有紀

54	2020年11月14日、第138回 日本薬理学会近畿部会 参加、オンライン開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳 円花
55	2020年10月11日、日本臨床疫学会・オンライン学術セミナー 参加、web開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田 慧子
56	2020年10月24日～11月1日、日本医療薬学会・第30回日本医療薬学会年会 参加、web開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田 慧子
57	2020年10月11日、日本臨床疫学会・オンライン学術セミナー 参加、web開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井 翔
58	2020年10月24日～11月1日、日本医療薬学会・第30回日本医療薬学会年会 参加、web開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井 翔
59	2020年10月24日～11月1日、日本医療薬学会・第30回日本医療薬学会年会 参加、web開催	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	梅村 圭祐
60	2020年2月12日～3月25日、第48回日本集中治療医学会学術集会 参加、オンライン	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	鈴木 帆奈
61	第119回日本医学物理学会学術大会 2020年5月15日～6月14日	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	周 徳軍

【三重大大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	第37回日本TDM学会学術大会、WEB 2020.5.23-24	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	白石 ちひろ
2	第30回日本医療薬学会年会、WEB 2020.10.24-11.01	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	岡本 明大
3	第49回日本慢性疼痛学会、東京 2020.12.11-12	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	岡本 明大
4	第25回日本緩和医療学会学術大会、WEB 2020.8.9-10	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	岡本 明大
5	第28回日本乳癌学会学術総会 2020/10/09-10/31 愛知	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東千尋
6	第8回オンコプラスチックサージェリー学会 2021/10/02-10/03 岡山	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東千尋
7	第120回 日本外科学会定期学術集会 2020.8.13～15	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
8	第82回 日本臨床外科学会総会 2020.10.29～11.30	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
9	第28回 日本乳癌学会学術総会 2020.10.9～ 31	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	中村佳帆
10	第17回日本乳癌学会中部地方会、WEB 2020, 9.12-13	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜
11	第82回日本臨床外科学会総会、WEB 2020,10.29-31	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜
12	第120回日本外科学会定期学術総会 2020,8.13-15	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	山門玲菜
13	第17回日本乳癌学会中部地方会、WEB 2020, 9.12-13	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	金森春佳

14	第82回日本臨床外科学会総会、WEB 2020.10.29-31	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	金森春佳
15	日本放射線腫瘍学会第33回学術大会、札幌(オンライン) 2020.10.1-3	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	間瀬 貴充
16	日本放射線腫瘍学会第33回学術大会、札幌(オンライン) 2020.10.1-3	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	大森 千輝
17	日本放射線腫瘍学会第33回学術大会、札幌(オンライン) 2020.10.1-3	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	谷口 彰人

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	2020年 10月17日(土)-31日(土)第57回日本糖尿病学会近畿地方会	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
2	2020年12月14日(月)～28日(月)第14回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2020参加	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野哲一郎
3	第120回日本外科学会定期学術集会 on line 2020/8/13-8/15	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
4	第75回日本消化器外科学会 on line 2020/12/15-12/17	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
5	第32回日本肝胆膵外科学会 on line 2021/3/8-3/31	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
6	第33回日本内視鏡外科学会 on line 2021/3/10-3/13	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	新田信人
7	2020年8月27日～8月28日、第23回日本臨床救急医学会総会・学術集会参加、web開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
8	2020年9月12日～9月14日、第66回日本化学療法学会総会、web開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
9	2020年10月24日～11月1日、第30回日本医療薬学会年会、web開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
10	2021年2月15日～2月16日、第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会、web開催	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	福井里佳
11	2020年6月5日～6日、第24回日本医療情報学会春季学術大会参加、オンライン	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴
12	2020年9月12日～13日、第5回日本薬学教育学会大会参加、オンライン	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴
13	2020年10月24日～25日、第29回日本医療薬学会年会参加、オンライン	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴
14	2020年12月14日～28日、第14回日本腎臓病薬物療法学会学術集会参加、オンライン	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴
15	2021年3月26日～29日、第141回日本薬学会年会参加、オンライン	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	國津侑貴

【大阪医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	第104回 日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 2020/6/27	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	山崎 瑛貴
2	第99回日本消化器内視鏡学会総会 2020/9/2-9/3	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	山崎 瑛貴
3	日本消化器病学会近畿支部第114回例会 2021/2/27	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	山崎 瑛貴
4	第17回日本消化管学会総会学術集会 2021/2/19-2/21	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	山崎 瑛貴
5	第99回日本消化器内視鏡学会総会 2020/9/2-9/3	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	池上 貴子
6	第17回日本消化管学会総会学術集会 2021/2/19-2/21	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	池上 貴子
7	日本消化器病学会近畿支部第113回例会(シンポジウム) 2020/10/3	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	児玉 紘幸
8	第17回日本消化管学会総会学術集会 2021/2/19-2/21	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	児玉 紘幸
9	第93回日本胃癌学会総会 2021/3/3/-3/5	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	児玉 紘幸
10	第17回日本消化管学会総会学術集会 2021/2/19-2/21	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	石塚 保亘
11	第93回日本胃癌学会総会 2021/3/3/-3/5	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	石塚 保亘
12	第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2021/1/29-2/11	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田 信一

【京都薬科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	令和2年9月30日～10月2日 第82回日本血液学会学術集会 オンラインにより学会参加 京都府、京都市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利 圭悟
2	2020年10月24日～2020年11月1日、第30回日本医療薬学会年会参加、愛知県名古屋市(Web開催)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	今吉 菜月
3	2021年3月1日～2021年3月30日、大阪大学がんプロ薬学系3大学(大阪大学・大阪薬科大学・神戸薬科大学)主催 第2回連携共同シンポジウム参加、Web開催	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	今吉 菜月
4	2020年10月1日～10月3日、第79回日本癌学会学術総会、広島県 広島市(オンライン)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
5	2020年10月10日、第70回日本薬学会関西支部大会、滋賀県 草津市(オンライン)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
6	2021年3月26日～3月29日、日本薬学会第141年会、広島県 (オンライン)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
7	2020年10月1日～2020年10月3日、第79回日本癌学会学術総会、オンライン	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
8	2020年10月10日、第70回日本薬学会関西支部総会・大会、オンライン	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
9	2021年3月26日～2021年3月29日、日本薬学会第141年会、オンライン	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
10	第79回日本癌学会学術総会、(広島(Web)), 2020.10.1-3.	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	松井 透磨

令和 2 年度「5大学連携海外合同教育セミナー」

- 実施日：2020年11月16日～19日
- 開催場所：GAP2020「New Frontiers-Leading Inspired Cancer Care」
MD Anderson Cancer Center、Peter MacCallum Cancer Center
※今年度は、COVID-19の感染拡大防止の観点より、バーチャルカンファレンスとして開催され、がんプロ履修生が発表、及び参加しました。
- 目的
国際交流・人材交流プログラムの一つとして実施し、
がんプロ履修生自身が海外でのがん研究における最先端医療研究機関等での研究者を前にして研究成果を発表し、その研究の方向性への指導を受け、意見交換する機会を提供します。



- 過去実績
平成29年度：2018年3月12～13日「米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター」
平成30年度：2018年5月13～19日「GAP cnference2018」
（ストックホルム カロリンスカ研究所）
令和元年度：2019年6月22～24日「WIN Symposium2019」
（パリ ワールドワイド・イノベティブ・ネットワーク（WIN）コースシウム）

●発表参加者一覧
【ポスター発表者 5名】

大学名	氏名	研究科名・学年・コース名・発表演題
京都大学	近藤 知大	医学研究科 D2 プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース Clinical utility of comprehensive genomic profiling for chemotherapy-naïve gastrointestinal malignancies.
京都大学	相澤 理人	医学研究科 D4 希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース Predictive factors for prostate cancer after high-dose IMRT
京都大学	足立 孝則	医学研究科 D2 ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース Prediction of radiation pneumonitis after lung SBRT using dosimetrics features
大阪医科大学	宮本 瞬輔	医学研究科 D3 婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース A Patient-Derived Orthotopic Xenograft model of Cervical Cancer
京都薬科大学	甘利 圭悟	医学研究科 D3 ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース MLL-AF5q31 cells acquire BET inhibitor resistance by Brd4-regulated molecules upregulation

【参加者 23名】

大学名	氏名	研究科名・学年・コース名
京都大学	高松 士朗	医学研究科 D3 婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
京都大学	河原 俊介	医学研究科 D2 婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
京都大学	鈴木 悠	医学研究科 D1 婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
京都大学	植木 一仁	医学研究科 D3 希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
京都大学	武野 慧	医学研究科 D3 希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
京都大学	岸 徳子	医学研究科 D3 希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
京都大学	平岡 信也	医学研究科 D1 希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
京都大学	仙田 典子	医学研究科 D4 ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
京都大学	吉田 真也	医学研究科 D3 ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成

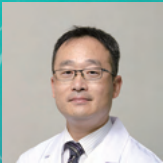
大学名	氏名	研究科名・学年・コース名
京都大学	馬場 千夏	医学研究科 D4 がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成
京都大学	原田 圭子	医学研究科 D3 がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成
京都大学	杉原 雄大	医学研究科 D1 がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成
京都大学	小柳 円花	医学研究科 D4 ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
京都大学	増井 翔	医学研究科 D2 ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
京都大学	幾田 慧子	医学研究科 D2 ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
京都大学	梅村 圭祐	医学研究科 D1 ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース

大学名	氏名	研究科名・学年・コース名
京都大学	安保 慎太郎	医学研究科 M2 ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
京都大学	木戸 貴久	医学研究科 M1 ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
滋賀医科大学	森 治樹	医学研究科 D3 ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース
滋賀医科大学	磯野 哲一郎	医学研究科 D2 がん専門医療人養成コース ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース
滋賀医科大学	秦 宇伯	医学研究科 D1 がん専門医療人養成コース ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース
滋賀医科大学	福井 里佳	医学研究科 D1 がん専門医療人養成コース ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース
滋賀医科大学	國津 侑貴	医学研究科 D1 がん専門医療人養成コース ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース



令和3年度 5大学連携学生短期研修プログラム 開催報告





総合司会 化学療法センター長
特務教授 後藤 昌弘

開催日 令和3年9月29日(水)

プログラム 第1部 9:50~14:00
第2部 14:30~15:30

主催 大阪医科薬科大学

「学生短期研修プログラム」は、連携大学間での取り組み事業として、5大学からがんプロ履修生を選抜し、連携する学生同士でガンプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図ることを目的として開催しました。

第1部 WEB講義

研修参加者 31名

講義① 放射線治療(希少がん)
 司会 放射線腫瘍学 教授 二瓶 圭二
 講師 放射線腫瘍学 教授 二瓶 圭二

講義② がんゲノム医療人養成
 司会 一般・消化器外科学 教授 内山 和久
 講師 TR部門 講師 谷口 高平

講義③ ライフステージに応じたがん対策(サルコペニア悪液質)
 司会 化学療法センター長 特務教授 後藤 昌弘
 講師 先端医療開発学 特務准教授 西川 浩樹

第2部 ワークショップ

研修参加者 14名

ワークショップ① 放射線治療
 担当 放射線腫瘍学 教授 二瓶 圭二
 ファシリテーター 放射線腫瘍学 教授 二瓶 圭二

ワークショップ② ゲノム医療の導入を経験して、染色体異常を考える
 担当 遺伝カウンセリング室 講師 鮫島 希代子(臨床遺伝専門医)
 ファシリテーター がんゲノム医療管理室 認定遺伝カウンセラー 森田 環香

ワークショップ③ サルコペニア 悪液質関連
 担当 先端医療開発学 特務准教授 西川 浩樹
 ファシリテーター がん専門看護師 上田 育子

令和2年度「5大学連携学生短期研修プログラム」 開催報告

開催日: 令和2年12月2日(水)

会場: Zoomによるオンライン開催

プログラム: 第I部 講義
第II部 ワークショップ

主催: 滋賀医科大学



総合司会: 醍醐 弥太郎
(臨床腫瘍学講座 教授)

「学生短期研修プログラム」は、連携大学間での取組事業として、5大学からがんプロ履修生を選抜し、合同研修(今年度はオンライン開催により1日で実施)に参加させ、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図りました。

第I部 講義 9:50-14:00 (研修参加者35名)

講義① 『がん緩和領域の放射線治療』
 司会: 放射線医学講座 教授 渡邊 嘉之
 講師: 放射線医学講座 講師 河野 直明

講義② 『ファーマコゲノミクス検査によるがん薬物療法の個別化』
 司会: 外科学講座(消化器・乳腺・一般外科) 教授 谷 眞至
 講師: 医学部附属病院薬剤部 薬剤師 野田 哲史

講義③ 『小児がん治療と妊孕性温存』
 司会: 小児科学講座 教授 丸尾 良浩
 講師: 小児科学講座 病院教授 多賀 崇

第II部 ワークショップ 14:30-15:30

(定員制によるライブ配信:同時開催/研修参加者15名)

WS① AYA(思春期・若年成人)世代がん患者の包括的ケアを考える
 外科学講座(消化器・乳腺・一般外科) 助教 河合 由紀
 ファシリテーター: 医学部附属病院腫瘍センター がん看護専門看護師 木村 由梨

WS② 精神症状への対応が必要であった緩和ケアの症例
 医学部附属病院腫瘍センター/精神医学講座 特任講師 森田 幸代
 ファシリテーター: 医学部附属病院腫瘍センター 緩和ケアチーム看護師 林 駒紀

WS③ 心理社会的問題に配慮したがんゲノム医療における結果開示
 臨床腫瘍学講座 特任講師 寺本 晃治
 ファシリテーター: 医学部附属病院遺伝相談科 認定遺伝カウンセラー 勝元 さえこ

令和3年度 5大学連携医療フォーラム 開催報告

「5大学連携医療フォーラム」は、京都大学がんプロ拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学）が、毎年、医療関係従事者、教育研究者、学生を対象として、高度がん医療を先導するがん医療人養成を目指し、また、がん医療の一層の発展のために開催しています。

今年度は、京都薬科大学が当番校として『がん患者や家族の視点を反映した教育内容』をテーマに、第Ⅰ部「特別講演」と第Ⅱ部「がんプロ履修生による研究成果発表」と第Ⅲ部「各大学の取組と成果について」を行いました。



【A3ポスター】

開催日：令和3年9月3日(金) 14：10～18：15

場所：オンライン会議形態（Zoom利用）

プログラム：第Ⅰ部 特別講演

第Ⅱ部 がんプロ履修生による研究成果発表

第Ⅲ部 各大学の取組と成果について

*新型コロナウイルス感染症拡大の懸念からオンライン開催



【総代会】
京都薬科大学
猪瀬 諒



【開会挨拶】
京都大学 事業推進責任者
武藤 学

第Ⅰ部 特別講演

【司会】京都薬科大学 臨床薬理学分野

教授 中田 徹男

講演者：国立国際医療研究センター病院 乳腺・腫瘍内科 診療科長
がん総合センター 副センター長 清水 千佳子

演 題：『AYA世代がんを通じたがん医療人の養成』



【特別講演】
清水 千佳子

第Ⅱ部 がんプロ履修生による研究成果発表

【司会】京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター

講師 中村 暢彦

- | | | | |
|---------------|--|------------|--------|
| 発表者1：京都大学 | 婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース | 博士課程4年 | 宮本 泰斗 |
| 発表者2：京都大学 | 小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース | 第3期がんプロ履修生 | 三上 貴司 |
| 発表者3：京都大学 | 希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース | 博士課程4年 | 武野 慧 |
| 発表者4：京都大学 | がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成 | 修士課程2年 | 篠原 有紀 |
| 発表者5：京都大学 | ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース | R3.3月修了生 | 小柳 円花 |
| 発表者6：三重大学 | ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース | 博士課程4年 | 大森 千輝 |
| 発表者7：滋賀医科大学 | ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース | 博士課程3年 | 磯野 哲一郎 |
| 発表者8：大阪医科薬科大学 | ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース | 博士課程4年 | 児玉 紘幸 |
| 発表者9：京都薬科大学 | ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬学師養成コース | 博士課程3年 | 杉山 雄輝 |
| 発表者10：京都薬科大学 | ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬学師養成コース | 博士課程3年 | 安藤 翔太 |

第Ⅲ部 各大学の取組と成果について

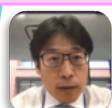
【司会】京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学

教授 武藤 学

- | | | |
|---|------|-------|
| 大学報告者1：京都大学大学院 医学研究科 放射線腫瘍学 画像応用治療学 | 教授 | 溝脇 尚志 |
| 大学報告者2：三重大学大学院 医学系研究科 先進がん治療学講座 先進がん治療学 | 教授 | 野本 由人 |
| 大学報告者3：滋賀医科大学 臨床腫瘍学講座 | 教授 | 醍醐弥太郎 |
| 大学報告者4：大阪医科薬科大学 化学療法センター長 | 特務教授 | 後藤 昌弘 |
| 大学報告者5：京都薬科大学 臨床薬理学分野 | 教授 | 中田 徹男 |

令和2年度『5大学連携医療フォーラム』開催報告

開催日：令和2年9月18日（金）13:30～14:55
 場所：オンライン会議形態（Zoom利用）
 プログラム：第Ⅰ部 特別講演
 第Ⅱ部 パネルディスカッション
 ※新型コロナウイルス感染症拡大の懸念からオンライン開催



総合司会 細木誠之
 (京都薬科大学)



開会挨拶 醍醐弥太郎
 (滋賀医科大学)



「5大学連携医療フォーラム」は、京都大学がんプロ拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学）が、毎年、医療関係従事者、教育研究者、学生を対象として、高度がん医療を先導するがん医療人養成を目指し、また、がん医療の一層の受持つ・発展を進めるため開催しています。
 今年度は、『がん患者や家族の視点を教育内容に反映』をテーマに、第Ⅰ部「特別講演」と第Ⅱ部「パネルディスカッション」を行いました。

第Ⅰ部 特別講演

講演者：特定非営利活動法人 がんと共に生きる会 副理事長 濱本 満紀
 演題：『適切ながん情報の活用とより良いコミュニケーション
 ～患者にもできること、医療者にしかできないこと』

（司会）大阪医科大学 附属病院 化学療法センター
 センター長・准教授 後藤 昌弘



第Ⅱ部 パネルディスカッション

司会進行：滋賀医科大学 医学系研究科 外科学講座 教授 谷 眞至
 パネリスト1：京都大学医学研究科 婦人科学・産科学分野 教授 万代 昌紀
 パネリスト2：三重大学医学部附属病院 小児トータルケアセンター 准教授 岩本 彰太郎
 パネリスト3：滋賀医科大学医学系研究科 臨床腫瘍学講座 特任講師 寺本 晃治
 パネリスト4：大阪医科大学附属病院 化学療法センターセンター長・准教授 後藤 昌弘
 パネリスト5：京都薬科大学薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 講師 中村 暢彦



谷 眞至
 (滋賀医科大学)



万代 昌紀
 (京都大学)



岩本 彰太郎
 (三重大学)



寺本 晃治
 (滋賀医科大学)



後藤 昌弘
 (大阪医科大学)



中村 暢彦
 (京都薬科大学)

令和3年度『がんプロ合同シンポジウム』開催報告

開催日：令和3年7月10日（土）14:00～16:45
 場所：オンライン会議形態（Zoom利用）
 プログラム：第Ⅰ部 特別講演
 第Ⅱ部 パネルディスカッション
 ※新型コロナウイルス感染症拡大の懸念からオンライン開催

主催：がんプロ「高度医療を先導するがん医療人養成」

令和3年度
がんプロ合同シンポジウム
 テーマ「患者・市民とがんプロの交流」

開催日時：令和3年7月10日 14:00～16:30（所要時間150分）
 開催方式：オンライン開催（Zoom利用によるWeb配信）
 申込方法：下記Googleフォームよりお申し込みください。事務局よりZoom接続IDをお送りします。
<https://forms.gle/kazGGDkxSRWp9N4A>
 申込締切：7月8日（木）15:00

総合司会 京都大学 医学部医学科 内科学講座 腫瘍薬物治療学 教授 武藤 学

【第Ⅰ部】特別講演 14:00～15:15
 聴衆からみたがん遺伝子パネル検査と癌治療
 特定非営利活動法人 パンキャンジャパン 理事長 眞島 喜幸
 京都大学 医学部医学科 内科学講座 腫瘍薬物治療学 教授 武藤 学

【第Ⅱ部】パネルディスカッション 15:15～16:30
 テーマ「がん遺伝子パネル検査、遺伝性腫瘍を考える」
 京都大学 医学部医学科 内科学講座 腫瘍薬物治療学 教授 武藤 学
 三重大学医学部附属病院 ゲノム医療部 准教授 奥川 喜永
 一般社団法人 ゲノム医療当事者団体連合会 理事長 太宰 牧子
 三重大学医学部附属病院 がんセンター センター長（腫瘍内科 准教授）水野 総朗
 京都大学 医学部医学科 内科学講座 腫瘍薬物治療学 教授 武藤 学
 大阪医科大学 医学部附属病院 化学療法センター長 特務教授 後藤 昌弘
 京都大学 医学部医学科 人間科学健康科学専攻 修士課程2年 篠原 有紀
 京都薬科大学 がんプロ履修生 薬学専攻 博士課程4年 友金 眞光



【総合司会】
京都大学
コーディネーター
満協 尚志

「がんプロ合同シンポジウム」は、京都大学がんプロ拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学）の目的である「高度がん医療を先導するがん医療人養成を達成するため、がん患者様やご家族様の視点からの声を伺い、包括的なケアに向けてのがん医療教育を考えていくためのもので、医療従事者だけでなく広くご参加を募って開催しました。

今年度は、『患者・市民とがんプロの交流』をテーマに、第Ⅰ部「特別講演」と第Ⅱ部「パネルディスカッション」を行いました。



【開会の挨拶】
事業推進責任者
武藤 学

第Ⅰ部 特別講演

（司会1）滋賀医科大学 臨床腫瘍学講座

教授 醍醐 弥太郎

講演者1：特定非営利活動法人 パンキャンジャパン

理事長 眞島 喜幸

演 題：『患者からみたがん遺伝子パネル検査と癌治療』



【特別講演1】
眞島 喜幸



【司会1】
醍醐 弥太郎

（司会2）三重大学医学部附属病院がんセンター

センター長（腫瘍内科 准教授）水野 総朗

講演者2：一般社団法人 ゲノム医療当事者団体連合会

特定非営利活動法人 クラヴィスアルクス

理事長 太宰 牧子



【特別講演2】
太宰 牧子



【司会2】
水野 総朗

演 題：『市民・患者からみた遺伝性腫瘍と社会』

第Ⅱ部 パネルディスカッション

テーマ『がん遺伝子パネル検査、遺伝性腫瘍を考える』

第Ⅱ部では、まず各大学の取組みについて紹介があり、それに対し活発な意見が出されました。その後、司会から医療従事者としてだけでなく、患者様、ご家族という様々な立場を想定した問題提起があり、第Ⅰ部の講演を踏まえて様々な問題点や悩みを検討し、議論がありました。たいへん充実した議論で、予定時間を大幅に過ぎてても多くの聴衆の方が残って耳を傾けてくださいました。

司会：京都大学 医学研究科 内科学講座 腫瘍薬物治療学

教授 武藤 学

司会：三重大学医学部附属病院 ゲノム医療部

教授 奥川 喜永



【司会】
武藤 学



【司会】
奥川 喜永

パネリスト1 特定非営利活動法人 パンキャンジャパン

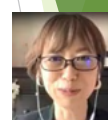
理事長 眞島 喜幸



【パネリスト1】
眞島 喜幸

パネリスト2 一般社団法人 ゲノム医療当事者団体連合会

特定非営利活動法人 クラヴィスアルクス 理事長 太宰 牧子



【パネリスト2】
太宰 牧子

パネリスト3 三重大学医学部研究科看護学専攻 実践看護学領域 がん看護学分野

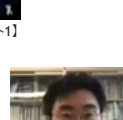
准教授 坂口 美和



【パネリスト3】
坂口 美和

パネリスト4 滋賀医科大学 医学部附属病院・薬剤部

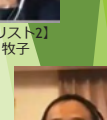
准教授 森田 真也



【パネリスト4】
森田 真也

パネリスト5 大阪医科大学 化学療法センター長

特務教授 後藤 昌弘



【パネリスト5】
後藤 昌弘

パネリスト6 京都大学がんプロ履修生 医学研究科 人間科学健康科学専攻

修士課程2年 篠原 有紀



【パネリスト6】
篠原 有紀

パネリスト7 京都薬科大学がんプロ履修生 薬学専攻

博士課程4年 友金 眞光



【パネリスト7】
友金 眞光

評価結果表（取りまとめ）

1. 各項目評価

※ 採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5
【教育プログラムコース】							
	1	各コースの受入目標人数に対する入学人数、充足率を満たすための取組み	A	B	A	A	A
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	A	B	A	A	A
	3	コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか	A	A	A	A	A
	4	がんにて化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況	A	A	B	A	A
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	A	A	A	A	A
	6	医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数	A	A	C	A	A
	7	多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数、	A	A	B	A	B
	8	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績	A	A	B	A	B
	9	コース履修者の医療チーム・カンサーボードの開催数、期間等	A	A	A	A	A
	10	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	A	A	B	A	A
	11	コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数	A	A	A	A	A
	12	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	A	A	A	A	A
	13	コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	A	A	A	A	A
	14	コース履修者の国際学会等への参加者数	A	A	B	A	B
	15	コース履修者が国内学会等への参加者数	A	A	A	A	A
【シンポジウムやセミナー等の実施】							
	16	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	A	A	A	A	A
	17	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	A	A	A	A	A
	18	インテグレーション事業を活用した地域医療貢献の推進状況	A	A	A	A	A
【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】							
	19	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	A	B	A	A	B
	20	国際交流プログラムの実施数	A	B	C	A	B
	21	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	B	B	C	A	B
【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】							
	22	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	A	A	A	A	A
	23	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	A	A	A	A	B
	24	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	A	B	A	A	B
	25	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	A	B	A	A	B
【事業の運営体制（実施、評価、連携）】							
	26	連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制	A	A	A	A	B
	27	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	A	A	B	A	B
	28	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	A	A	A	B	B
	29	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	A	A	A	A	A
	30	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率	B	B	A	B	A
	31	新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて	A	B	C	B	A
	32	主幹大学での事業支援事務組織体制	A	A	A	A	B

※ 採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

区分	項目 番号	達 成 目 標 (評 価 項 目)	評価 1	評価 2	評価 3	評価 4	評価 5
【事業の普及】							
	33	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	A	A	A	A	B
	34	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	A	A	A	A	B
	35	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	A	B	A	A	B
	36	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	A	A	A	A	B
	37	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	A	A	A	A	B
	38	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	A	A	A	A	A
	39	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	A	A	A	A	A

2. 講 評

講 評 (評価 1)
令和2～3年度もコロナ禍での事業遂行は困難であったと拝察するが、オンラインを活用するなどして、事業全体としてはおおむね順調に遂行されている。コース履修者が関与したプロトコル作成件数(11)および国内学会、和雑誌への研究論文発表数(13)は、全体の件数は減少していたが、コロナ禍の影響を考慮して評価はAのままとした。海外で活躍している研究者の講演会開催数(21)およびe-learning受講登録率(30)の登録者は、いずれも増加がみられず前年度と同じB評価とした。 5年間全体を通して、京都大学が牽引することで活発な活動を行っており、事業全体として高く評価できる。拠点全体の大学院生の入学実績数は大学間やコース間でのばらつきがあるが、目標人数をほぼ達成している。また、資格取得者数は、がんに特化した専門医数が少ないが、目標を上回る実績であった。本事業のテーマである「高度がん医療を先導するがん医療人養成」は事業終了後も各大学で引き続き継続されることを期待する。

講 評 (評価 2)
コロナ禍にありながらも、5大学が連携し多様な工夫をされて、教育、事業の普及に取り組みられた成果を共有させていただく機会をいただき、ありがとうございました。関係された皆様の取り組みに頭が下がります。成果についても具体的な指標で示していただけましたのでプロジェクト全体の様子をよく把握することができました。大学ごとの受け入れ人数や資格取得数などのばらつきがあるものの、5大学がそれぞれの強味を活かして事業展開されているという印象をもちました。 今後も、がん専門医療人の育成、がん医療の専門性の向上にますます貢献されますことを期待しております。

講 評 (評価 3)
5年間の各コースの入学人数は173人で、目標人数の177人をほぼ達成している。がんに関する専門資格の修得者数も142名と目標の100名を大きく上回っており、多くのがん専門の医療職の養成に貢献していることは大きな評価に値する。また、フォーラムやシンポジウムの開催、週一回の合同カンファレンス、キャンサーボードの開催など、コロナ禍の中、オンライン開催で着実に開催し、自大学のみならず他大学の教職員等の技術向上にも貢献している。一方で、コース履修生の国際学会での発表や研究論文の発表数などに大学間差が見受けられる。R2,R3年度は、国際交流プログラムの開催や海外で活躍している研究者を講師とした開催数が目標に達していないが、オンラインでの開催など、工夫があればもっと良かったと考える。ITやテレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスの開催など、本事業の地域がん医療の質向上への波及的効果が期待できる。

講 評 (評価 4)
新型コロナウイルス感染症による集合研修等の困難さの中でも各プログラムコースの受け入れ人数や専門医取得数は確保され、教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントも活発に開催されるなど順調に活動が遂行されています。 各大学が運営するがん患者会等のネットワークを活用し、がん患者や家族の視点からの声を吸い上げ、がん患者、患者家族、患者会、医療従事者、がんプロ履修生、その他関係者による「がんプロ合同シンポジウム」を実施して包括的なケアに向けてのがん医療教育につなげるなど、人材育成に資する主幹校と連携校との共通の教育基盤も順調に形成され、高いレベルでのコンソーシアムの運営が実現されています。 更なる改善が必要な項目も若干残っていますが、高い質的レベルでの運営がなされています。

講 評 (評価 5)
日本を代表する高度がん医療を先導する医療人の育成への取組みは、京都大学を主幹とする5大学が連携協力しながら進められている。今回の事業年度(令和2年度、令和3年度)の事業は、参加大学の医療施設がコロナ感染による深刻な影響を受けたことから、一部の事業推進が不可能となり、かつ他の事業にも支障が出たが、全体的には参加校間と地域連携のIT化が進み、コロナパンデミックに負けることなく、活発ながんプロ教育事業が進められたことは高く評価できる。 前回指摘された e-learningについては、がんプロHPのデザイン刷新、バナーボタンの改善などを施したことにより、受講登録率が令和2年の69%から令和3年の77%に向上したことは高く評価できる。 また、市民公開講座などは、HPで紹介されるだけでなく、オンデマンド配信されており、本がんプロの広報がリーチできる裾野が大きく広がったことは高く評価したい。全般的にHPが改訂され見やすくなったことは評価したい。京都薬科大学の市民公開講座のチラシには、利用者の利便性を考慮して、事前申込用にURLとQRコードが併記されていた点は高く評価できる。 この5年間で、5大学連携がんプロの事業は順調に進んできており、設定された目標以上の多数の履修者を輩出したことは高く評価でき、かつ、資格取得者数も目標値を超えた点も高く評価できる。国内外の学会、イベント関係ではコロナの影響から、海外の学会参加、海外との交流はオンラインでの参加以外は無可能な状況が続いているが、本事業では早々にオンライン設定に切替えて対応している点は評価したい。 今後、急激に進化するメディカルサイエンスの最新技術への教育プログラムを継続的に開発することを期待する。また、ゲノム医療、希少がんや小児がん、ライフステージにあわせたがん医療、核医学とセラノスティックス、リキッドバイオプシー、がん研究とオミックス解析などに対応できる医療人の育成を進め、がん患者の予後の改善やQOLを高め、社会に貢献していただきたい。がんプロ事業は、社会のニーズにマッチしたとても重要な活動なので、WEBの情報公開を積極的に進め、がんプロ事業の役割について社会の理解を深めていただきたい。非常にレベルの高い「がんプロ事業」だと認識している。 (追記:改訂等が可能なら、大阪医科薬科大学大学の公開講座・セミナーのリンクが接続されていない部分を修正していただくことにより精度が高まると思われる。また、滋賀医科大学の市民公開講座の申込方法は、メール、電話、FAX、病院窓口となっており、チラシ裏面にある申込用紙を印刷し、必要事項を書き入れてFAX送信することを求めている。IT利用が不得意な層に寄り添った設定だが、HPのアクセスは現在スマホが主流となっているため、スマホからも申込できるとさらに利便性が高まると思われる。)

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

高度がん医療を先導するがん医療人養成

京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学

京都大学医学研究科 **がんプロフェッショナル養成プラン事務局**

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

TEL 075-753-4654 FAX 075-751-2180

E-mail 060ganpro@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp